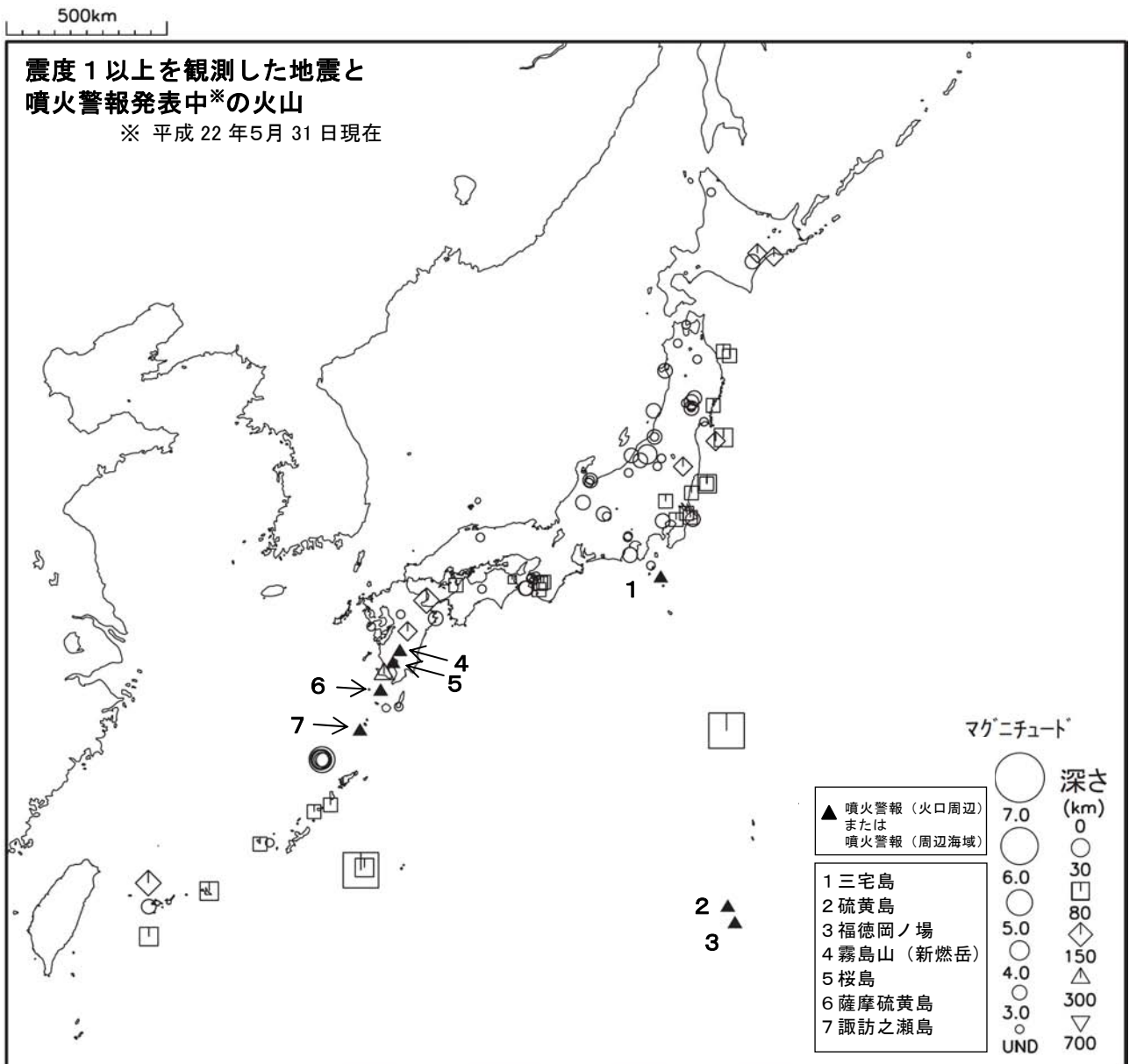


平成 22 年 5 月 地震・火山月報(防災編)

Monthly Report on Earthquakes and Volcanoes in Japan

May 2010



気 象 庁

Japan Meteorological Agency

利用にあたって

本書は、地震・火山に関連した各種防災情報や地震・火山活動に関する分析結果の最新版を防災機関等における効果的な利用に供するため、毎月刊行している。

気象庁では、平成 9 年 11 月 10 日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体及び独立行政法人防災科学技術研究所*から提供されたものも震度情報として発表している。

また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成 9 年 10 月 1 日より、大学や独立行政法人防災科学技術研究所等の関係機関から地震観測データの提供を受け**、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

なお、地震・火山観測データの整理結果については、本編の姉妹編の「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載している。

本誌で使用している震源位置・マグニチュードは世界測地系（Japanese Geodetic Datum 2000）に基づいて計算したものである。

注* 秋田県、埼玉県、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、横浜市（神奈川県）（以上 1 府 8 県、1 政令指定都市は平成 9 年 11 月 10 日から発表）、群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県及び愛媛県（以上 6 県は平成 10 年 6 月 15 日から発表）、青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県（以上 1 府 11 県は平成 10 年 10 月 15 日から発表）、東京都、長野県（以上 1 都 1 県は平成 11 年 7 月 21 日から発表）、栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）（以上 3 県、1 政令指定都市は平成 12 年 1 月 12 日から発表）、滋賀県（平成 12 年 3 月 28 日から発表）、富山県、香川県、大分県（以上 3 県は平成 12 年 7 月 18 日から発表）、佐賀県（平成 13 年 3 月 22 日から発表）、山梨県、川崎市（神奈川県）（以上 1 県、1 政令指定都市は平成 13 年 5 月 10 日から発表）、高知県（平成 13 年 7 月 19 日から発表）、福島県（平成 13 年 12 月 12 日から発表）、岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）（以上 4 県、1 政令指定都市は平成 14 年 3 月 20 日から発表）、北海道、長崎県（以上 1 道 1 県、平成 14 年 7 月 29 日から発表）、沖縄県（平成 15 年 3 月 10 日から発表）の 47 都道府県、4 政令指定都市と独立行政法人防災科学技術研究所（平成 16 年 5 月 26 日から発表）。

注**平成 22 年 5 月 31 日現在：独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構による地震観測データを利用している。また、東北大学の臨時観測点（夏油、岩入、鶯沢、石淵ダム）、IRIS の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用している。

□本書利用上の注意

・震央分布図中の語句について

M：マグニチュード

Mw：モーメントマグニチュード

Depth：深さ（km）

UND：マグニチュードの決まらない地震が含まれていることを意味する。

N=XX：図中表示している地震の回数を表す（通常図の右肩上に示してある）

・発震機構解について

本書での発震機構解の図は下半球投影である。また、本書での発震機構解は、特にことわりがない限り、初動による発震機構解である。初動発震機構解が求められない場合や、十分な精度が得られない場合には、初動発震機構解に替えて CMT 解を掲載する場合がある。

・発震機構解の図中の語句について

P：P 軸（圧力軸）

T：T 軸（張力軸）

N：N 軸（中立軸）

・Global CMT 解について

Global CMT 解は、米国のコロンビア大学とハーバード大学で行っている、世界で発生した規模の大きな地震の CMT 解を求めるプロジェクト（Global CMT Project）により求められた解である。

・M-T 図について

縦軸にマグニチュード（M）、横軸に時間（T）を表示した図であり、地震活動の経過を見るために用いる。

・震央地名について

本書での震央地名は、原則として情報発表時に使用したものをを用いるが、震央を精査した結果等により、情報発表時とは異なる震央地名を用いる場合がある。なお、情報発表時の震央地名及びその領域については、各年の「地震・火山月報（防災編）」1 月号の付録「地震・火山月報（防災編）で用いる震央地名」を参照のこと。

・震源と震央について

震源とは地震の発生原因である地球内部の岩石の破壊が開始した点であり、震源の真上の地点を震央という。

・地震の震源要素等について

地震の震源要素、発震機構解、震度データ等は、再調査後、修正することがある。確定した値、算出方法については「地震・火山月報（カタログ編）（CD-ROM）」「地震年報（CD-ROM）」に掲載する。

・火山の活動解説の火山性地震回数等について

火山性地震や火山性微動の回数等は、再調査後、修正することがある。確定した値については、「地震・火山月報（カタログ編）（CD-ROM）」「火山報告（CD-ROM）」に掲載する。

・本書で使用した地図等について

本書中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』、『数値地図 25000（地図画像）』、『数値地図 50000（地図画像）』、『数値地図 10m メッシュ（火山標高）』、『数値地図 50m メッシュ（標高）』、『数値地図 250m メッシュ（標高）』を使用したものである（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

また、震央分布図等に表記した活断層のデータは、「新編日本の活断層」（東京大学出版会、1991）を使用した。

・図版作成には一部 GMT (Generic Mapping Tool [Wessel, P., and W. H. F. Smith, New, improved version of Generic Mapping Tools released, *EOS Trans. Amer. Geophys. U.*, vol. 79 (47), pp. 579, 1998]) を使用した。

目 次

● 日本及びその周辺で発生した主な地震	1
● 東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動	14
● 日本の主な火山活動	25
● 世界の主な地震	35
● 世界の主な火山活動	38
● 付表	
1. 震度 1 以上を観測した地震の表	39
2. 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数	49
3. 日本及びその周辺におけるマグニチュード（M）別の月別地震回数	50
4. 緊急地震速報の提供状況	51
● 正誤表	52

●日本及びその周辺で発生した主な地震

平成 22 年（2010 年）5 月に日本国内で震度 1 以上を観測した地震の回数は 94 回（4 月は 101 回）、日本及びその周辺で発生した M4.0 以上の地震の回数は 67 回（4 月は 85 回）であった。

5 月中に発生した主な地震を表 1 に示す。震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はなかった（4 月もなし）。

表 1 平成 22 年 5 月に日本及びその周辺で発生した主な地震（注 1）

No.	震源時 月 日 時 分	震央地名	M	M H S T (注 3)	最大震度・被害状況等（注 4）	掲載 ページ
1	5 1 18 20	新潟県中越地方	4.9	・ H S ・	4：新潟県 三条市荻堀* など 1 県 9 地点 被害：負傷者 1 人など	6
2	5 3 19 27	鳥島近海	6.1	M ・ ・ ・	2：東京都 小笠原村父島西町 など 1 都 3 地点	13
3	5 13 20 01	国東半島付近（注 5）	4.7	・ ・ ・ ・	3：高知県 宿毛市桜町* など 3 県 5 地点	9
4	5 26 17 53	南大東島近海	6.4	M ・ S ・	4：沖縄県 北大東村中野*	11

注 1) 主な地震とは、図 1 の領域内で発生した①M6.0 以上、②震度 4 以上、③内陸 M4.0 以上かつ震度 3、④海域 M5.0 以上かつ震度 3、⑤その他注目した地震を指す。

注 2) 震源時、震央地名、マグニチュードは再調査後、修正することがある。

注 3) M H S T の各項目について、M:M6.0 以上の地震、H:被害を伴った地震、S:震度 4 以上を観測した地震、T:津波を観測した地震、として該当項目にそれぞれの記号を記した。

注 4) 最大震度の観測点名にある*印は地方公共団体もしくは独立行政法人防災科学技術研究所の震度観測点であることを表す。被害状況は、総務省消防庁による。

注 5) 5 月 13 日 20 時 01 分に発生した国東半島付近の地震については、情報発表に用いた震央地名は「伊予灘」である。

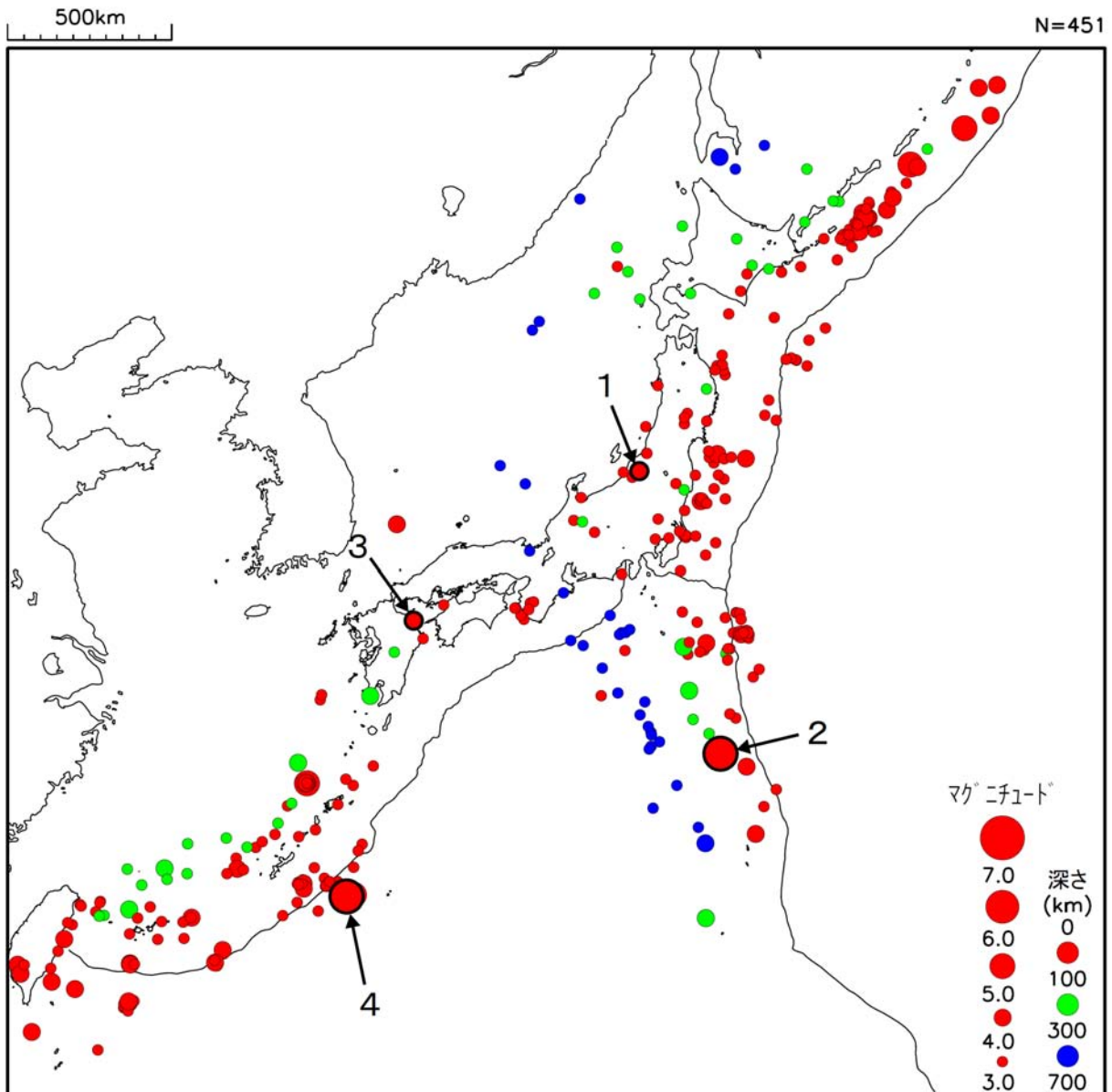
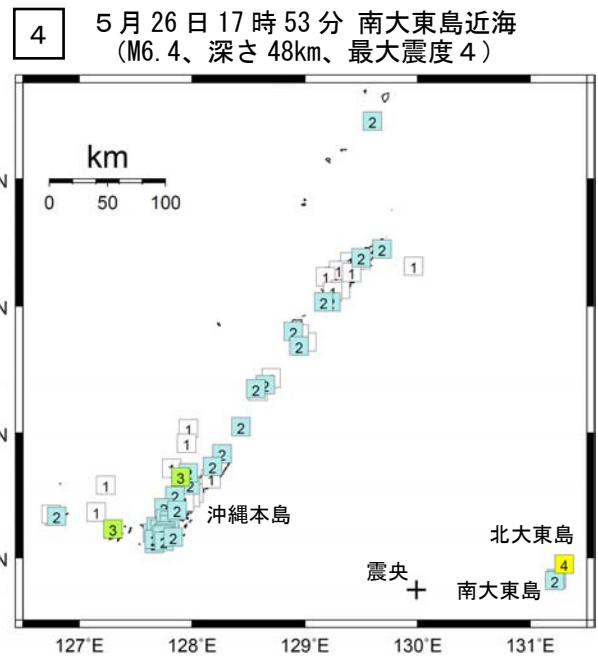
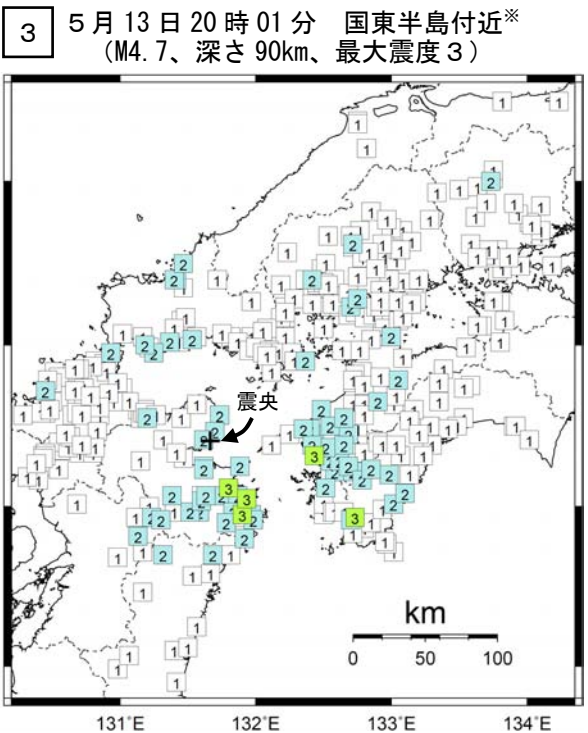
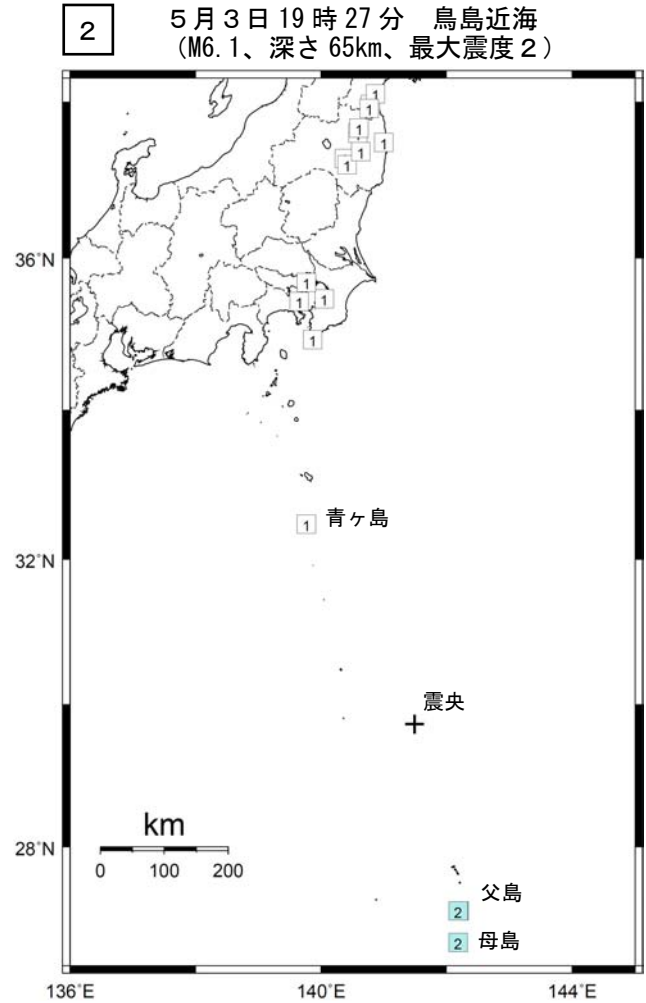
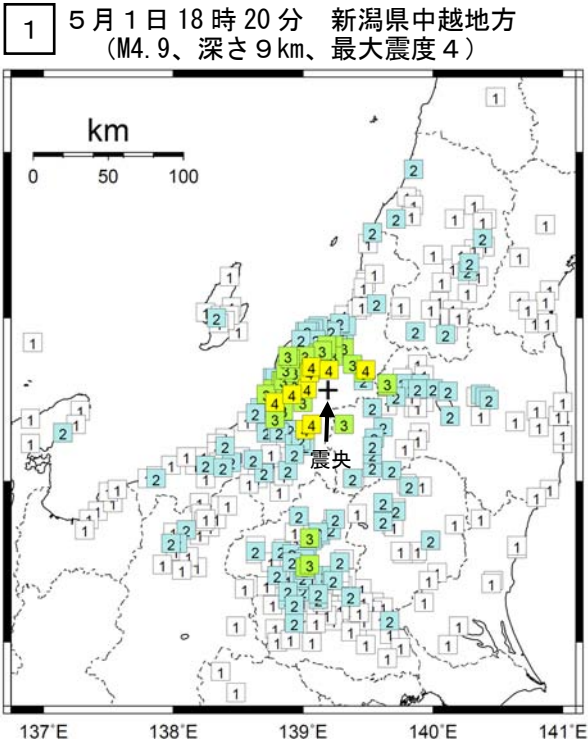


図 1 平成 22 年 5 月に日本及びその周辺で発生した M3.0 以上の地震の震央分布図（図中の数字は表 1 の番号に対応）



※ 情報発表で用いた震央地名は「伊予灘」。

図2 震度分布図（各図の左上の数字は表1、図1の番号に対応する。+印は震央を示す）

○北海道地方の地震活動

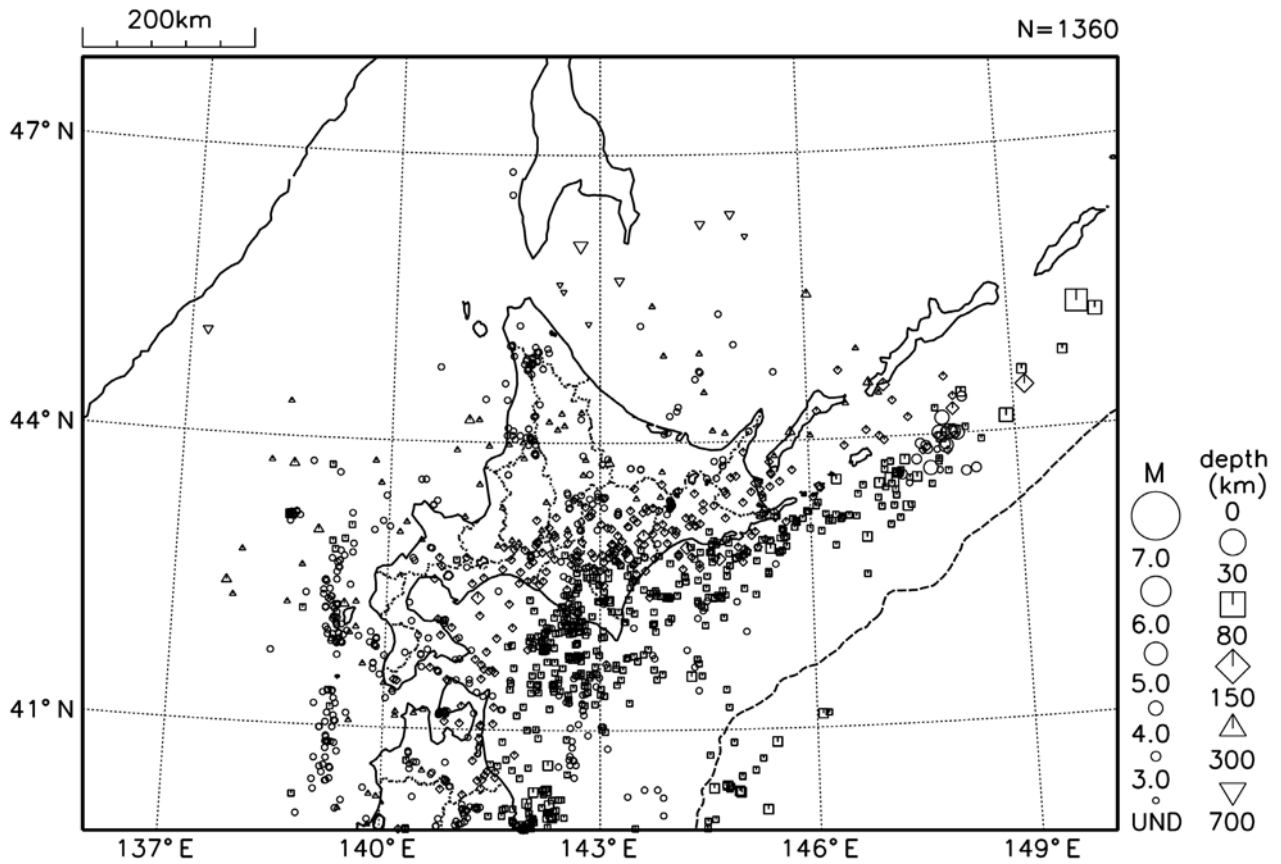


図3 北海道地方の震央分布図（2010年5月1日～5月31日）

〔概況〕

5月に北海道地方で震度1以上を観測した地震は4回（4月は10回）であった。5月中、特に目立った活動はなかった。

○東北地方の地震活動

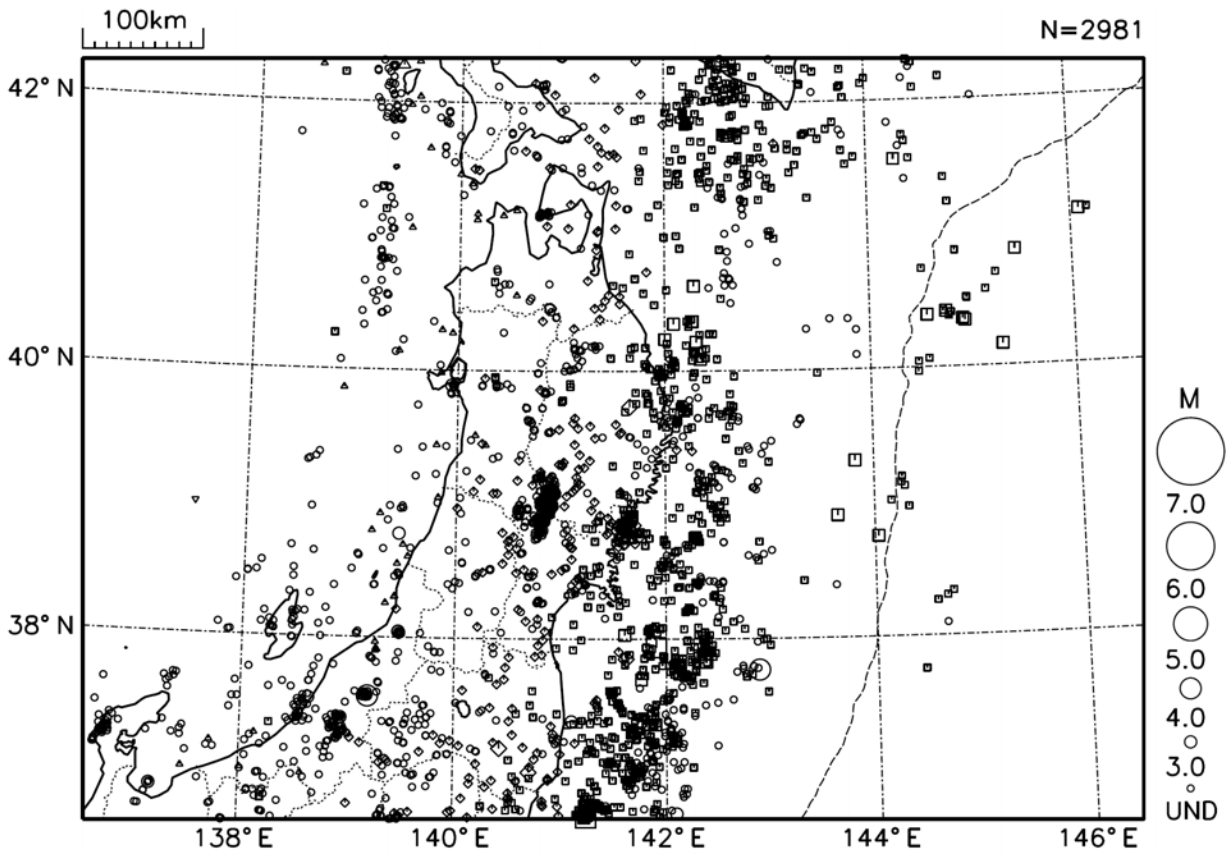


図4 東北地方の震央分布図（2010年5月1日～5月31日）

[概況]

5月に東北地方で震度1以上を観測した地震は29回（4月は26回）であった。
5月中、特に目立った活動はなかった。

○関東・中部地方の地震活動

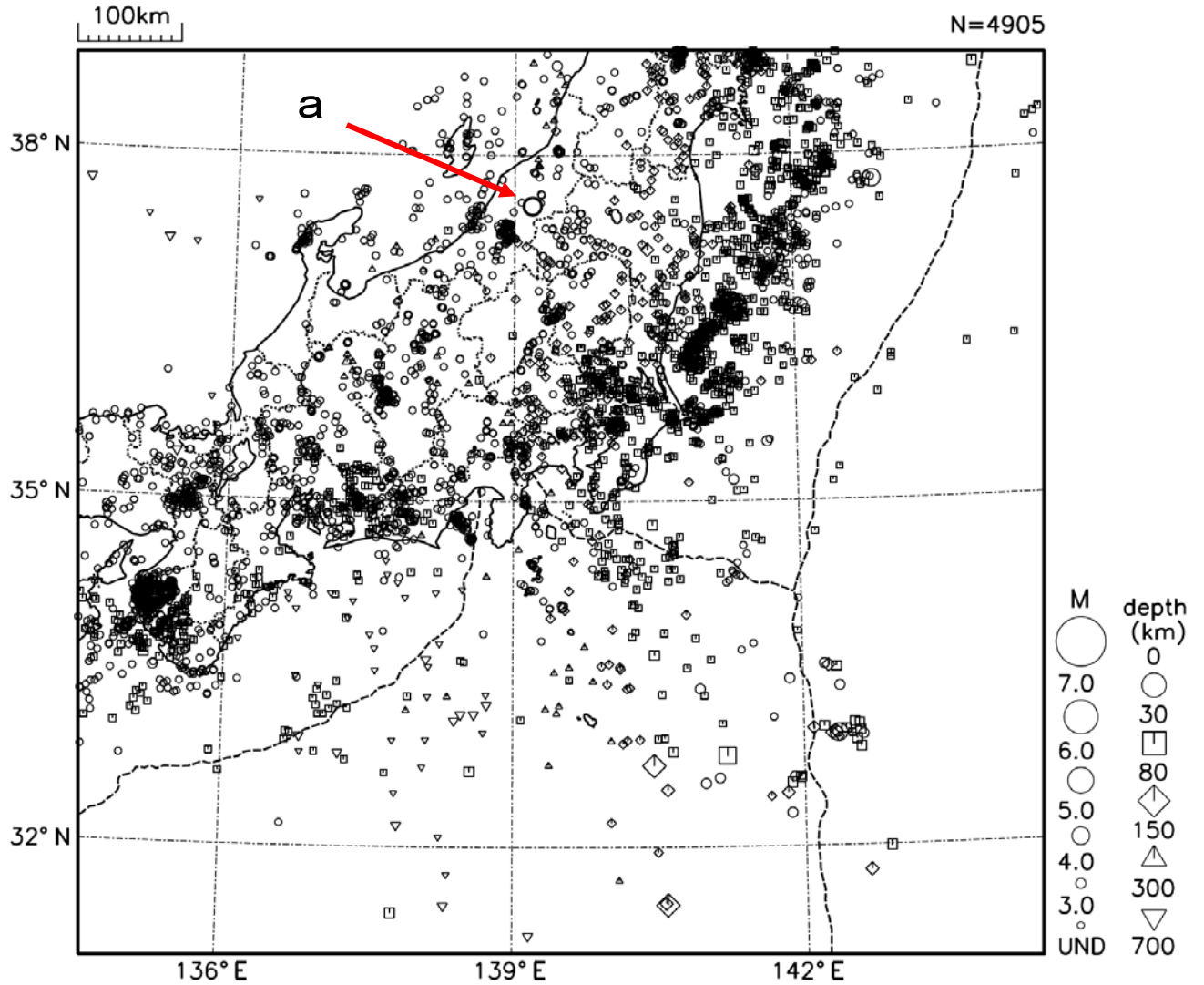


図5 関東・中部地方の震央分布図（2010年5月1日～5月31日）

[概況]

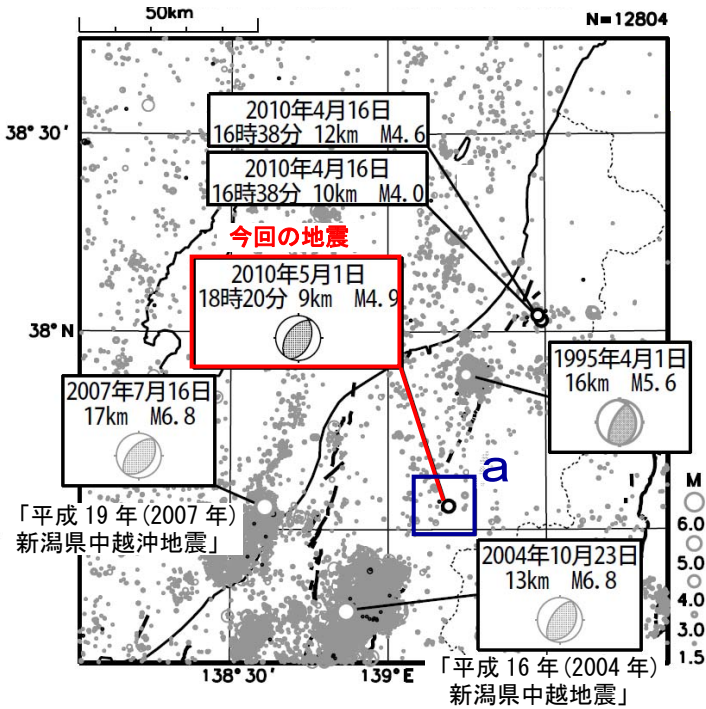
5月に関東・中部地方で震度1以上を観測した地震は29回（4月は37回）であった。5月中の主な活動は次のとおりである。

1日18時20分に新潟県中越地方の深さ9kmでM4.9の地震（図5中のa）が発生し、新潟県で震度4を観測したほか、北陸を中心に、東北地方から関東甲信地方にかけて震度3～1を観測した（p. 6参照）。

3日19時27分に鳥島近海でM6.1の地震（p. 12図9中のa）が発生し、小笠原諸島で震度2を観測したほか、東北と関東の一部で震度1を観測した。（p. 13参照）。

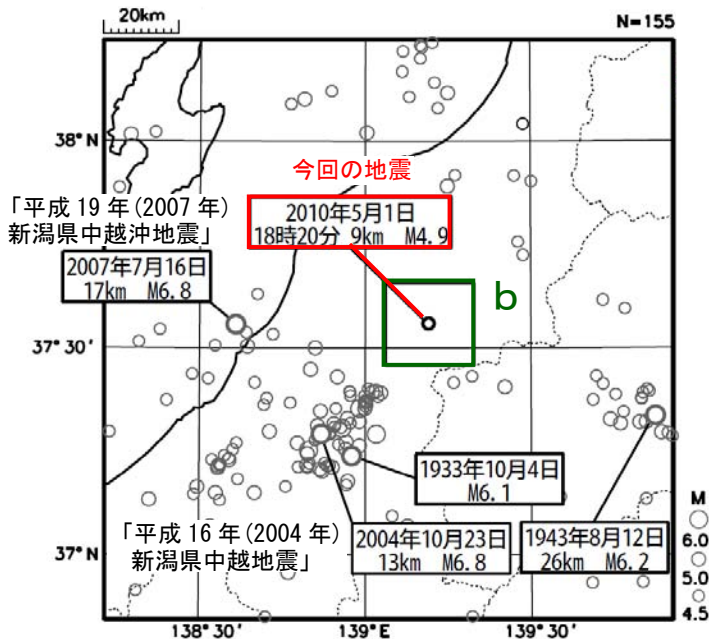
5 月 1 日 新潟県中越地方の地震

震央分布図（1990 年 1 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
深さ 0～30km、 $M \geq 1.5$ ）
2010 年 4 月以降の地震を濃く表示



地図上の太線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表示。

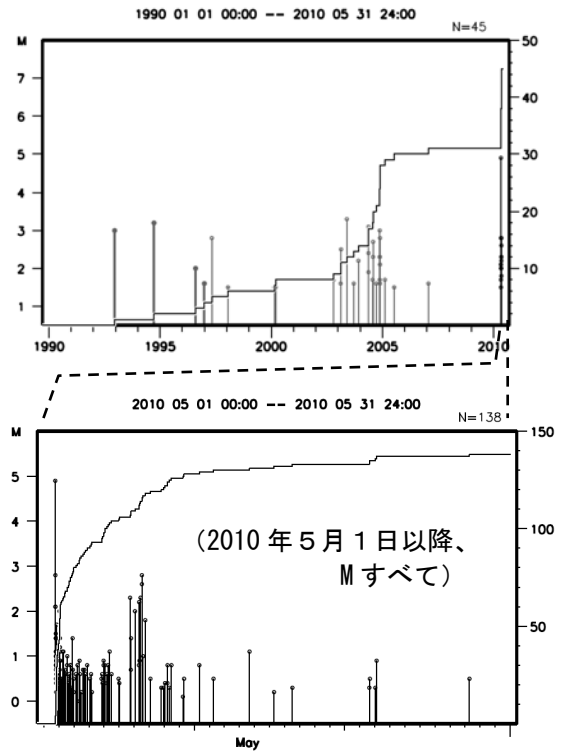
震央分布図（1923 年 8 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
深さ 0～90km、 $M \geq 4.5$ ）



2010 年 5 月 1 日 18 時 20 分に新潟県中越地方の深さ 9 km で $M4.9$ の地震（最大震度 4）が発生した。この地震により負傷者 1 人などの被害が生じている（総務省消防庁による）。今回の地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型で陸域の地殻内で発生した地震である。5 月 31 日現在、余震活動は収まってきている。

1990 年 1 月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域 a）では、 $M4.0$ を超えるような地震は発生していない。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



1923 年 8 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域 b）では、 $M5.0$ を超える地震は発生していない。

○近畿・中国・四国地方の地震活動

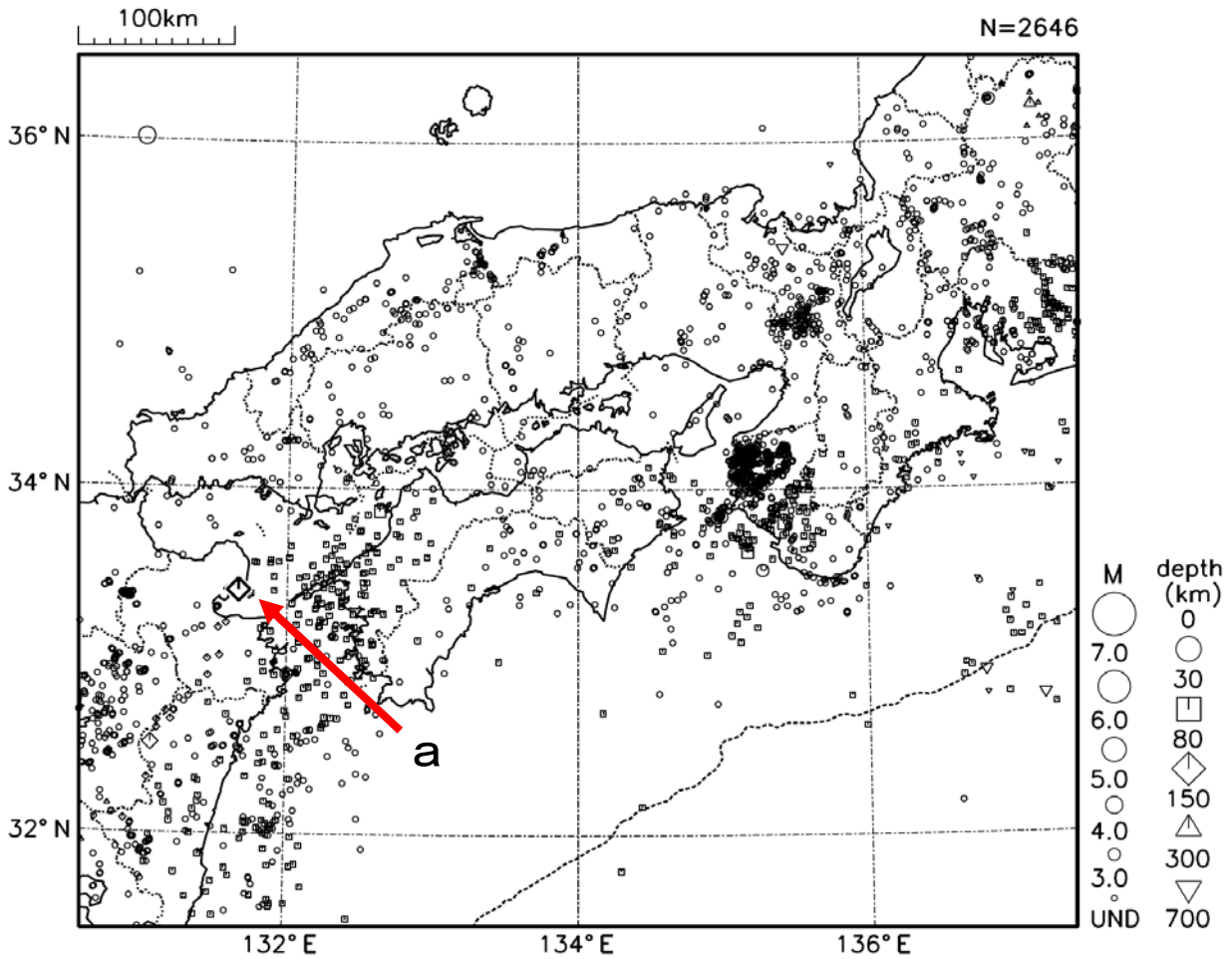


図6 近畿・中国・四国地方の震央分布図（2010年5月1日～5月31日）

[概況]

5月に近畿・中国・四国地方で震度1以上を観測した地震は17回（4月は24回）であった。5月中の主な活動は次のとおりである。

13日20時01分に国東半島付近の深さ90kmでM4.7の地震（図6中のa）が発生し、愛媛県西予市、高知県宿毛市で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方にかけて震度3～1を観測した（p.9参照）。

この地震について、情報発表に用いた震央地名は〔伊予灘〕である。

○九州地方の地震活動

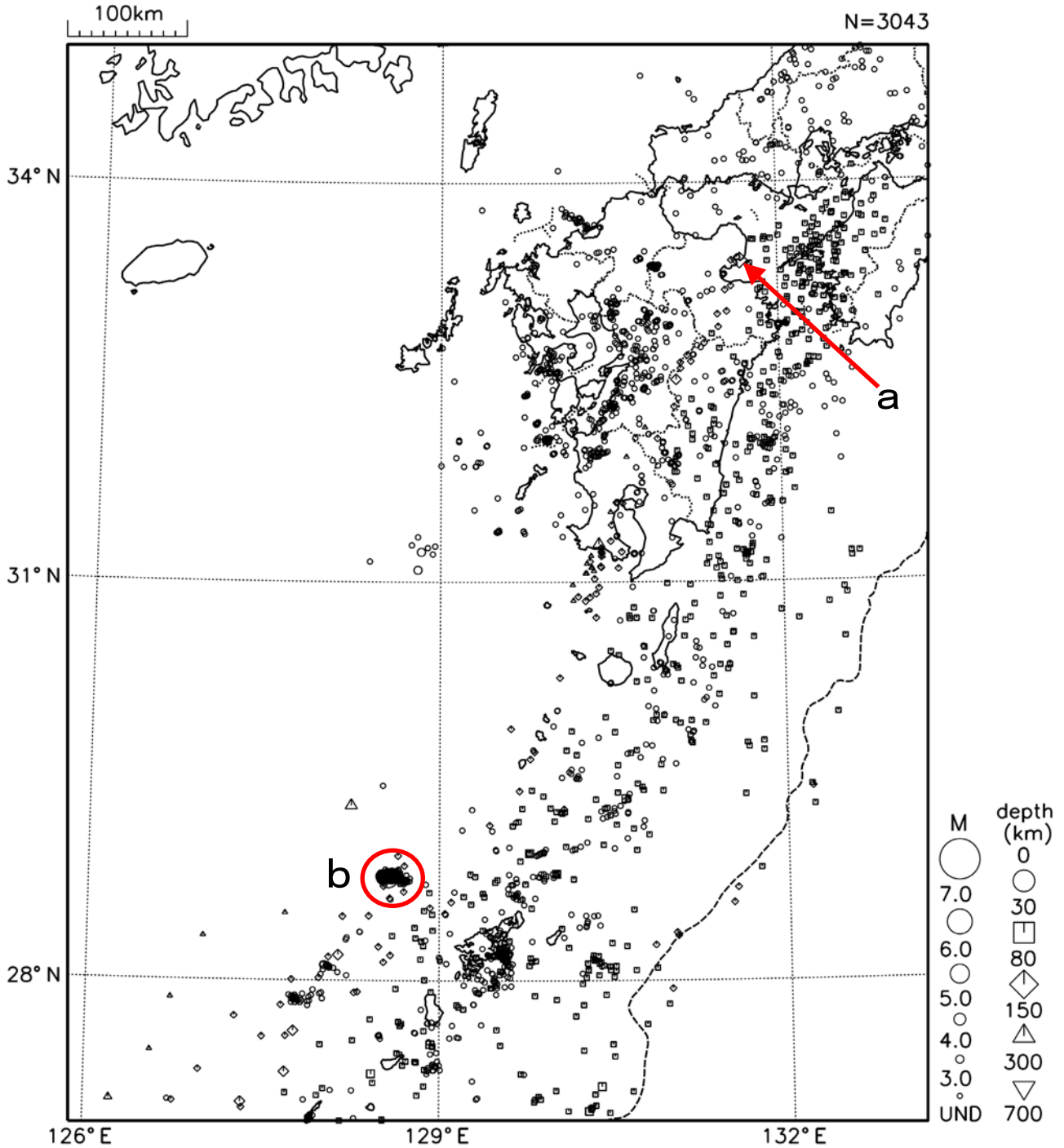


図7 九州地方の震央分布図（2010年5月1日～5月31日）

〔概況〕

5月に九州地方で震度1以上を観測した地震は19回（4月は7回）であった。5月中のおもな活動は次のとおりである。

13日20時01分に国東半島付近の深さ90kmでM4.7の地震（図7中のa）が発生し、大分県の臼杵市、佐伯市などで震度3を観測したほか、九州地方及び中国・四国地方で震度2～1を観測した（p.9参照）。

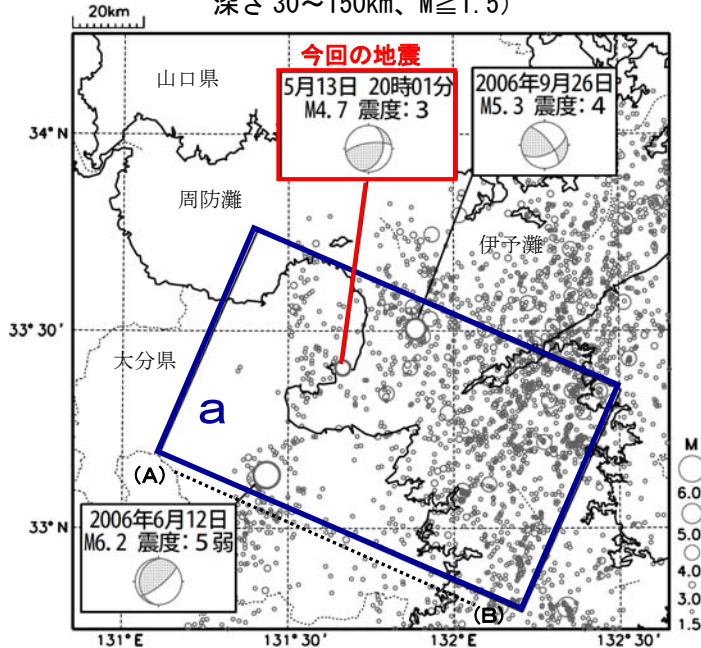
この地震について、情報発表に用いた震央地名は〔伊予灘〕である。

16日から奄美大島北西沖（奄美大島の北西約70km；図7中のb）で、M5.0の地震（16日21時35分、鹿児島県の奄美市で震度2）を最大とする、まとまった地震活動があった。今回の地震活動では、震度2を観測した地震が3回、震度1を観測した地震が6回発生した。

5 月 13 日 国東半島付近の地震

震央分布図

(2000 年 10 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
深さ 30～150km、 $M \geq 1.5$)



情報発表に用いた震央地名は[伊予灘]である。

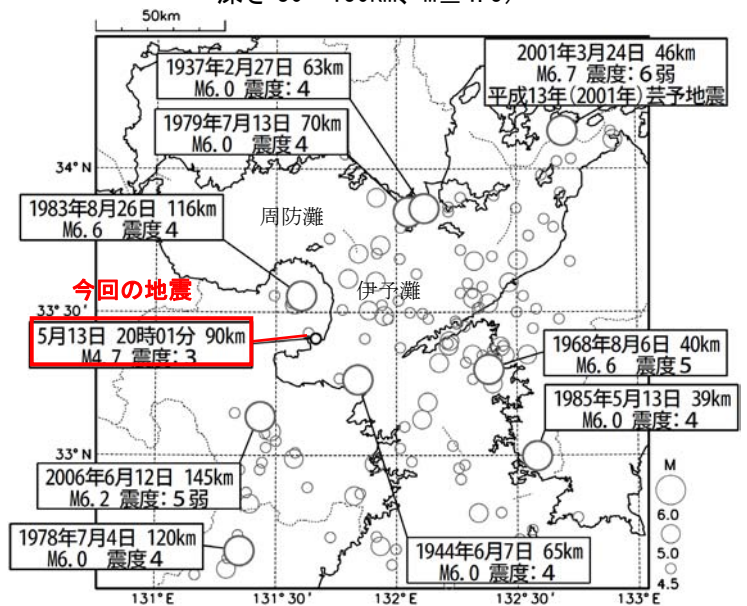
2010年5月13日20時01分に国東半島付近の深さ90 kmでM4.7の地震（最大震度3）が発生した。今回の地震は、フィリピン海プレート内部で発生し、発震機構は北北東-南南西方向に張力軸を持つ型であった。

2000年10月以降の地震活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、2006年9月26日の地震（M5.3、最大震度4）の地震をはじめ、M4.0を超える地震が数回発生している。

1923年の8月以降、今回の地震の震源周辺のフィリピン海プレート内部では、「平成13年（2001年）芸予地震」（最大震度6弱）など、M6.0以上の地震が9回発生している。最近では、2006年6月12日に発生した深さ145kmのM6.2の地震（最大震度5弱）により、広島県、大分県などで、負傷者8人、住宅一部損壊5棟の被害があった（総務省消防庁による）。

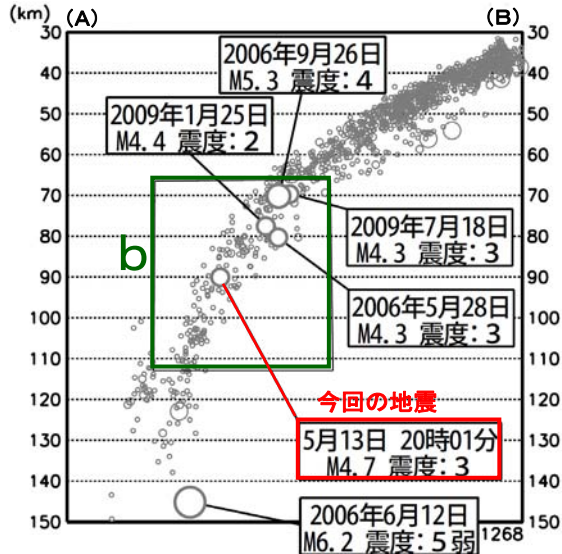
震央分布図

(1923 年 8 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
深さ 30～150km、 $M \geq 4.5$)



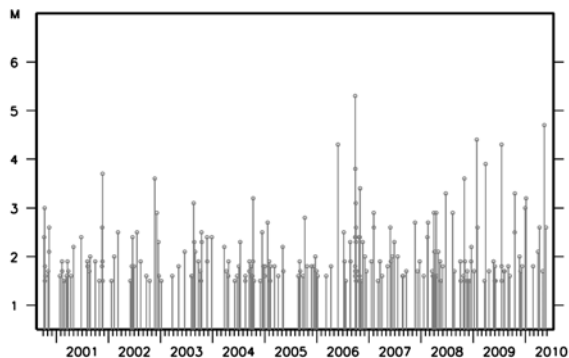
領域 a 内の断面図（A-B 方向）

(2000 年 10 月 1 日～2010 年 5 月 31 日)



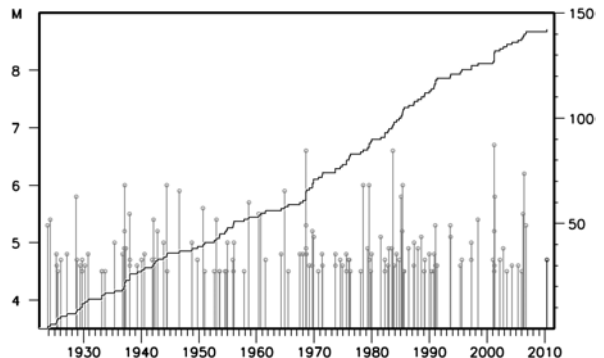
領域 b 内の M-T 図

(2000 年 10 月 1 日～2010 年 5 月 31 日)



M-T 図及び回数積算図

(1923 年 8 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、 $M \geq 4.5$)



○沖縄地方の地震活動

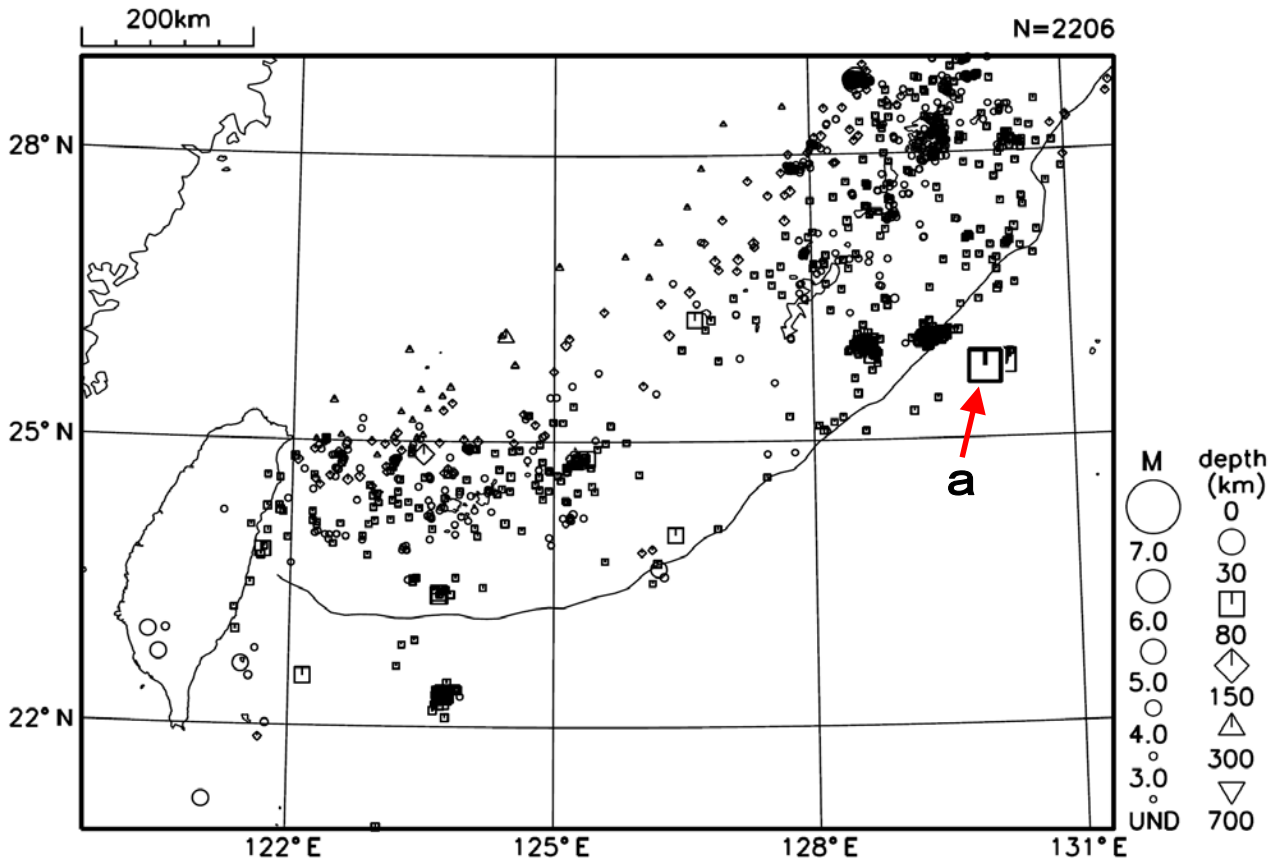


図 8 沖縄地方の震央分布図（2010 年 5 月 1 日～ 5 月 31 日）

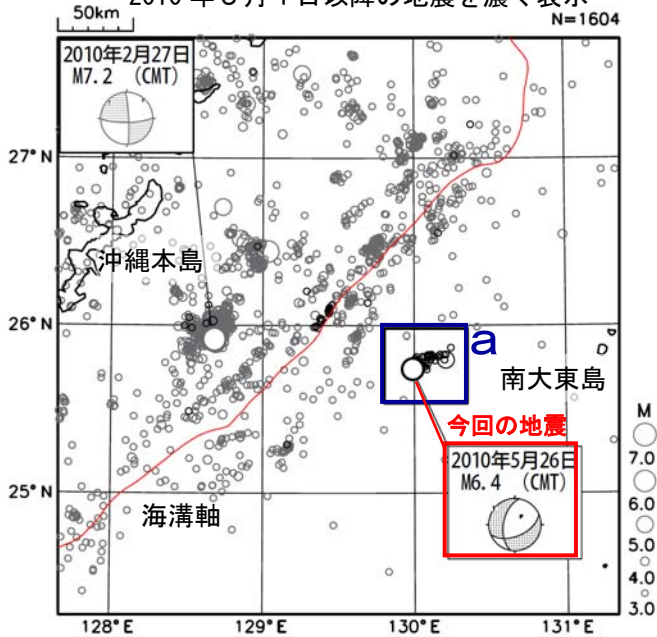
[概況]

5 月に沖縄地方で震度 1 以上を観測した地震は 8 回（4 月は 9 回）であった。
5 月中の主な活動は次のとおりである。

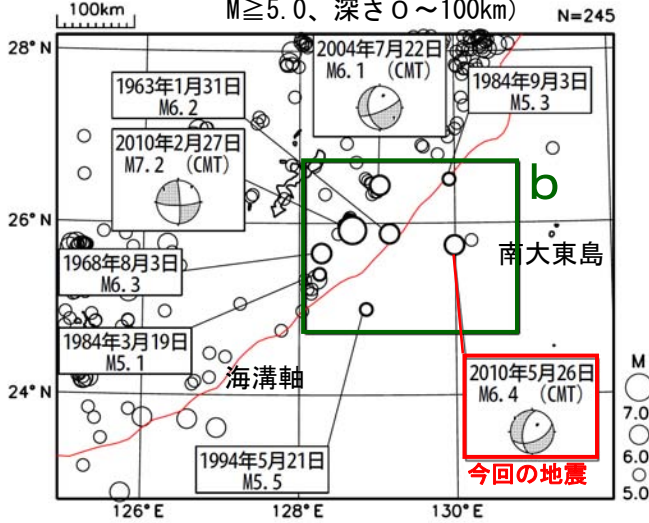
26 日 17 時 53 分に南大東島近海で M6.4 の地震（図 8 中の a）が発生し、北大東島で震度 4 を観測したほか、奄美大島から沖縄本島及び周辺離島にかけて震度 3～1 を観測した（p. 11 参照）。

5 月 26 日 南大東島近海の地震

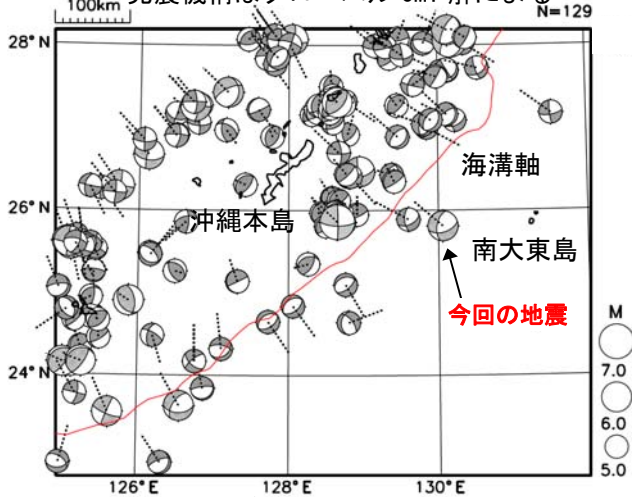
震央分布図（2000 年 7 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
M \geq 3.0、深さ 0～60km）
2010 年 5 月 1 日以降の地震を濃く表示



震央分布図（1960 年 1 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
M \geq 5.0、深さ 0～100km）



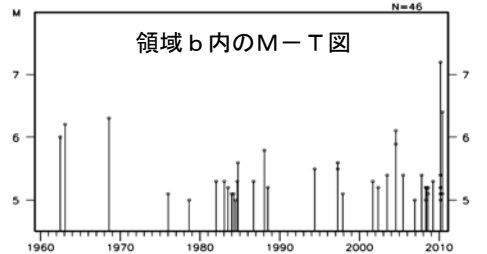
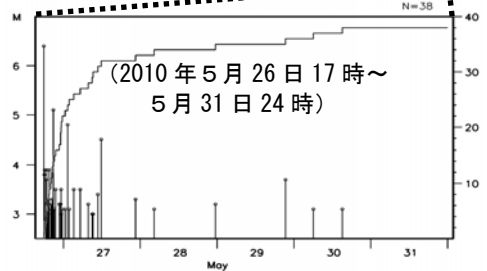
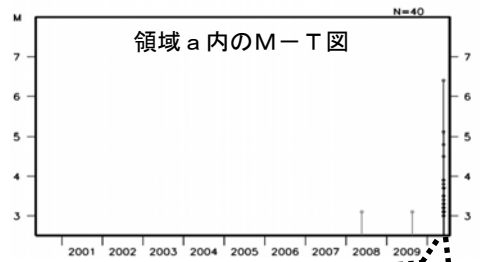
発震機構の分布図
(1978 年以降、M \geq 5.0、深さ 0～100km)
発震機構はグローバル CMT 解による



発震機構から伸びる点線は張力軸の方向を示す

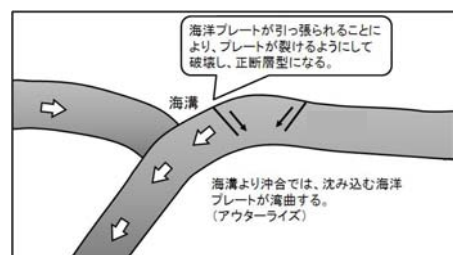
2010年5月26日17時53分に南大東島近海（南大東島の西約120km）でM6.4の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。5月31日までの最大余震は26日20時51分に発生したM5.1の地震である。

2000年7月1日以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域 a）は地震活動が低調な海域で、M6.0を超える地震は初めてである。



1960年1月以降の活動を見ると、南大東島の西方の海域（領域 b）では、1963年1月31日の沖縄本島近海の地震 (M6.2、最大震度3)、2010年2月27日の沖縄本島近海の地震 (M7.2、最大震度5弱) など、M5.0以上の地震が時折発生している。

過去の地震の発震機構 (CMT解) を見ると、沖縄本島東方から南方の海溝軸の外側では、今回の地震 (M6.4) と同様に、フィリピン海プレートの進行方向に張力軸を持つ正断層型が多い。



○その他の地域の地震活動

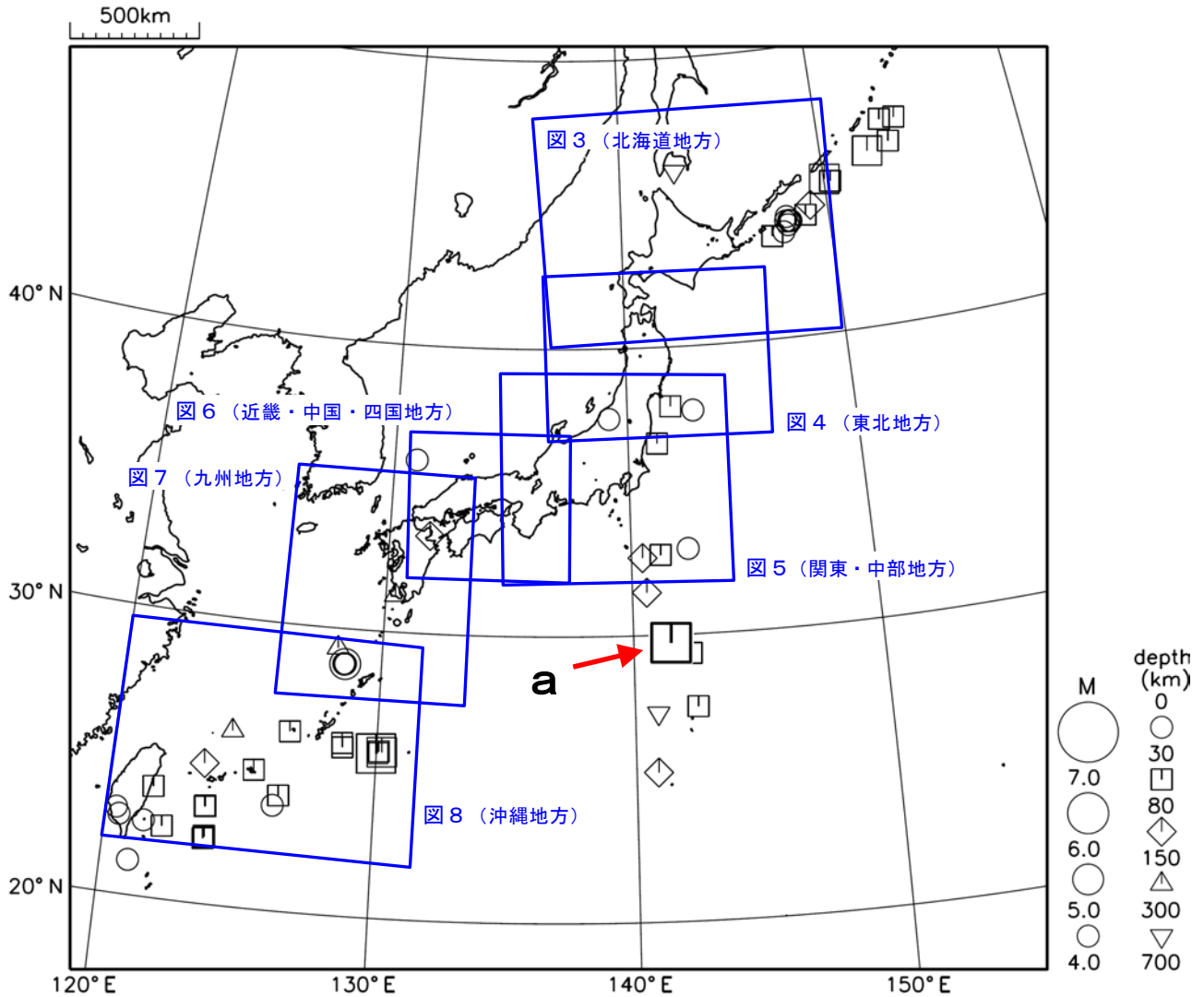


図 9 日本周辺で発生した主な地震の震央分布図 (2010 年 5 月 1 日～5 月 31 日、 $M \geq 4.0$)

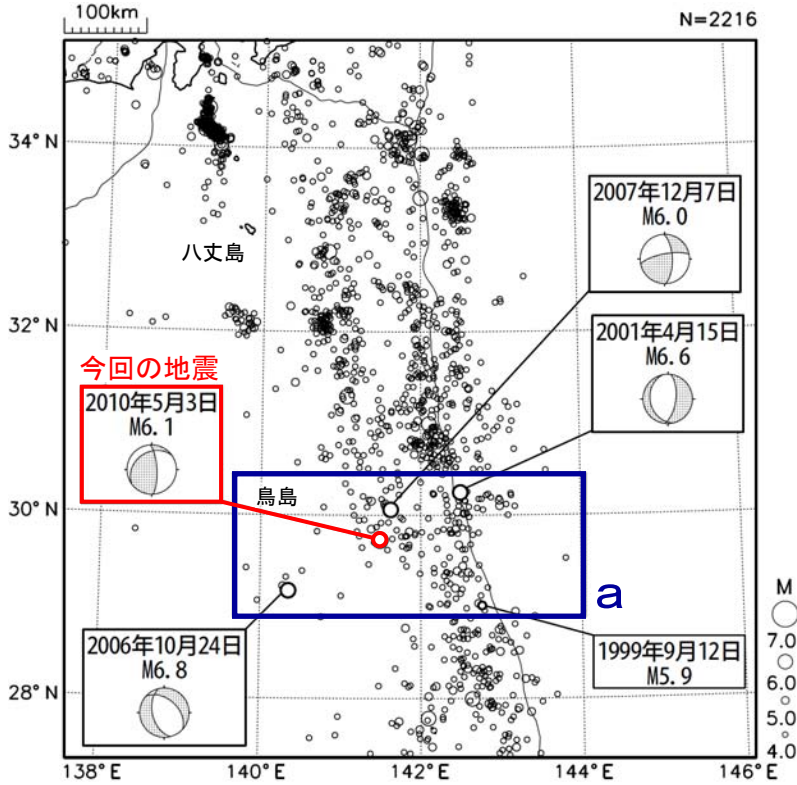
[概況]

5 月に日本周辺で発生した $M6.0$ 以上の地震は 2 回 (4 月は 1 回) であった。
5 月中に図 3～8 の領域外で発生した主な活動は次のとおりである。

3 日 19 時 27 分に鳥島近海で $M6.1$ の地震 (図 9 中の a) が発生し、小笠原諸島で震度 2 を観測したほか、東北と関東の一部で震度 1 を観測した。(p. 13 参照)。

5 月 3 日 鳥島近海の地震

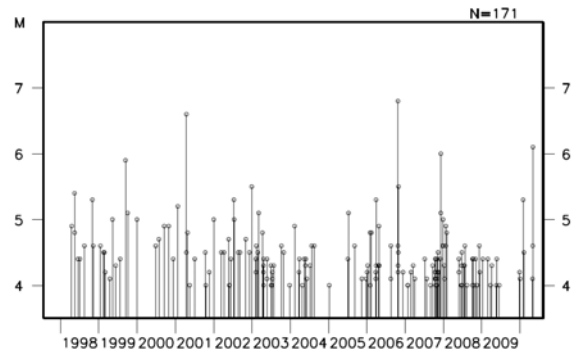
震央分布図（1997 年 10 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
M \geq 4.0、深さ 0～100km）
発震機構は気象庁による CMT 解である。



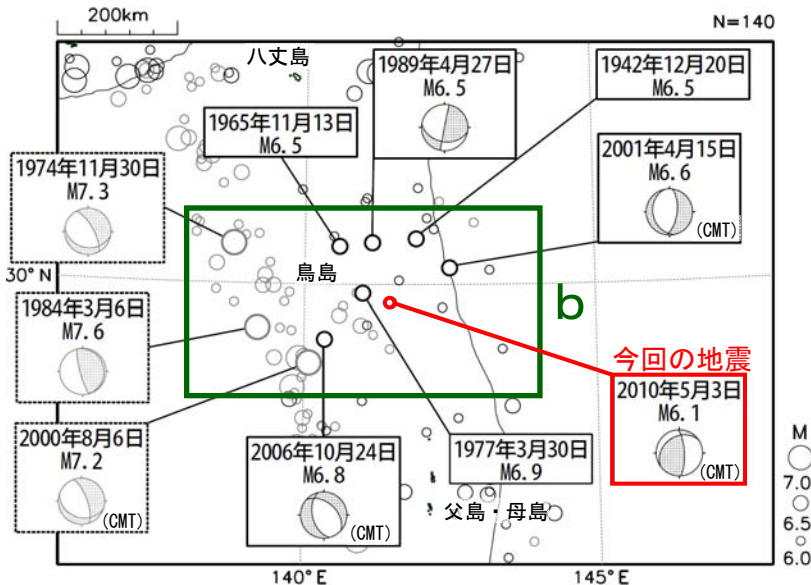
2010 年 5 月 3 日 19 時 27 分に鳥島近海で M6.1 の地震（最大震度 2）が発生した。目立った余震活動は観測されていない（5 月 31 日現在）。今回の地震の発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域 a）では、M6.0 以上の地震がしばしば発生している。2006 年 10 月 24 日に M6.8 の地震（最大震度 2）が発生し、日本の太平洋沿岸や伊豆・小笠原諸島で最大の高さ 16cm の津波を観測した。

領域 a 内の M-T 図

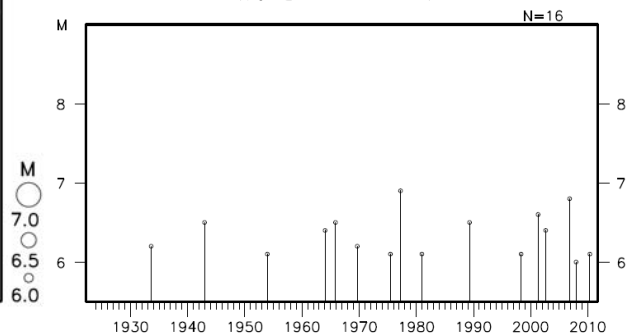


震央分布図（1923 年 8 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
M \geq 6.0、深さ 0～500km）
震源の深さが 150km より浅い地震の震央を濃く表示。



1923 年 8 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域 b）では、深さ 150km より浅い場所では M6.5 以上の地震がしばしば発生しているが、M7.0 以上の地震は発生していない。それより深い場所では、しばしば M7.0 以上の深発地震が発生しており、1984 年 3 月 6 日には M7.6 の地震（最大震度 4）が発生し、死者 1 人などの被害を生じた（「最新版 日本被害地震総覧」による）。

領域 b 内の M-T 図
(深さ 0～150km)



●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

特に目立った地震活動はなかった。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

6月1日に気象庁において第289回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図2～図10）。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

1. 地震活動の状況

静岡県中西部の地殻内では、全体的にみて、2005年中頃からやや活発な状態が続いています。浜名湖周辺のフィリピン海プレート内では、引き続き地震の発生頻度のやや少ない状態が続いています。その他の領域では概ね平常レベルです。なお、愛知県から長野県南部のプレート境界付近で4月20日から5月4日にかけて、深部低周波地震が観測されました。この付近でまとまった規模の深部低周波地震の活動は2008年9月以来です。

2. 地殻変動の状況

全般的に注目すべき特別な変化は観測されていません。GPS観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向はこれまでと同様に継続しています。なお、上記の深部低周波地震活動と同期して、プレート境界付近における「短期的ゆっくり滑り」に起因するとみられる地殻変動が4月23日から27日にかけて、周辺の歪計で観測されました。「短期的ゆっくり滑り」に起因する地殻変動が観測されたのは、本年3月以来です。

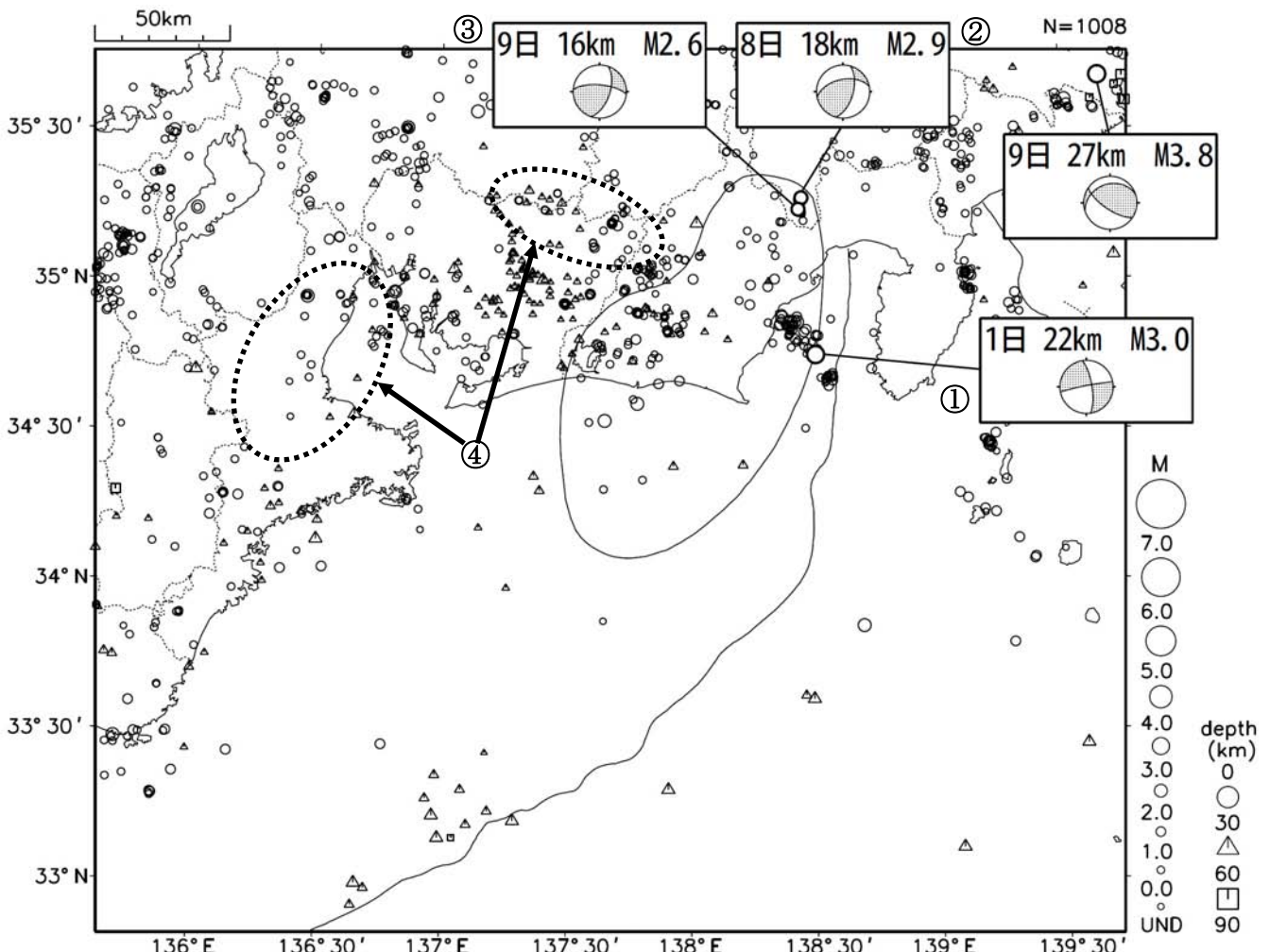


図1 震央分布図（2010年5月1日～31日：深さ0～90km、Mすべて。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。）

- ① 1 日 00 時 45 分、駿河湾の深さ 22km で M3.0 の地震(最大震度 1)が発生した。発震機構は北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震ある。
- ② 8 日 20 時 27 分、山梨県中・西部の深さ 18km で M2.9 の地震(最大震度 2)が発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。
- ③ 9 日 18 時 36 分、山梨県中・西部の深さ 16km で M2.6 の地震(最大震度 1)が発生した。発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。
- ④ 愛知県、および伊勢湾から三重県中部にかけての領域で深部低周波地震活動が観測された。
- 注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

〔東海地域の地震活動の頁で使われる用語〕

・「想定震源域」(図 1)と「固着域」(図 2)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ」、「クラスタ除去」(図 2)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的なクラスタで、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。図 2 の静岡県中西部の場合、相互の震央間の距離が 3 km 以内で、相互の発生時間差が 7 日以内の地震群をクラスタとして扱い、その中の最大の地震をクラスタに含まれる地震の代表とし、地震が 1 つ発生したと扱う。

・「長期的ゆっくり滑り(長期的スロースリップ)」(図 2)

主に浜名湖周辺下のフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で、2000 年秋頃～2005 年夏頃にかけて発生していたとされているゆっくりとした滑り。過去にも何回か同様の現象が発生していたと考えられている。

・「深部低周波地震」と「短期的ゆっくり滑り(短期的スロースリップ)」(図 1、図 4～図 8)

深さ約 30km～40km で発生する、長周期の波が卓越する地震を「深部低周波地震」と言う。長野県南部～日向灘にかけては帯状につながる「深部低周波地震」の震央分布が見られる。「深部低周波地震」の活動が観測されるときは、ほぼ同時に数日～1 週間程度継続する「短期的ゆっくり滑り(短期的スロースリップ)」が観測されることが多い。「短期的ゆっくり滑り」は、「深部低周波地震」の発生領域とほぼ同じ領域でのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界の滑りと考えられている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域」(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 160 市町村(平成 22 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。

気象庁では、いつ発生してもおかしくない状態にある「東海地震」を予知すべく、東海地域の地震活動や地殻変動等の状況を監視している。また、これらの状況を定期的に評価するため、地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会を毎月開催して委員の意見提供等を受け、現在の状況を取りまとめたコメント「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」(前頁参照)を発表している。

（参考）

東海地域の地震活動指数 （クラスタを除いた地震回数による）

2010年5月29日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内 全域	西側	東側	全域
短期活動指数	8	4	4	4	3	4	2	4
短期地震回数 （平均）	16 (6.31)	5 (5.91)	12 (13.23)	12 (14.08)	3 (5.99)	2 (2.46)	1 (3.53)	6 (6.06)
中期活動指数	8	7	2	4	1	2	2	6
中期地震回数 （平均）	33 (18.93)	26 (17.74)	30 (39.68)	40 (42.24)	5 (11.99)	2 (4.93)	3 (7.06)	17 (12.12)

* Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M≥1.1、駿河湾：M≥1.4

* クラスタ除去：震央距離がΔr以内、発生時間差がΔt以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：Δr=3km、Δt=7日

駿河湾：Δr=10km、Δt=10日

* 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： おおむね長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

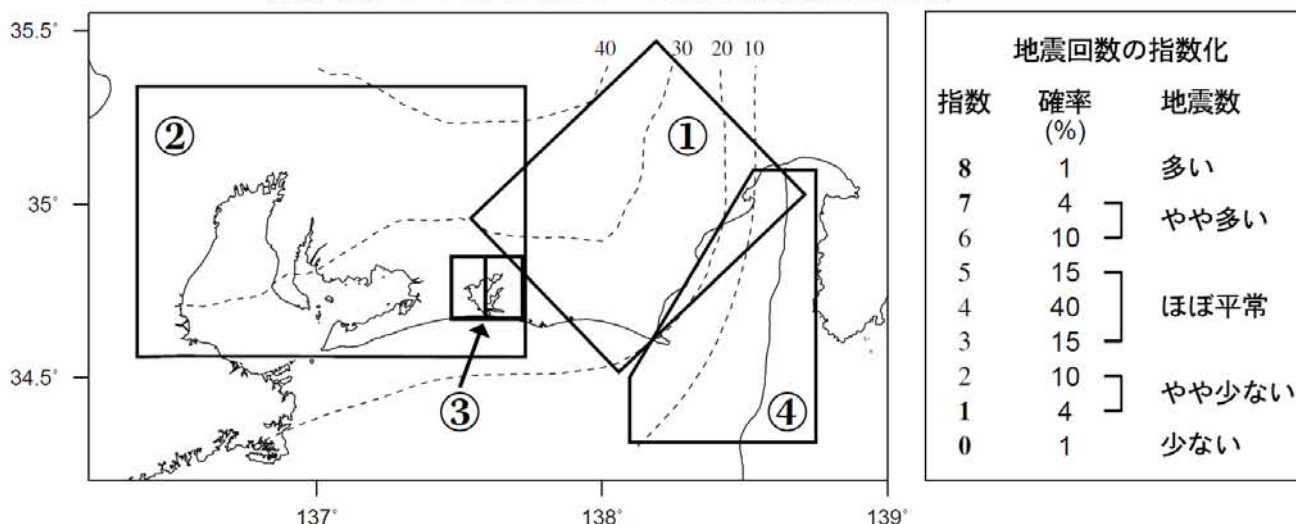
浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

[各領域の説明] ①静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

②愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③浜名湖周辺：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。



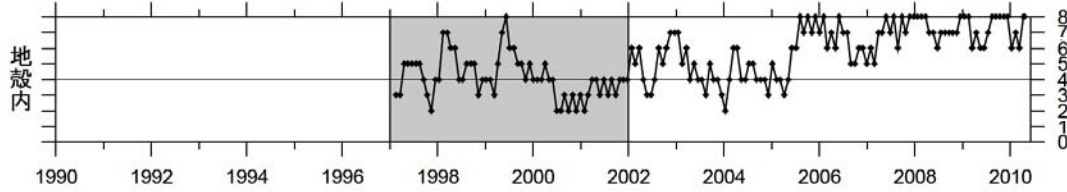
* プレート境界の等深線を破線で示す。

図 2 東海地域の地震活動指数

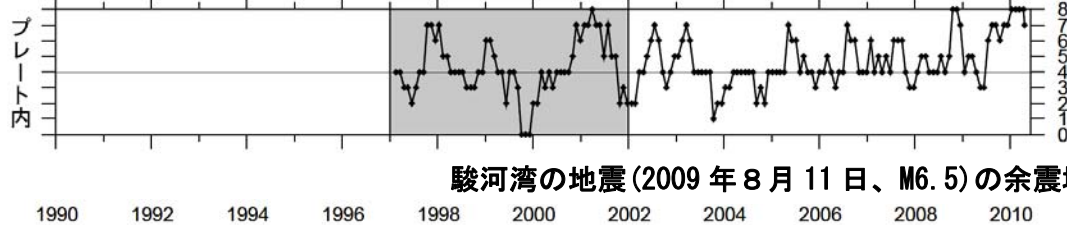
地震活動指数の推移（中期活動指数）

① 静岡県中西部（対象期間：90日）

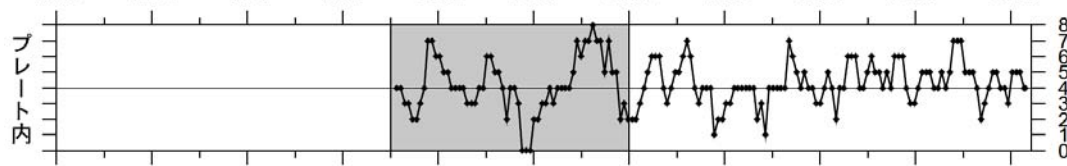
1997/ 1/ 1~2010/ 5/29 M ≥ 1.1



やや多い
（継続中）

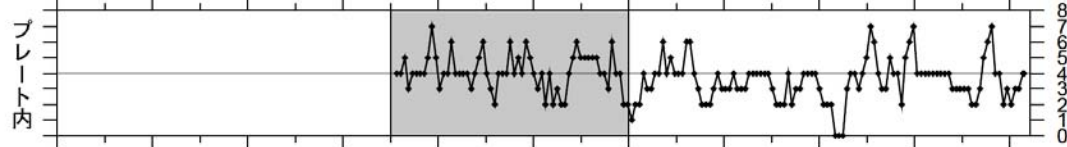
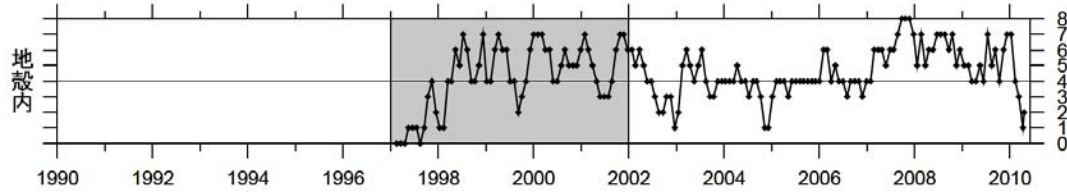


駿河湾の地震（2009年8月11日、M6.5）の余震域を除去



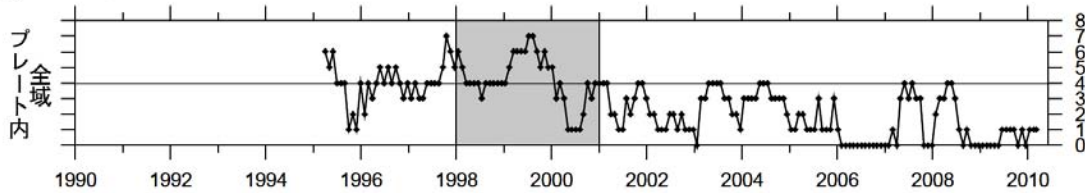
② 愛知県（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2010/ 5/29 M ≥ 1.1



③ 浜名湖周辺（対象期間：180日）

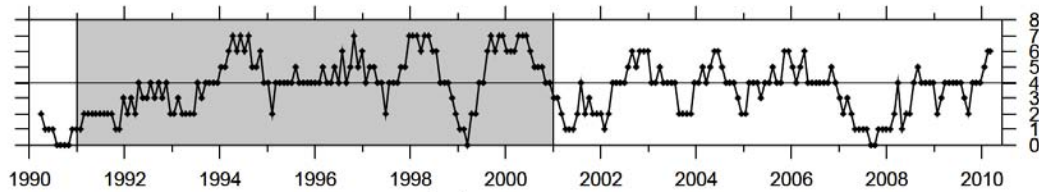
1995/ 1/ 1~2010/ 5/29 M ≥ 1.1



やや少ない
（継続中）

④ 駿河湾（対象期間：180日）

1990/ 1/ 1~2010/ 5/29 M ≥ 1.4

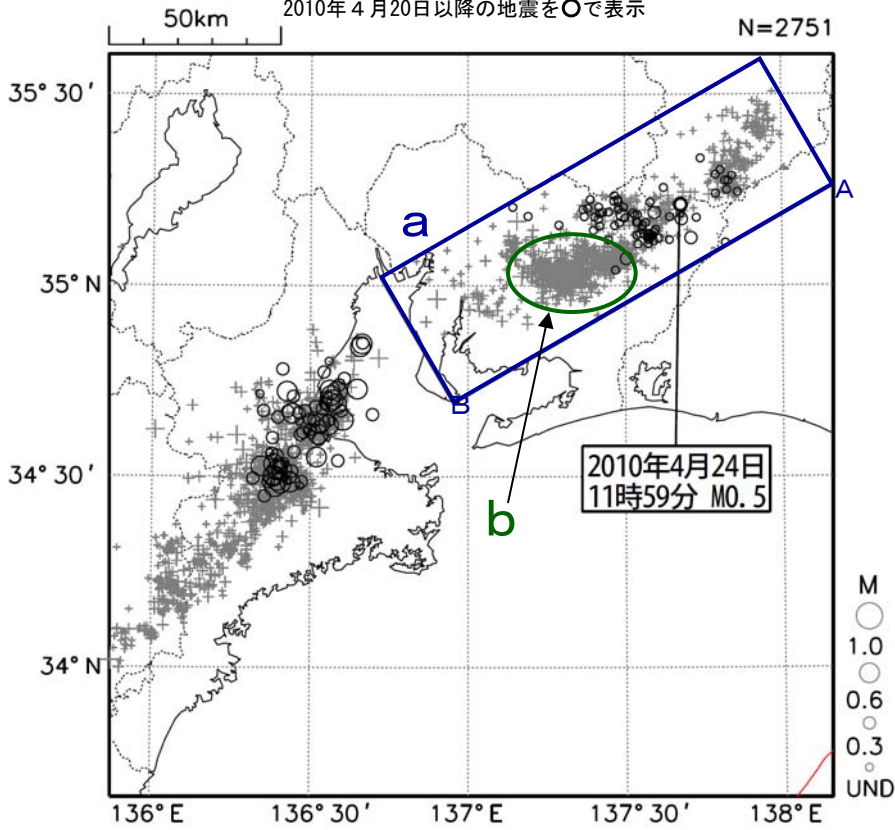


■ : 基準期間 / : 地震活動指数（0-8）

図3 東海地域の地震活動指数の推移

静岡県中西部の地殻内では、2005年中頃から地震活動がやや活発な状態が続いている。また、浜名湖周辺のフィリピン海プレート内では、地震の発生頻度がやや少ない。その他の地域では概ね平常レベルである。

深部低周波地震の震央分布図
 (2008年1月1日～2010年5月29日、
 Mすべて、深さ0～60km)
 2010年4月20日以降の地震を○で表示

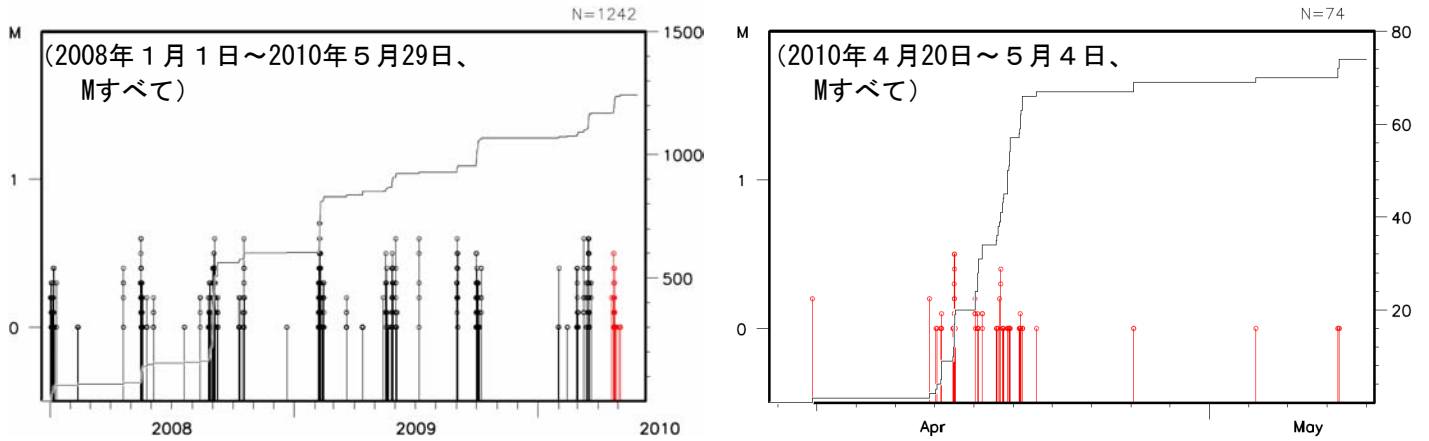


4月20日から5月4日まで、長野県南部から愛知県にかけての領域で深部低周波地震活動が観測された。主な活動は4月23日夜から26日まで続いた。最大の地震は24日11時59分に発生したM0.5の地震である。

今回の活動は長野県南部から始まり、西へ移動した。

今回の活動領域（長野県南部から愛知県）でまとまった規模の深部低周波地震活動が観測されたのは2008年9月以来である。このときは長野県南部で始まった深部低周波地震活動が徐々に西へ移動し、左図の領域bに至ったが、今回の活動では領域b内では深部低周波地震はほとんど観測されなかった。

領域 a 内の地震活動経過図及び回数積算図



領域 a 内の時空間分布図（A－B 投影）

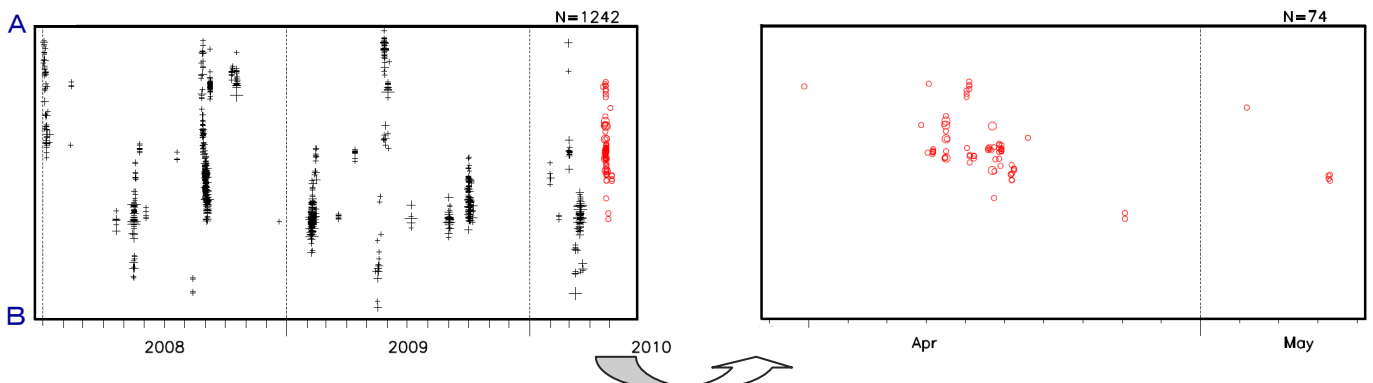


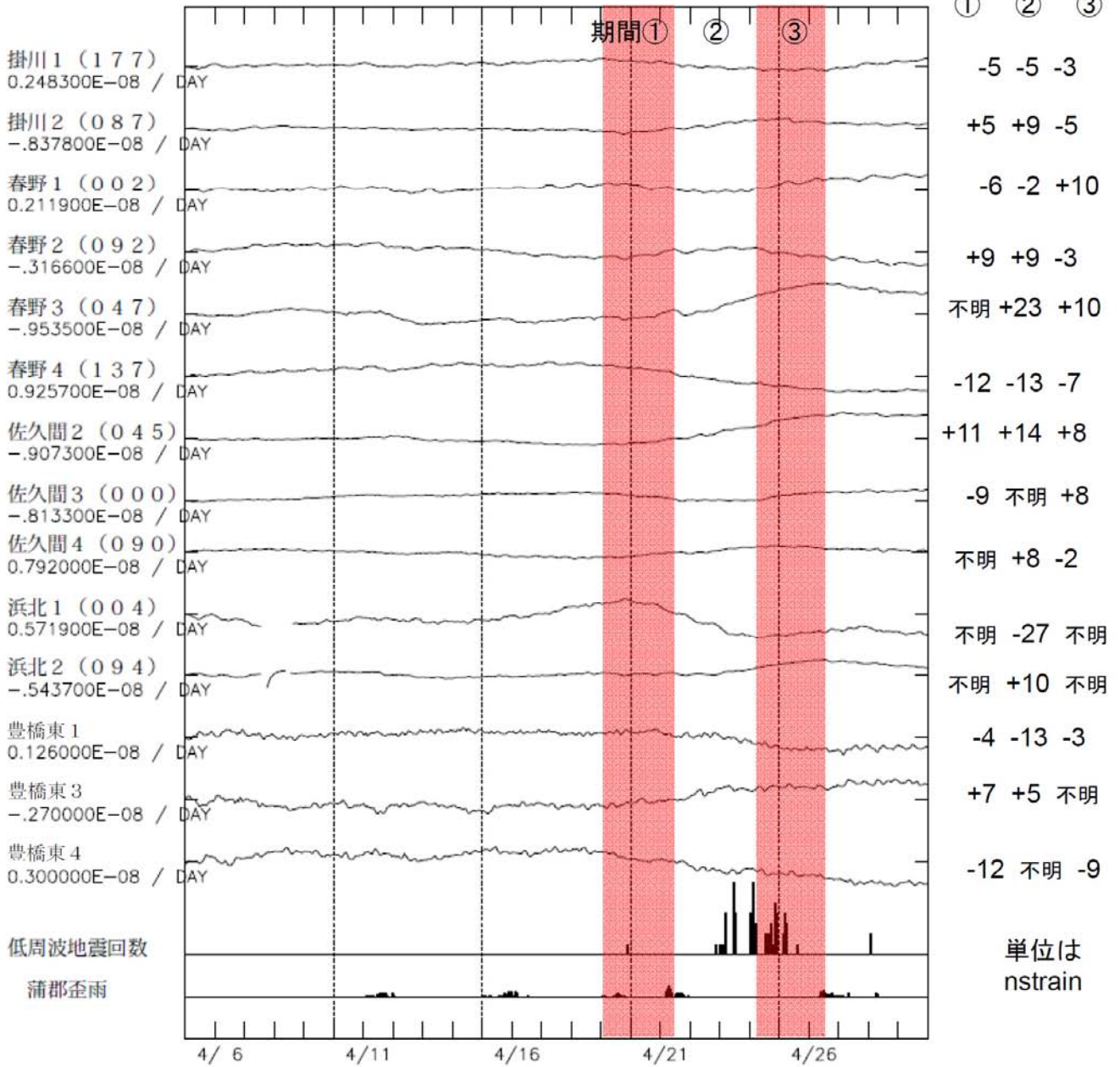
図4 4月20日から5月4日に長野県南部から愛知県で観測された深部低周波地震活動

東海周辺歪変化

< 2010/ 4/ 6 0: 0 --- 2010/ 5/ 1 0: 0 >

1.0E-07 strain
60 mm/Hour
10 count/Hour

各期間の読取値



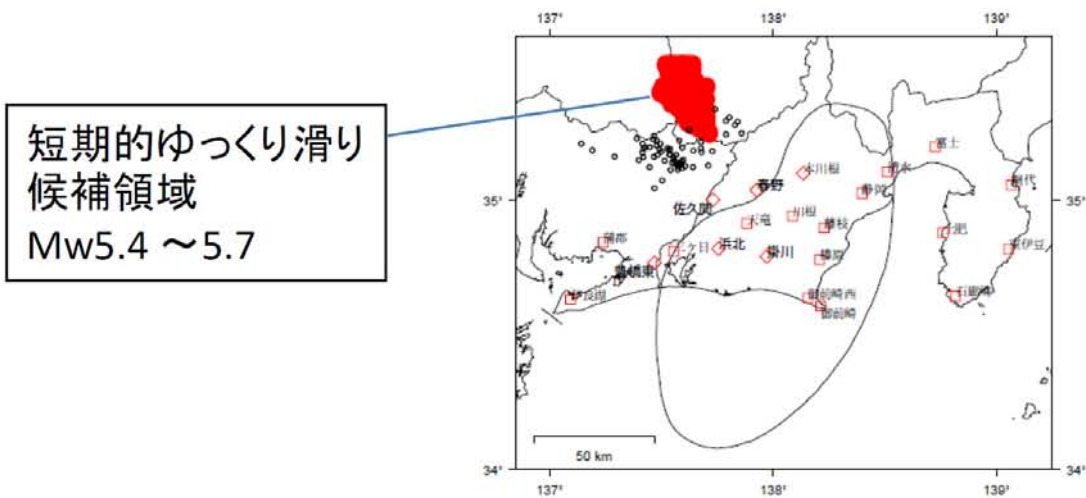
20日～27日の歪変化を3分割して
各期間のすべり域を推定した

※春野は静岡県整備
※豊橋東は産業技術総合研究所整備

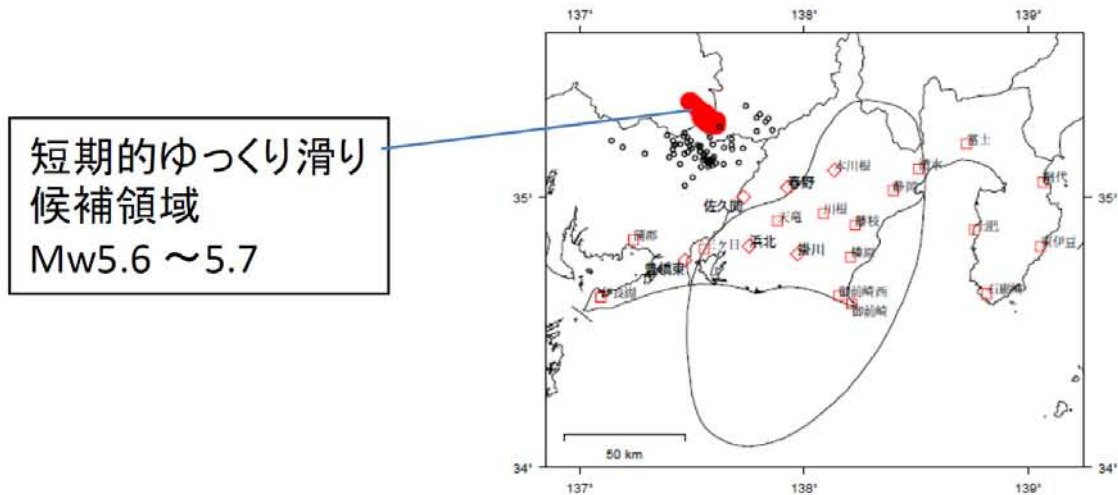
図5 4月20日から27日に観測された歪変化

今期間、長野県南部から愛知県で深部低周波地震活動が観測された。この活動に伴い、東海地域およびその周辺に設置している歪計で、4月20日から27日にかけて変化が見られた。

期間①（4月20日～22日）の歪変化から推定されるすべり領域



期間②（4月22日～24日）の歪変化から推定されるすべり領域



期間③（4月25日～27日）の歪変化から推定されるすべり領域

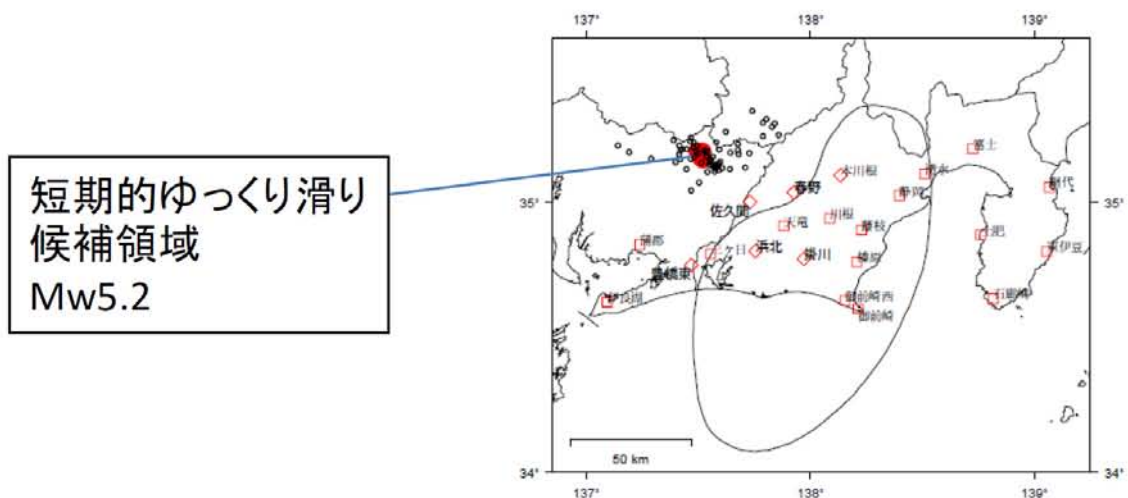
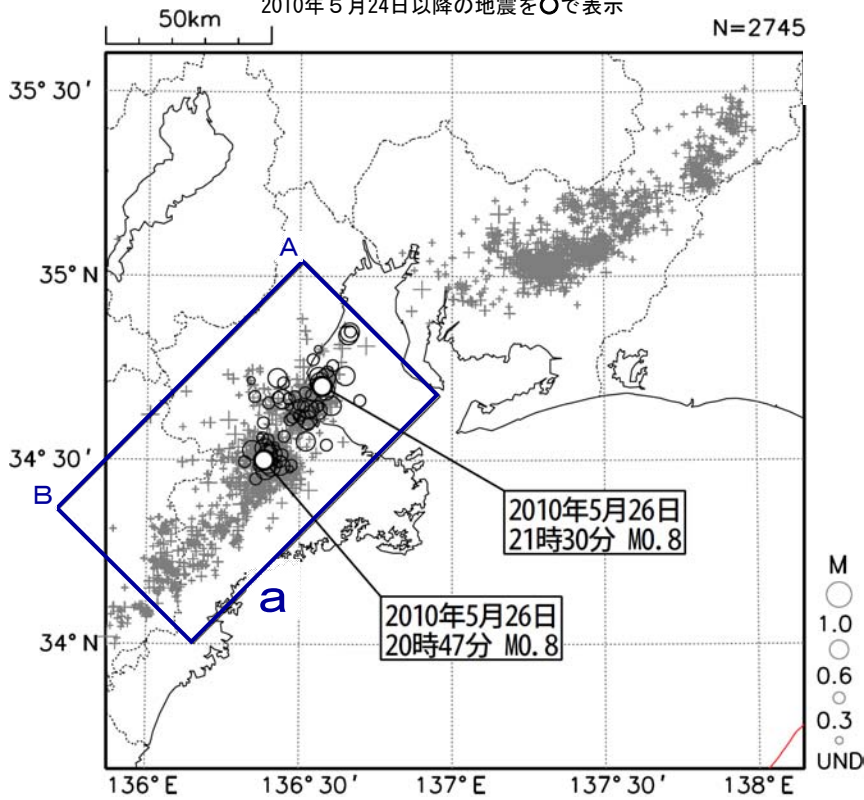


図6 4月20日から27日の歪変化から推定された短期的ゆっくりすべり

今期間、長野県南部から愛知県で深部低周波地震活動が観測された。この活動に伴い、東海地域およびその周辺に設置している歪計で、4月20日から27日にかけて変化が見られた（図5参照）。この変化を3期間に分けて各期間のすべり域および規模を推定した。その結果、各期間ともすべり域は深部低周波地震の活動領域付近に求められた。

深部低周波地震の震央分布図
 (2008年1月1日～2010年5月29日、
 Mすべて、深さ0～60km)
 2010年5月24日以降の地震を○で表示



5月24日夕方以降、伊勢湾から三重県中部にかけての領域で深部低周波地震活動が観測された。27日までにM 0.6以上の地震が20回以上観測されたが、28日以降は活動が終息してきている。

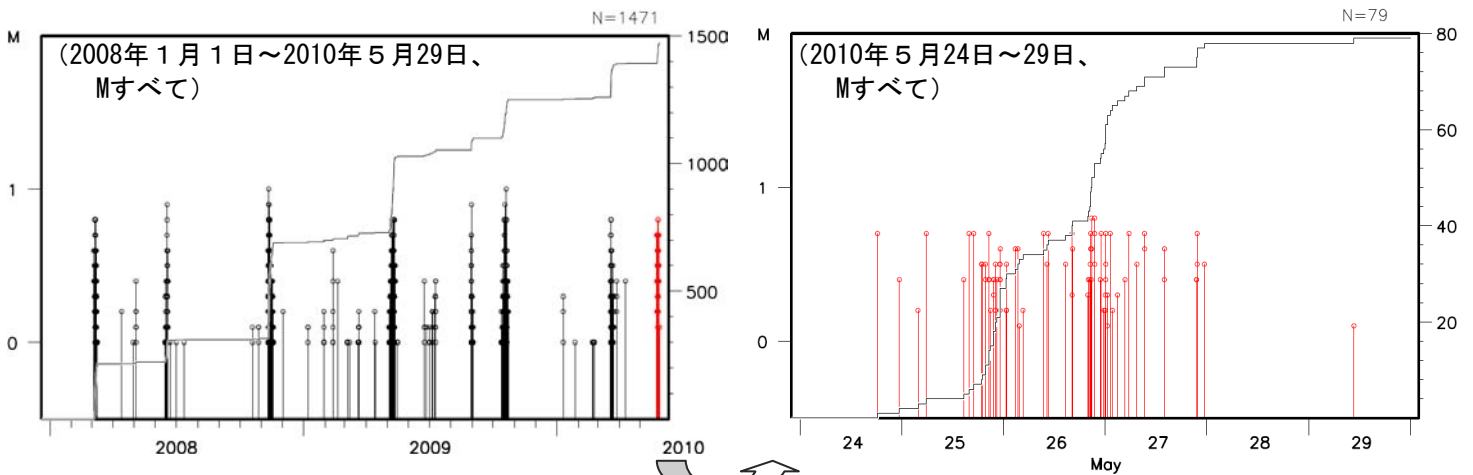
今回の活動は伊勢湾から始まり、徐々に南西方向に移動している。

今回の活動領域（伊勢湾から三重県中部）でまとまった規模の深部低周波地震活動が観測されたのは2009年10月以来である。このときは三重県南部で始まった活動が徐々に北東方向に移動し、伊勢湾に達した。

また、2009年5月の活動は、奈良県で始まり徐々に北東方向に移動し、三重県中部を経て長野県南部に至っている。

今回の活動のように、伊勢湾で始まり徐々に南西方向（三重県中部）に移動する活動が観測されたのは、2008年3月以来である。

領域 a 内の地震活動経過図及び回数積算図



領域 a 内の時空間分布図（A－B 投影）

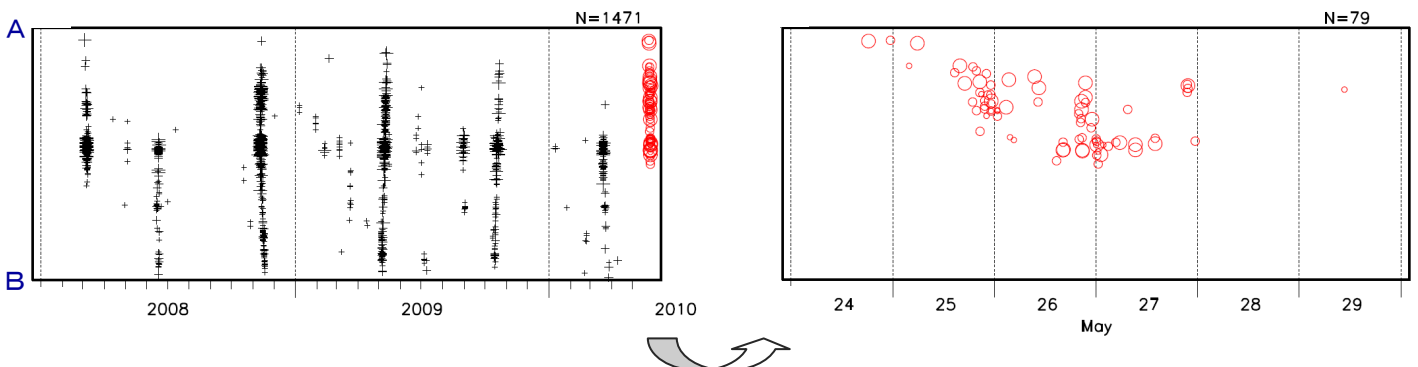
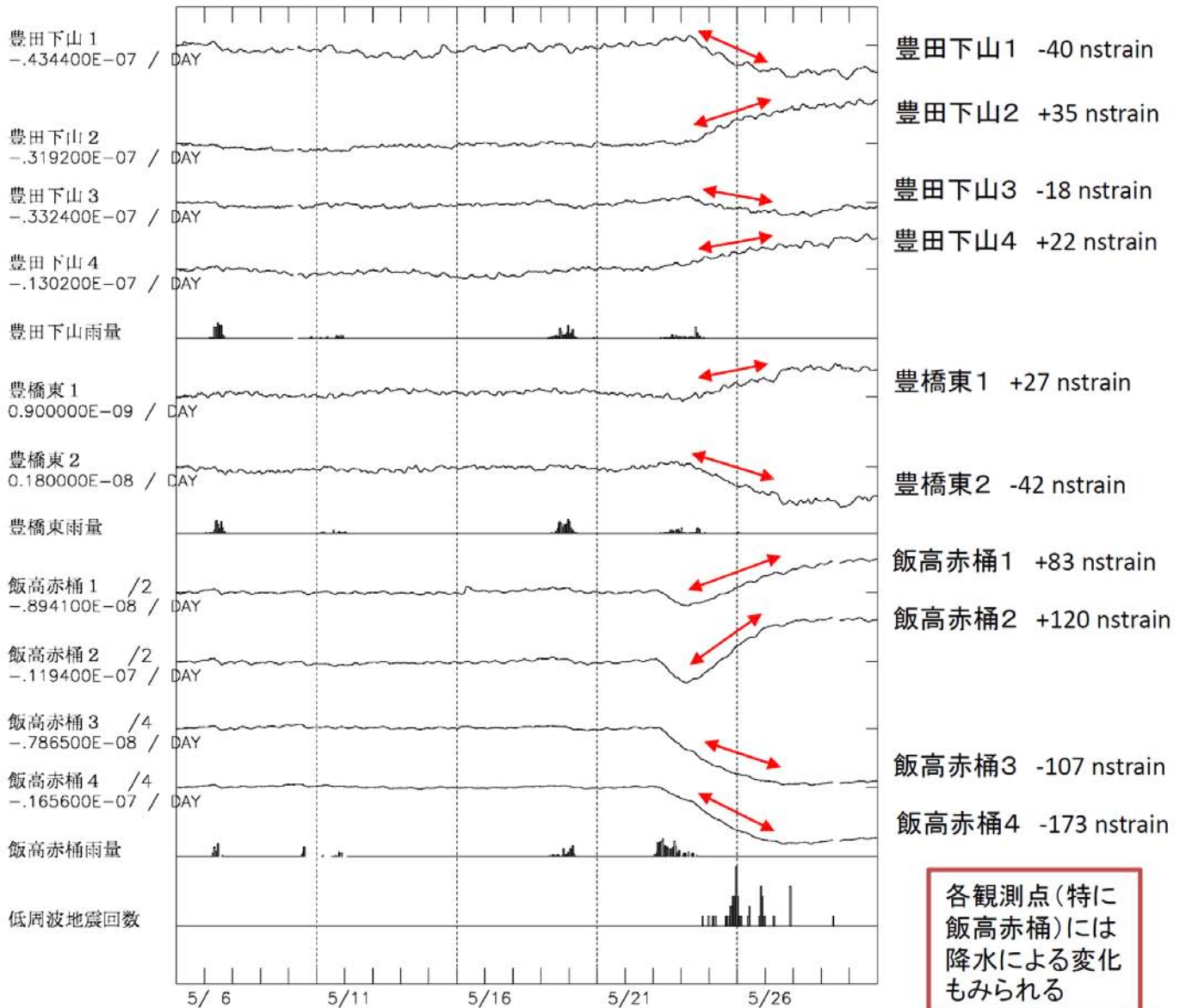


図7 5月24日から29日に伊勢湾から三重県中部で観測された深部低周波地震活動

伊勢湾の深部低周波地震に伴う歪変化

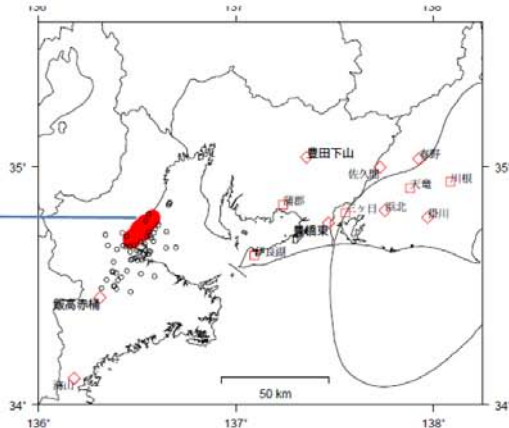
< 2010/ 5/ 6 0: 0 -- 2010/ 5/31 0: 0 >

1.0E-07 strain
30 mm/60min
10 count/Hour



各観測点(特に飯高赤桶)には降水による変化もみられる

短期的ゆっくり滑り候補領域
Mw6.0 ~ 6.1



※豊田下山、豊橋東、飯高赤桶は産業技術総合研究所整備

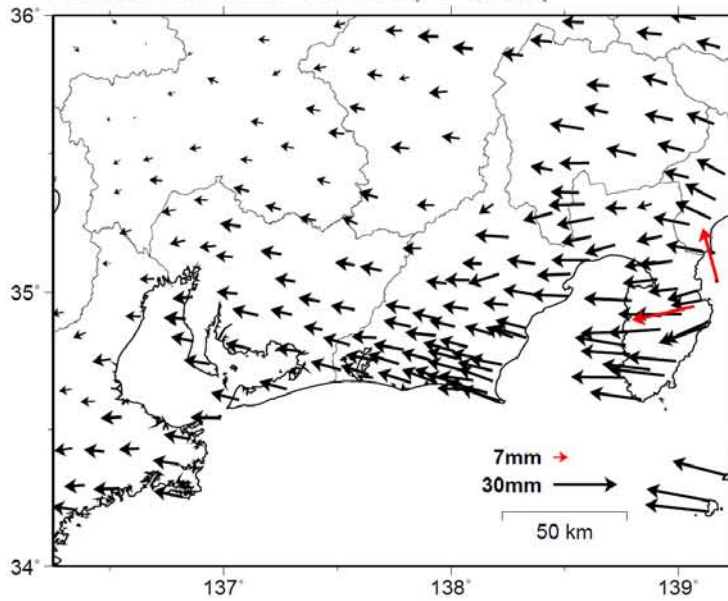
図 8 5月24日から27日の歪変化から推定された短期的ゆっくり滑り
今期間、伊勢湾から三重県中部にかけての領域で深部低周波地震活動が観測された。この活動に伴い、東海地域およびその周辺に設置している歪計で、5月24日から27日にかけて変化が見られた（上図参照）。この変化から短期的ゆっくり滑りの発生領域を推定した結果、深部低周波地震の活動領域付近に求められ、規模はモーメントマグニチュード(Mw)換算で6.0から6.1であった（下図参照）。

東海地方の最近の水平地殻変動【大潟固定】

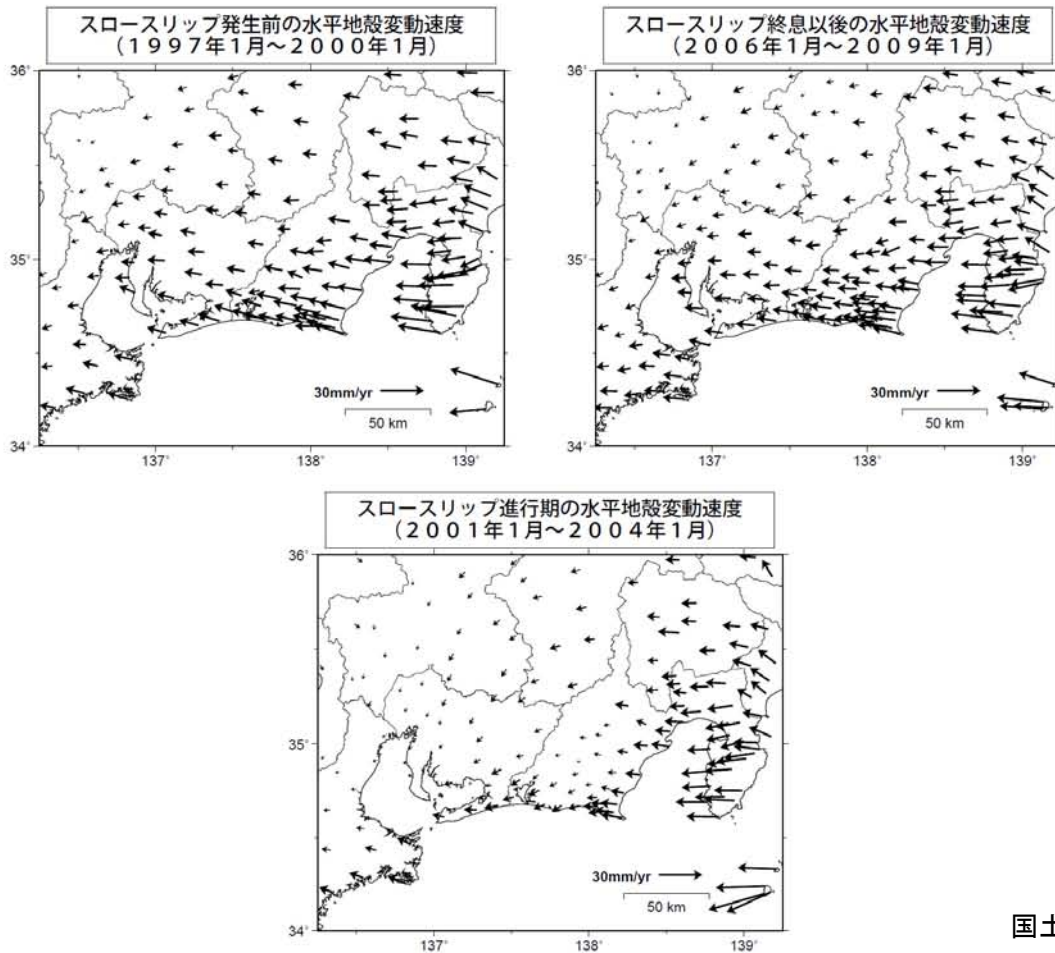
（ 2009 年 5 月～ 2010 年 5 月）

基準期間：2009/4/25 - 2009/5/8 [F3：最終解]

比較期間：2010/4/25 - 2010/5/8 [F3：最終解]



- ・スロースリップ終息後の変動速度ベクトル（右下図）との差の絶対値が 7 mm 以上の変動ベクトルを赤矢印で表示している。
- ・2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- ・2009 年 12 月の伊豆半島東方沖の地震活動に伴う地殻変動の影響は取り除いていない。



国土地理院資料

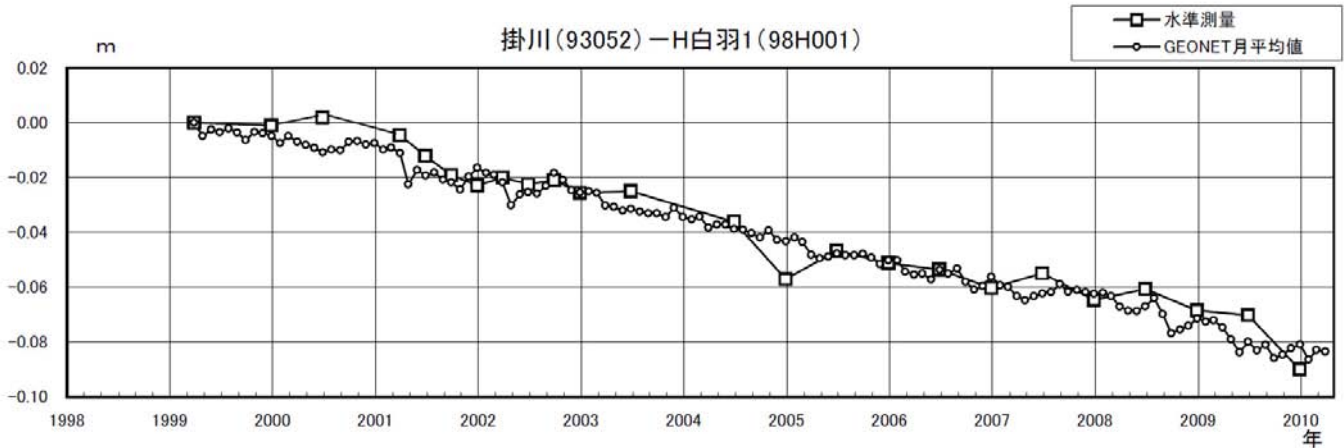
図 9 国土地理院のGPS観測結果による東海地域の最近の地殻変動

上図は、最近（2010年4月25日～2010年5月8日）のGPS観測点が1年前と比べて水平方向にどの程度動いたかを示したものである（新潟県のGPS観測点大潟を固定）。長期的ゆっくりすべり（スロースリップ）終息以後の変動速度ベクトルとの差の絶対値が7mm以上の変動ベクトルを、赤矢印で表示している。伊豆半島東部に見られる赤矢印は、2009年12月に発生した伊豆半島東方沖の地震活動に伴う地殻変動の影響であると考えられる。

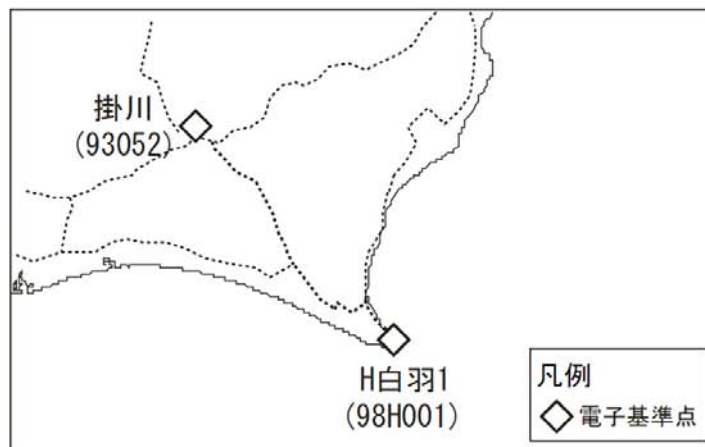
御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GPS 観測の比較

水準測量と GPS 観測の結果は、よく一致している。
掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。



位置図



国土地理院資料

図 10 国土地理院のGPS観測結果および水準測量による御前崎の上下変動

掛川から見た御前崎(H白羽1観測点)の上下変動を示したものである。GPS観測(○)および水準測量(□)による結果は良く一致しており、掛川に対して御前崎が沈降するという長期的な傾向が続いていることがわかる。

● 日本の主な火山活動

霧島山（新燃岳）では、6日に火山性地震が増加し、火山活動が高まったことから、火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げた。その後、27日15時36分に小規模な噴火が発生した。

桜島では、上旬まで爆発的噴火の多い状態で経過したが、中旬以降減少した。火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続している。

諏訪之瀬島では、噴火が断続的に発生した。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続している。

5月31日現在の各火山の噴火警戒及び噴火予報等の発表状況は表1のとおり。

表1 5月31日現在の噴火警戒及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル* 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島
	レベル2（火口周辺規制）	三宅島、霧島山（新燃岳）、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警戒及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山

*噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



図1 5月31日現在、噴火警戒発表中の火山

表 2 平成 22 年 5 月の警報、予報及び情報の発表履歴（定期発表以外）

火山名	噴火警報及び 噴火予報の状況	発表した火山現象に関する警報・予報・情報		概 要
		種類、号数等	発表日時	
吾妻山	噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）	火山活動解説資料	7 日 14 時 00 分 17 日 14 時 00 分	現地調査の結果及び地震・微動等火山活動の状況
霧島山 （新燃岳）	噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）	解説情報第 9 号	6 日 12 時 25 分	6 日 7 時頃からの火山性地震の発生状況
		火口周辺警報	6 日 14 時 00 分	火山活動が高まったことから、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げ
	火口周辺警報 （噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）	火山活動解説資料	6 日 14 時 30 分 7 日 16 時 20 分	地震・噴煙等火山活動の状況
		解説情報第 10 号～17 号	7 日、8 日、9 日、 10 日、14 日、17 日、 21 日、24 日 16 時 00 分	地震・噴煙等火山活動の状況
		解説情報第 18 号	27 日 16 時 15 分	27 日 15 時 36 分に発生した小規模な噴火の状況
		火山活動解説資料	27 日 17 時 10 分	27 日 15 時 36 分に発生した小規模な噴火の状況
		火山活動解説資料	27 日 20 時 40 分	上空からの観測結果及び火山性微動等の発生状況
		解説情報第 19 号	28 日 16 時 00 分	地震・噴煙等火山活動の状況
		火山活動解説資料	28 日 21 時 00 分	上空からの観測により新しい噴気孔を確認。熱映像及び降灰状況等
		解説情報第 20 号	31 日 16 時 00 分	地震・噴煙等火山活動の状況
桜島	火口周辺警報 （噴火警戒レベル 3、入山規制）	解説情報第 36～43 号	6 日、10 日、14 日、 17 日、21 日、24 日、 28 日、31 日 16 時 00 分	噴火の状況、地震等火山活動の状況

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

各火山の 5 月の活動解説

【北海道地方】

雌阿寒岳 めあかんだけ 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

十勝岳 としかだだけ 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

22日に、振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が発生した。微動発生前後で噴煙の状況に変化はなかった。微動発生前に火山性地震がやや増加したが、空振計や地殻変動の記録に変化はなかった。火山性微動の発生は、2010年3月26日以来である。

地震活動及び噴煙活動は低調に経過した。

62-2火口の噴煙活動や熱活動は低調に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、GPSによる観測で62-2火口浅部の膨張を示す地殻変動が2006年以降継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

樽前山 たるまえざん 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調に経過した。GPSによる観測では、山頂火口原内の溶岩ドームの地下浅部の膨張を示す局所的な地殻変動が2006年以降継続していることから、山頂溶岩ドーム周辺では今後の火山活動の推移に注意が必要である。

倶多楽 くつたら 【噴火予報（平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

有珠山 うすざん 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、18日及び21日に実施した現地調査では、西山西麓火口群及び山頂火口原の熱活動¹⁾の状況に変化はなかった。地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

北海道駒ヶ岳 ほっかいどうこまがたけ

【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、13日から16日に実施した現地調査では、昭和4年火口及びその他の火口の熱活動¹⁾の状況に変化はなかった。地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響

を及ぼす噴火の兆候は認められない。

恵山 えざん 【噴火予報（平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、27日から29日に実施した現地調査では、X火口及びY火口の噴気や熱活動¹⁾の状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

【東北地方】

岩木山 いわきざん 【噴火予報（平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

岩手山 いわてざん 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

秋田駒ヶ岳 あきたこまがたけ 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

女岳北東斜面では、2009年8月に新たな噴気地熱域が確認された後、2010年4月にかけて地熱域の拡大が確認されている。

地震活動及び噴煙活動は低調で、ただちに噴火する兆候は認められないが、今後の火山活動の推移に注意する必要がある。

栗駒山 くりこまやま 【噴火予報（平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

吾妻山 あづまやま 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

大穴火口の噴気は、50～300mで推移し、噴気活動はやや高まった状態が続いている。

6日に実施した現地調査で、大穴火口の噴気孔周辺で硫黄が燃焼しているのを確認した。その後、16日の現地調査では、硫黄の燃焼が止まっているのを確認した。

4日07時23分から約32分間にわたって、27日07時38分から約40秒間にわたって火山性微動を観測した。4日の火山性微動の発生後5日にかけて地震回数が一時的にやや増加した。27日の火山性微動の発生に際し、地震回数に変化はなく、噴気は雲のため確認できなかった。

地震回数は、4月35回、5月75回と引き続きやや多い状況で推移した。

16日に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量²⁾は一日あたり500～700トンで、前

1) 赤外熱映像装置または赤外放射温度計による測定。これらは物体が放射する赤外線を感知して温度分布等を測定する測器である。熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。



図 2（左） 吾妻山 大穴火口のW-6 噴気孔周辺の昼間の状況（2010年5月6日14時17分撮影）
実線赤丸は硫黄の燃焼による青白い煙である。

図 3（右） 吾妻山 大穴火口のW-6 噴気孔周辺の夜間の状況（2010年5月6日18時59分撮影）
実線赤丸は硫黄が燃焼している個所であり、赤又は白く見える。

回（2009年10月29日）の一日あたり20～40トンと比べ増加した。

地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、火口内では噴気、火山ガスの噴出等がみられるので警戒が必要である。

あだたらやま 安達太良山【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ほんだいらさん 磐梯山【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

なすだけ 那須岳【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

くまつしらねさん 草津白根山

【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

湯釜火口周辺を震源とするとみられる振幅の小さな火山性地震の一時的な増加が繰り返し発生した。

地殻変動には特段の変化はみられなかったが、

東京工業大学の観測によると、湯釜火口内北東部の噴気地帯の地中温度は、高温の状態が継続している。

山頂火口から概ね500mの範囲では、ごく小規模な火山灰等の噴出に警戒が必要である。また、ところどころで火山ガスの噴出がみられ、周辺の窪地や谷地形などでは高濃度の火山ガスが滞留する事があるため注意が必要である。

あさまやま 浅間山

【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

山頂火口からの噴煙量に大きな変化はなかった。

25日に陸上自衛隊の協力により上空からの観測を行ったが、強風と雲の接近のため山頂火口に近付くことができず、地表面温度観測を実施できなかった。

6日及び18日に行った現地調査では、山頂火口からの二酸化硫黄放出量²⁾は、一日あたり100～300トン及び100～400トンと、2009年2月の噴火以降減少しており、2008年7月以前の静穏な状態に戻つつある。

山頂火口から500m以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

にいがたやけやま 新潟焼山

【噴火予報（平常）】

地震活動は低調で、新潟県土木部砂防課の焼山温泉監視カメラでは噴煙活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

2) 小型紫外線スペクトロメータシステム (COMPUSS) による。COMPUSS は、紫外線のある波長帯の二酸化硫黄の吸収を利用して、二酸化硫黄濃度を測定する。

御嶽山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

地震活動及び噴気活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

白山 [噴火予報（平常）]

地震活動は低調で、遠望カメラでは山頂部に噴気は認められず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

国土地理院の観測によると、山体周辺の GPS による地殻変動観測で、2008 年 8 月頃から地下深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びの変化が認められる。

遠望カメラでは山頂部に噴気は認められない。地震活動は低調で、その他の観測データで浅部の異常を示す変化はなく、噴火の兆候は認められない。

箱根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

地震活動は低調で、環境省インターネット自然研究所の箱根・大涌谷カメラでは、大涌谷の噴気活動に特段の変化はなく、その他の観測データにも特段の変化はなかった。

箱根山では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

伊豆東部火山群 [噴火予報（平常）]

地震活動は低調で、噴煙等の表面現象は認められず、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

27 日に実施した現地調査では、三原山山頂火口内及びその周辺に引き続き弱い噴気が認められた。三原山山頂火口内の中央火孔の温度や地表面温度分布¹⁾ は前回（2010 年 4 月 19 日）の観測と比べて特段の変化はなかった。

GPS、光波距離計³⁾ による連続観測では、地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向が継続している。短期的には 2009 年秋頃から収縮傾向がみられる。

伊豆大島では、今後の活動に注意する必要があるが、現在は静穏な状況で、三原山山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

三宅島

[火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上 100～300m で推移した。

6 日および 31 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄放出量²⁾ は一日あたり 400～1,100 トンで、前回（2010 年 4 月 30 日、一日あたり 1,000～1,500 トン）と同様、依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

地磁気連続観測⁵⁾ では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はなかった。

GPS 連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

三宅島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環

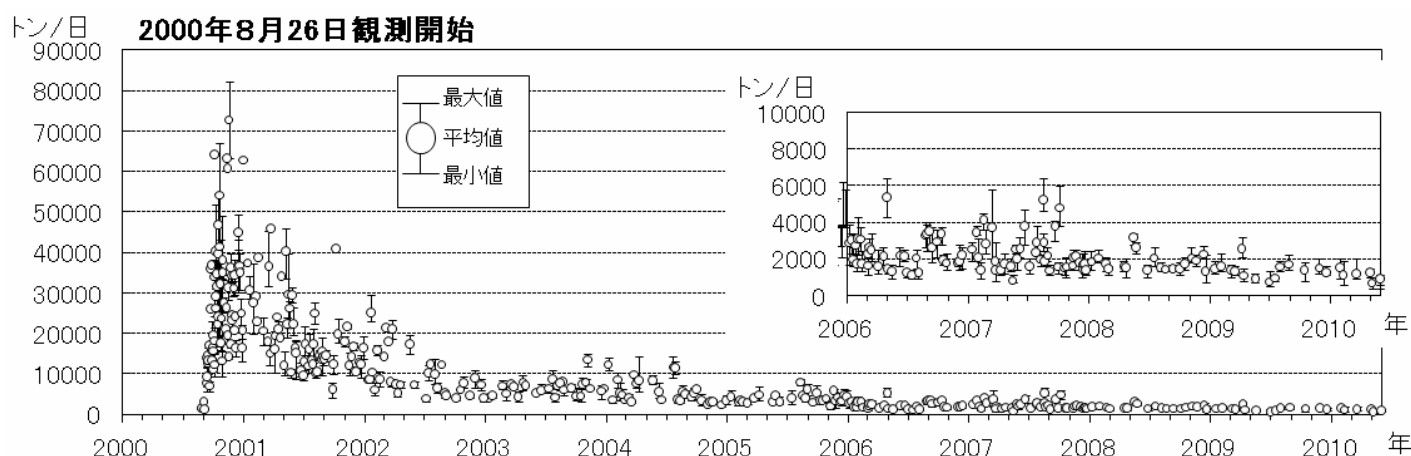


図4 三宅島 二酸化硫黄の放出量⁴⁾ の推移（2000 年 8 月～2010 年 5 月）

海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て観測を実施。

3) レーザーなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測している。
 4) 三宅島では、2005 年 4 月までは紫外線関連スペクトロメータ（COSPEC）、同年 5 月以降は小型紫外線スペクトロメータシステム（COMPUSS）を用いて観測した二酸化硫黄（SO₂）の放出量の推移を示している。
 5) プロトン磁力計による観測。火山は磁石のように磁気を帯びている。地下で温度上昇があると、熱源の北側で全磁力値が増加し、南側で減少がみられる。

状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流にも注意が必要である。

八丈島 はちじょうじま 【噴火予報（平常）】

八丈島付近を震源とする地震は観測されず、地震活動は静穏に経過した。火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

硫黄島 いおうとう 【火口周辺警報（火口周辺危険）】

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。また、国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、2010 年 4 月まで停滞していたが、5 月以降わずかに隆起の傾向がみられる。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖では警戒が必要である。

福徳岡ノ場 ふくとくおかのば 【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

16 日に第三管区海上保安本部が上空から行った観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水が確認された。

なお、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福徳岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では警戒が必要である。



図 5（左）霧島山（新燃岳）小規模な噴火発生時の火口内の状況（2010 年 5 月 27 日 15 時 36 分）

【九州地方及び南西諸島】

九重山 くじゅうざん 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

阿蘇山 あそざん 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

孤立型微動は多い状態で推移した。

中岳第一火口の湯だまり量は、中旬に約 5 割まで減少したが、下旬には降水により約 7 割に増加した。表面温度¹⁾は、約 70℃と高い状態で推移したが下旬にやや低下した。南側火口壁の温度は、下旬にやや低下した。

17 日、21 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄放出量²⁾は一日あたり 300～600 トン（2010 年 4 月：500～600 トン）と少ない状態で経過した。

13 日の夜間に実施した現地調査で、南側火口壁の噴気孔において赤熱現象を観測した。この現象は火口内で発生した局所的な活動と考えられる。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、火口内では土砂や火山灰の噴出の可能性もある。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要である。

雲仙岳 うんぜんだけ 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

地震活動及び噴気活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

霧島山（新燃岳） きりしまやま しんもえだけ

【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】
6 日に噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引上げ。

6 日 07 時頃から火山性地震が増加し、火山活動



図 6（右）霧島山（新燃岳）火口の状況

28 日に九州地方整備局の協力を得て、鹿児島大学と共同で実施した上空からの観測では、火口内の西側斜面に新しい噴気孔（実線黄色丸）が確認され、噴気孔周辺に大きな噴石⁶⁾が飛散していた。

が高まった。このため、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるとして判断し、同日（6日）14時00分に火口周辺警報を発表して噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げた。その後、27日15時36分に小規模な噴火が発生した。

27日、28日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県及び九州地方整備局の協力を得て、鹿児島大学（28日）と共同で実施した上空からの観測では、火口内の西側斜面に新しい噴気孔が確認され、噴気孔周辺に大きな噴石⁶⁾が飛散していた。また、火口から約1.5kmの中岳まで降灰を確認した。

火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石⁶⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石⁶⁾（火山れき⁷⁾）に注意が必要である。

霧島山（御鉢）

【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

地震活動及び噴煙活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

桜島

【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

昭和火口では、上旬まで爆発的噴火の多い状態で経過したが、中旬以降減少した。

噴火⁸⁾が35回（2010年4月：105回）発生し、そのうち爆発的噴火⁹⁾は31回（2010年4月：100回）であった。このうち30日11時40分の爆発的噴火では、噴煙が火口縁上2,800mまで上がり、小規模の火砕流が東へ約700m流下した。これらの噴火に伴い、最も遠くまで飛散した大きな噴石⁶⁾は4合目（昭和火口から800～1,300m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

12日に実施した現地調査では、二酸化硫黄放出量²⁾は一日あたり1,000～2,700トンとやや多い状態であったが、17日には一日あたり500～900トンと減少した。

国土地理院によるGPS連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されている。

4月以降は火山灰の放出量が減少したことや、5月中旬には山体地盤の沈降傾向がみられるこ

とから、桜島直下へのマグマの供給は減少していることが考えられる。桜島の噴火活動は、中旬以降一時的にやや低下している。今後、再び火山活動が活発化することが考えられるので、火山活動の推移に注意する必要がある。

昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、大きな噴石⁶⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石⁶⁾（火山れき⁷⁾）に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島

【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね200mで推移した。

13日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、硫黄岳山頂火口及びその周辺の状況に特段の変化はなく、硫黄岳山頂火口から白色の噴煙が上がっているのが確認された。

硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石⁶⁾にも注意が必要である。

口永良部島

【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

新岳火口の噴煙活動はやや高まった状態で経過した。

13日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、前回（2010年1月26日）と比べて新岳火口からの噴煙量が増加していた。

その他の火山活動に特段の変化はなく、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、火口内では引き続き噴煙がみられており、火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要である。

諏訪之瀬島

【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

御岳火口では、爆発的噴火¹⁰⁾を含む噴火が断続的に発生し、噴火活動は活発に経過した。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

13日に第十管区海上保安本部が実施した上空

6) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、それより小さく風の影響を受ける噴石は、例えば「風の影響を受ける小さな噴石」という表現を用いる。

7) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

8) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが1,000m以上）の噴火の回数を計数している。基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としている。

9) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としている。

10) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としている。

からの観測では、御岳火口及びその周辺の状況に特段の変化はなく、御岳火口から白色の噴煙が上がっているのが確認された。

御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石⁶⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石⁶⁾に注意が必要である。

いおうとりしま
硫黄島 【噴火予報（平常）】

27 日に気象庁地球環境・海洋部が実施した海上からの観測では、島の北側に位置する硫黄岳火口および中央部に位置するグスク火山火口から、従来より認められている噴気が確認された。硫黄岳火口では、前回の観測時（2010 年 4 月 20 日）と比べて、噴気量は少ない状況であった。

その他の状況に特段の変化は認められず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられない。

資料 1 全国の主な活火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ

(1) 主な活火山

噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月 1 日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または連続的に監視を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況 (平成 22 年 5 月 31 日現在)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2008 年 9 月 29 日 火口周辺警報 (火口周辺危険) 2008 年 10 月 17 日 噴火予報 (平常) 2008 年 11 月 17 日 火口周辺警報 (火口周辺危険) 2008 年 12 月 16 日 火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制) 2009 年 4 月 10 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	十勝岳	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2008 年 12 月 16 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	樽前山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	倶多楽	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
	有珠山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2008 年 6 月 9 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	北海道駒ヶ岳	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	恵山	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
東北地方	岩木山	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
	岩手山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	秋田駒ヶ岳	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2009 年 10 月 27 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	栗駒山	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
	吾妻山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	安達太良山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2009 年 3 月 31 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	磐梯山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2009 年 3 月 31 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2009 年 3 月 31 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	草津白根山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常) 2009 年 4 月 10 日 噴火予報 (レベル 1、平常) 切替
	浅間山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常) 2008 年 8 月 8 日 火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制) 2009 年 2 月 1 日 火口周辺警報 (レベル 3、入山規制) 2009 年 2 月 3 日 火口周辺警報 (レベル 3、入山規制) 切替 2009 年 4 月 7 日 火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制) 2010 年 4 月 15 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	新潟焼山	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
	御嶽山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2008 年 3 月 31 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	白山	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
	富士山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	箱根山	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常) 2009 年 3 月 31 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	伊豆東部火山群	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
	伊豆大島	噴火予報 (レベル 1、平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (レベル 1、平常)
	三宅島	火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制)	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報 (火口周辺危険) 2008 年 3 月 31 日 火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制)
	八丈島	噴火予報 (平常)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報 (平常)
	硫黄島	火口周辺警報 (火口周辺危険)	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報 (火口周辺危険)
福徳岡ノ場	噴火警報 (周辺海域警戒)	2007 年 12 月 1 日 噴火警報 (周辺海域警戒)	

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況 (平成 22 年 5 月 31 日現在)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	阿蘇山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制)	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2008 年 8 月 22 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2008 年 10 月 29 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2010 年 3 月 30 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2010 年 4 月 16 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2010 年 5 月 6 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	桜島	火口周辺警報 (レベル 3、入山規制)	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2008 年 2 月 3 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2008 年 2 月 20 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2008 年 4 月 8 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2008 年 7 月 14 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2008 年 7 月 28 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2008 年 8 月 28 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009 年 2 月 2 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009 年 2 月 19 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009 年 3 月 2 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009 年 3 月 10 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2009 年 4 月 24 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009 年 7 月 19 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制)	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2008 年 1 月 25 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2008 年 9 月 4 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2008 年 10 月 27 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009 年 3 月 18 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009 年 8 月 4 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2009 年 9 月 27 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009 年 10 月 30 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル 2、火口周辺規制)	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制）

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。（平成 22 年 5 月 31 日現在）

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山

●世界の主な地震

平成 22 年（2010 年）5 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

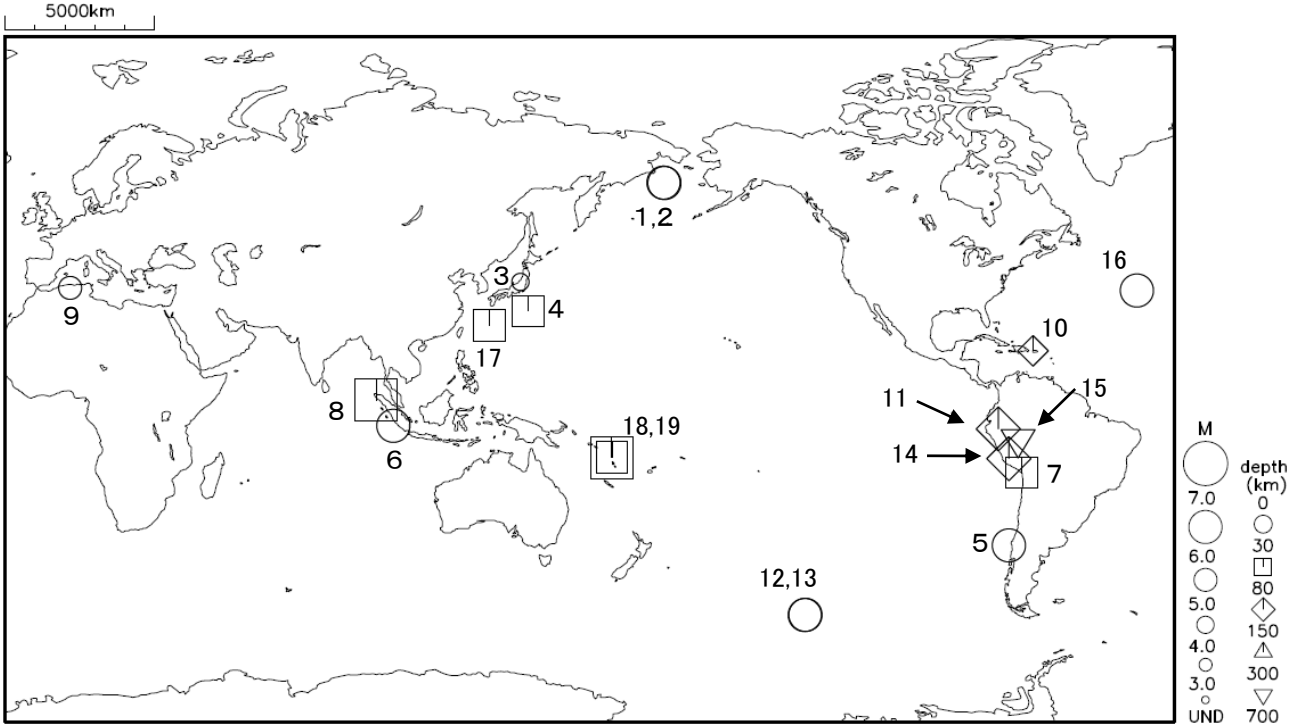


図 1 平成 22 年（2010 年）5 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

* : 震源要素は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

** : 数字は、表 1 の番号に対応する。

*** : マグニチュードは表 1 の mb (実体波マグニチュード)、Ms (表面波マグニチュード)、Mw (モーメントマグニチュード) のいずれか大きい値を用いて表示している。

表 1 平成 22 年（2010 年）5 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	印洋	遠地
1	05月01日08時11分	N60° 30.6'	W177° 53.8'	17	6.0		6.5	ベーリング海				
2	05月01日08時16分	N60° 25.7'	W177° 36.6'	14	6.0		6.3	ベーリング海				
3	05月01日18時20分	N37° 33.5'	E139° 11.4'	9	4.9	(4.9)		新潟県中越地方	負傷者1人など (p.6参照)			
4	05月03日19時27分	N29° 43.6'	E141° 29.4'	65	(6.1)	(6.1)	(6.1)	鳥島近海	(p.13参照)			
5	05月04日08時09分	S38° 16.2'	W 74° 18.5'	23	5.8	5.9	6.3	チリ中部沖				
6	05月06日01時29分	S 4° 03.3'	E101° 05.7'	27	5.9	6.6	6.6	インドネシア、スマトラ南部			○	
7	05月06日11時42分	S18° 03.3'	W 70° 32.9'	37	6.7	5.9	6.2	チリ北部沿岸	負傷者11人、建物被害数棟、公共設備に被害、地すべり			
8	05月09日14時59分	N 3° 45.0'	E 96° 02.0'	45	6.7	7.3	(7.2)	インドネシア、スマトラ北部	シムルー島で被害報告 (p.36参照)		○	○
9	05月14日21時29分	N35° 59.8'	E 4° 09.7'	10	5.2			アルジェリア北部	死者2人、負傷者43人			
10	05月16日14時16分	N18° 24.0'	W 67° 04.2'	113	5.4		5.8	モナ海峽	住家被害、地すべり			
11	05月19日13時15分	S 5° 01.1'	W 77° 29.7'	138	6.0		6.0	ペルー北部				
12	05月19日19時30分	S54° 48.8'	W135° 18.3'	10	5.4	5.7	6.0	太平洋-南極海嶺				
13	05月19日19時51分	S54° 51.7'	W135° 32.2'	10	5.4	5.8	6.0	太平洋-南極海嶺				
14	05月24日07時46分	S13° 55.2'	W 74° 19.5'	95			6.1	ペルー中部				
15	05月25日01時18分	S 8° 04.6'	W 71° 32.8'	583	6.0		6.5	ブラジル西部				
16	05月25日19時09分	N35° 18.0'	W 35° 54.3'	10	5.5	5.5	6.3	大西洋中央海嶺北部				
17	05月26日17時53分	N25° 44.5'	E129° 59.3'	48		(6.4)	(6.6)	南大東島近海	(p.11参照)			
18	05月28日02時14分	S13° 40.1'	E166° 34.6'	31			(7.2)	バヌアツ諸島	(p.37参照)	○		○
19	05月28日05時48分	S13° 37.8'	E166° 40.2'	35			6.4	バヌアツ諸島				

・震源要素、被害状況等は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による (平成 22 年 6 月 7 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュード (Ms の欄に括弧を付して記載) は気象庁に、被害状況は総務省消防庁に、Mw の欄に括弧つきで記されている地震のモーメントマグニチュードは気象庁による。

・震源時は日本時間 [日本時間=協定世界時+9時間] である。

・「北西」、「印洋」各欄の○印はそれぞれ、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA)、及び、インド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報 (TWI) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照) を発表したことを表す。

・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

5 月 9 日 インドネシア、スマトラ北部の地震

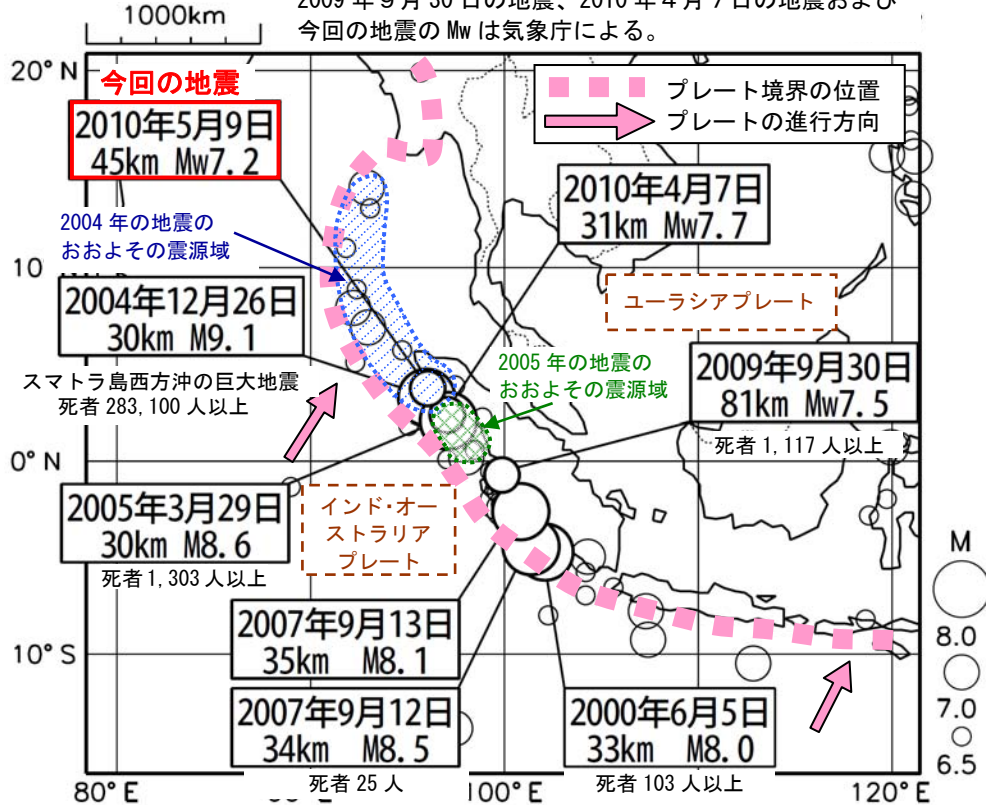
2010 年 5 月 9 日 14 時 59 分（日本時間）に Mw7.2（Mw は気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁による CMT 解）は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、この地震は 2004 年 12 月 26 日の地震（M9.1）の震源域で発生した。インドネシアのシムルー島では、軽微な被害や停電の発生が報告されている（米国地質調査所の資料より引用）。

気象庁は、同日 15 時 18 分に「インド洋津波監視情報」を発表し、15 時 25 分に「遠地地震に関する情報」を発表した。

この地震は、ユーラシアプレートとスマトラ島の地下に沈み込むインド・オーストラリアプレートの境界で発生した地震で、今回の地震の震源周辺では M7.0 を超えるプレート境界型の地震が度々発生している。

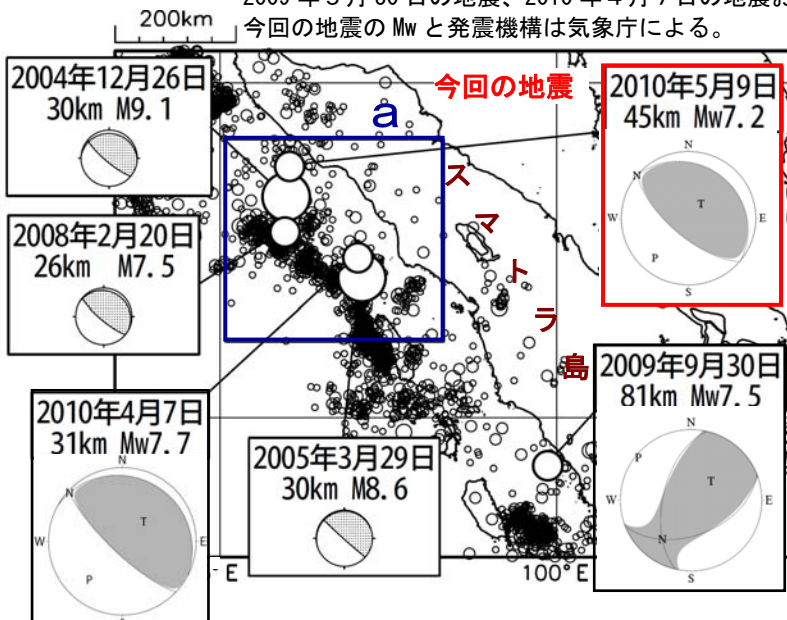
震央分布図（1980 年 1 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、深さ 0～100km、M \geq 6.5）

※ 震源要素、被害は米国地質調査所 (USGS) による。
2009 年 9 月 30 日の地震、2010 年 4 月 7 日の地震および今回の地震の Mw は気象庁による。

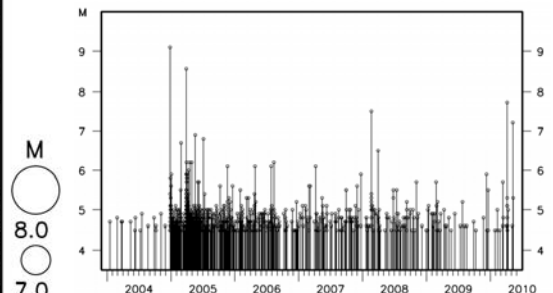


震央分布図（2004 年 1 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、深さ 0～100km、M \geq 4.5）

※ 震源要素と発震機構は米国地質調査所 (USGS) による。
2009 年 9 月 30 日の地震、2010 年 4 月 7 日の地震および今回の地震の Mw と発震機構は気象庁による。



領域 a 内の M-T 図



注) 2009 年 9 月 30 日の地震はインド・オーストラリアプレート内部の地震

5 月 28 日 バヌアツ諸島の地震

2010 年 5 月 28 日 02 時 14 分（日本時間）、バヌアツ諸島で Mw7.2（Mw は気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁 CMT 解）は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとインド-オーストラリアプレートのプレート境界で発生した。

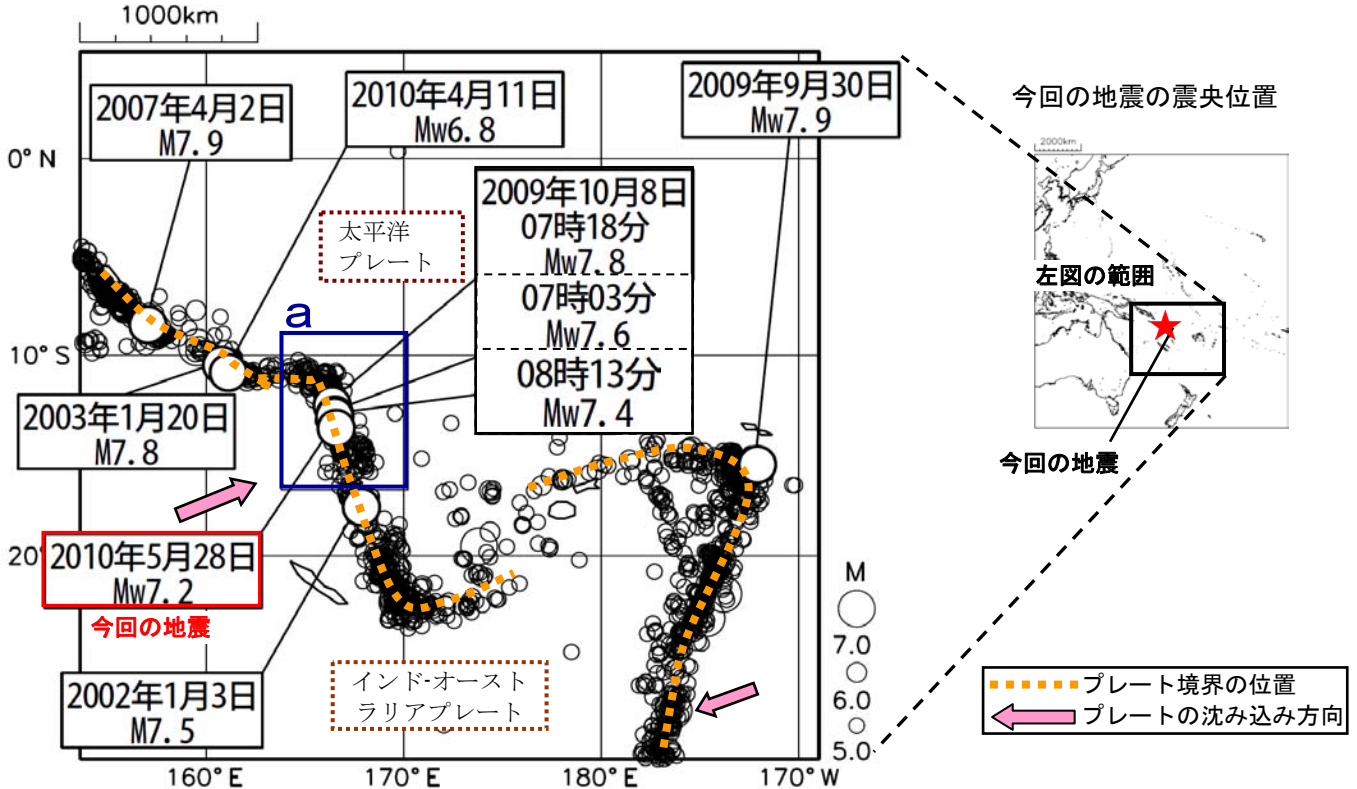
気象庁は、同日 02 時 35 分に「北西太平洋津波情報」を、02 時 43 分に「遠地地震に関する情報」を発表した。

今回の地震の震央周辺では、M7 クラスの地震が度々発生している。

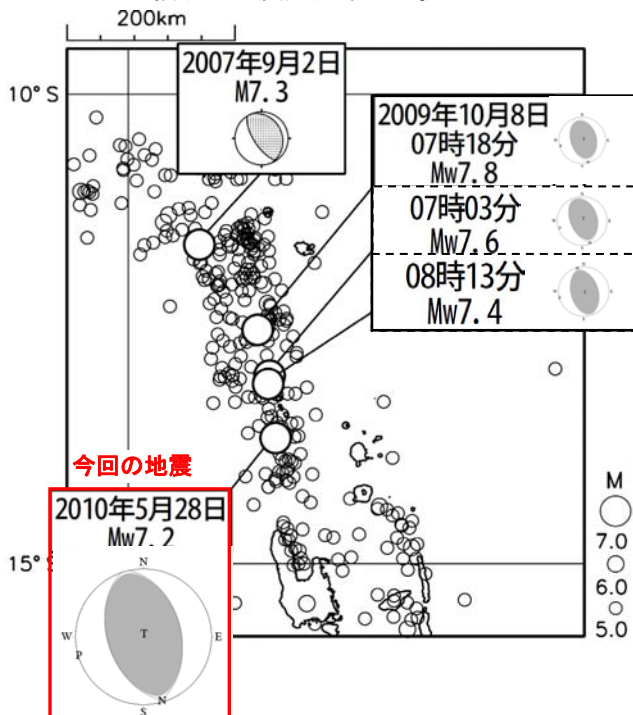
震央分布図（2000 年 1 月 1 日～2010 年 5 月 31 日、
深さ 0～100km、M≥5.0）

※ 震源要素は米国地質調査所による。

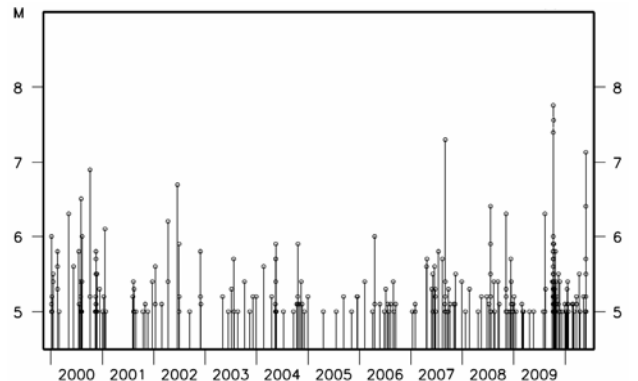
ただし、今回の地震及び 2009 年 9 月 30 日、10 月 8 日、
2010 年 4 月 11 日の地震のマグニチュード (Mw) 及び発震機構は気象庁による。



領域 a の震央分布図（拡大図）



領域 a 内の M-T 図



● 世界の主な火山活動

平成 22 年（2010 年）5 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エイヤフィヤトラヨークトル（アイスランド）（図中 A）

4 月に活発化した火山活動は、5 月も継続した。山頂火口からの火山灰は海拔 4～9 km（13,100～29,500 フィート）まで上がり、風向きによって各方位へと流れた。この間、ヨーロッパ各国では火山灰の影響により、時折、航空便の欠航や空港の閉鎖が行われた。

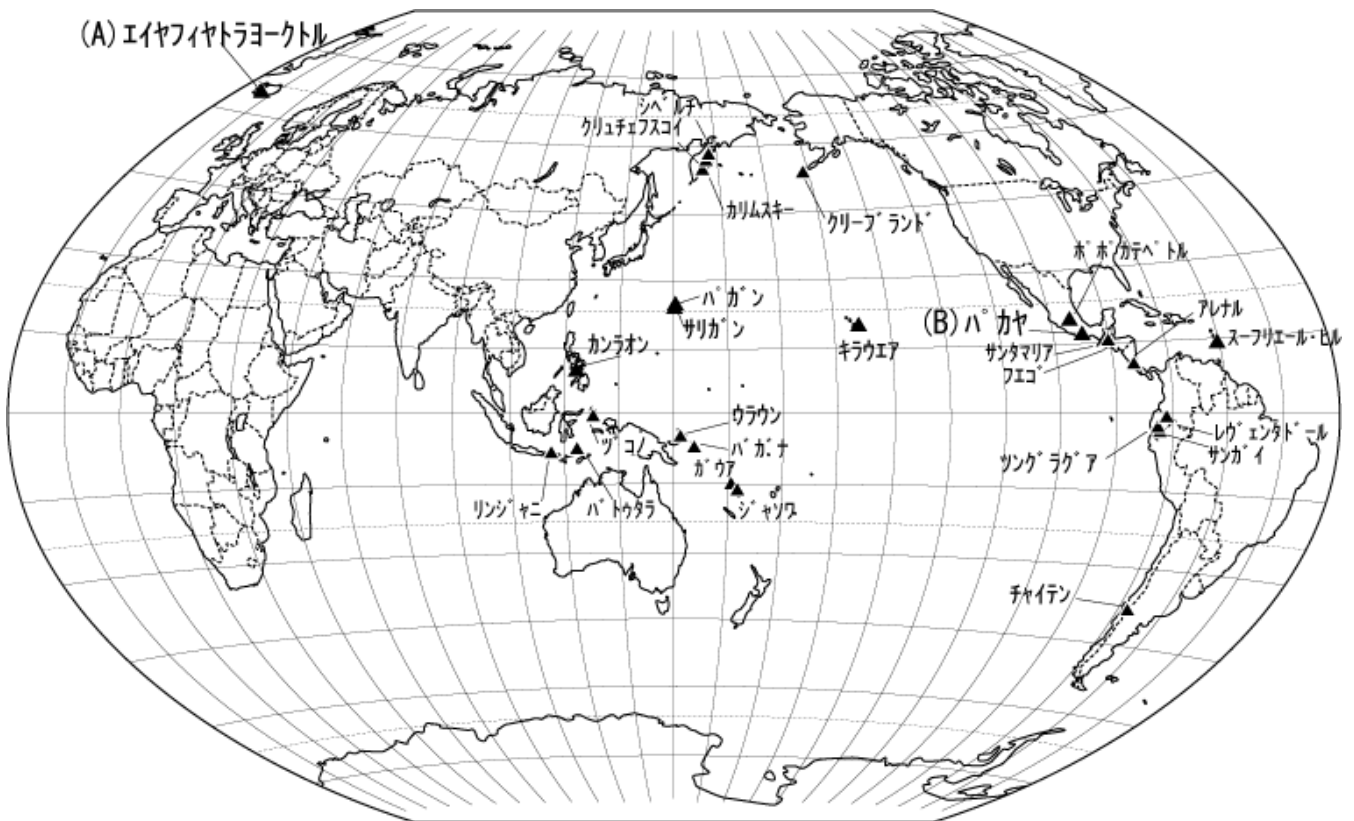
5 月 5～6 日にかけて溶岩流出が減少し、溶岩流の前進は止まった。一方、6～7 日には多量の降灰が 55～70km 離れた場所であった。19 日の激しい雨に伴って泥流が発生した。

19 日以降、活動は全般的に衰えてきたが、噴火は継続し 31 日にもアイスランド南西部で降灰が確認されている。

パカヤ（グアテマラ）（図中 B）

マッケニー・コーンで、5 月 27 日に上空 500m に連続的に火砕物を放出するストロンボリ式噴火が始まった。28 日には火口上 1 km に黒色噴煙を噴出する一連の噴火が継続し、火山灰は風下に 20～30km 流れ、西から北北東域の 6 都市で約 1600 人が避難し、オーロラ国際空港が閉鎖された。1 人の死亡と 3 人の行方不明が報じられている。29 日には溶岩が火口から南に 2～2.5km 流下した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



●付表 1. 震度 1 以上を観測した地震の表

※地震の震源要素及び震度は再調査後、修正することがある。確定した震源要素は「地震・火山月報（カタログ編）」、震度データは「地震年報」に掲載する。震度データは都道府県別に掲載し、各観測点の末尾に計測震度（各年の地震・火山月報（防災編）12月号の付録1参照）を記す。なお、*のついている地点は、地方公共団体もしくは独立行政法人防災科学技術研究所の震度観測点、（注）を付した地震については、近接した地域でほぼ同時刻に発生した地震であるため震度の分離ができないことを示す。震源の深さの後に「F」を付した地震は、その深さに仮定して震源決定していることを示す。

※震度 3 以上を観測した地震については、震源要素を**太字**で表示する。

地震番号	震源時 日時分	震央地名 各地の震度（計測震度）	緯度	経度	深さ	規模
1	1 00 45	駿河湾 静岡県 1 牧之原市相良* =0.5	34° 45.1' N	138° 30.3' E	22km	M: 3.0
2	1 08 07	岩手県内陸南部 岩手県 1 奥州市衣川区* =0.7 奥州市胆沢区* =0.5	39° 05.4' N	140° 56.1' E	6km	M: 3.1
3	1 12 59	和歌山県北部 和歌山県 1 日高川町土生* =0.8 白浜町日置* =0.7 御坊市藪 =0.6	33° 58.7' N	135° 28.7' E	55km	M: 3.1
4	1 14 31	鹿児島県薩摩地方 宮崎県 鹿児島県 1 都城市姫城町* =0.5 1 大崎町仮宿* =0.9 錦江町田代支所* =0.7 肝付町北方* =0.5	31° 17.1' N	130° 23.1' E	155km	M: 4.1
5	1 18 20	新潟県中越地方 新潟県 4 三条市荻堀* =4.0 見附市昭和町* =3.9 加茂市幸町* =3.8 田上町原ヶ崎新田* =3.7 魚沼市穴沢* =3.7 長岡市上岩井* =3.6 阿賀町鹿瀬中学校* =3.6 五泉市愛宕甲* =3.5 魚沼市須原* =3.5 3 五泉市村松乙* =3.4 阿賀町白崎* =3.4 三条市新堀* =3.3 長岡市与板町与板* =3.3 三条市西裏館* =3.3 長岡市中之島* =3.1 新潟秋葉区程島* =3.1 新潟西蒲区役所* =3.1 阿賀町津川* =3.0 出雲崎町米田* =3.0 弥彦村矢作* =3.0 阿賀野市姥ヶ橋* =3.0 長岡市小島谷* =2.9 長岡市千手* =2.9 新潟秋葉区新津東町* =2.9 阿賀野市保田* =2.8 長岡市金町* =2.8 五泉市太田* =2.8 新潟西蒲区巻甲* =2.8 燕市白山町* =2.7 新潟南区白根* =2.7 長岡市寺泊敦ヶ根* =2.7 燕市吉田日之出町* =2.7 長岡市浦* =2.6 阿賀野市岡山町* =2.6 阿賀野市畑江* =2.5 長岡市幸町* =2.5 出雲崎町川西* =2.5 燕市分水桜町* =2.5 阿賀町鹿瀬支所* =2.5 2 長岡市寺泊一里塚* =2.4 長岡市山古志竹沢* =2.4 聖籠町諏訪山* =2.4 阿賀町豊川* =2.4 新潟中央区幸西* =2.3 十日町市松代* =2.2 魚沼市米沢* =2.2 阿賀野市山崎* =2.2 新潟北区葛塚* =2.2 新潟西区寺尾上* =2.2 魚沼市今泉* =2.1 関川村下関* =2.1 新潟東区古川町* =2.1 上越市安塚区安塚* =2.1 新潟中央区関屋* =2.1 新潟江南区泉町* =2.1 新発田市乙次* =2.0 長岡市小国町法坂* =2.0 新潟中央区新潟市役所* =2.0 柏崎市西山町池浦* =2.0 新潟空港* =1.9 刈羽村割町新田* =1.9 魚沼市大沢* =1.8 十日町市上山* =1.8 南魚沼市浦佐* =1.7 新発田市中央町* =1.7 村上市府屋* =1.7 上越市大手町* =1.7 上越市吉川区原之町* =1.7 長岡市寺泊烏帽子平* =1.7 小千谷市城内* =1.7 佐渡市河原田本町* =1.7 小千谷市旭町* =1.6 糸魚川市大野* =1.6 魚沼市堀之内* =1.6 南魚沼市六日町* =1.6 上越市牧区柳島* =1.5 1 糸魚川市青海* =1.4 長岡市東川口* =1.4 十日町市千歳町* =1.4 魚沼市小出島* =1.4 佐渡市相川三町目* =1.4 佐渡市岩谷口* =1.4 上越市浦川原区釜淵* =1.3 上越市三和区井ノ口* =1.3 妙高市関川* =1.3 十日町市高山* =1.3 南魚沼市塩沢小学校* =1.3 新発田市本町* =1.3 村上市寒川* =1.3 胎内市大川町* =1.3 胎内市黒川* =1.3 佐渡市千種* =1.3 南魚沼市塩沢庁舎* =1.2 新発田市稲荷岡* =1.2 村上市山口* =1.2 佐渡市両津湊* =1.2 十日町市水口沢* =1.2 村上市今宿* =1.1 上越市中ノ俣* =1.1 上越市柿崎区柿崎* =1.1 上越市名立区名立大町* =1.1 柏崎市中央町* =1.1 村上市塩町* =1.0 村上市片町* =1.0 上越市木田* =1.0 上越市大潟区土底浜* =1.0 妙高市田町* =1.0 糸魚川市一の宮* =1.0 糸魚川市能生* =1.0 佐渡市真野新町* =0.9 上越市頸城区百間町* =0.9 上越市大島区岡* =0.9 佐渡市畑野* =0.8 上越市清里区荒牧* =0.8 村上市岩沢* =0.8 胎内市新和町* =0.8 佐渡市新徳瓜生屋* =0.7 湯沢町神立* =0.7 佐渡市松ヶ崎* =0.5 妙高市栄町* =0.5 村上市三之町* =0.5 津南町下船渡* =0.5 福島県 3 只見町只見* =2.9 西会津町野沢* =2.9 西会津町登世島* =2.8 2 南会津町古町* =2.2 喜多方市高郷町* =2.2 檜枝岐村上河原* =2.2 南会津町滝原* =2.0 福島金山町川口* =1.9 南会津町界* =1.9 南会津町松戸原* =1.7 会津坂下町市中三番甲* =1.7 南会津町山口* =1.7 湯川村笈川* =1.7 柳津町柳津* =1.7 喜多方市塩川町* =1.7 福島昭和村下中津川* =1.7 郡山市湖南町* =1.7 本宮市糠沢* =1.7 大玉村玉井* =1.6 磐梯町磐梯* =1.5 猪苗代町千代田* =1.5 本宮市本宮* =1.5 1 喜多方市山都町* =1.4 三島町宮下* =1.4 会津美里町新鶴庁舎* =1.4 南会津町田島* =1.4 田村市大越町* =1.3 檜枝岐村下ノ原* =1.3 猪苗代町城南* =1.2 北塩原村北山* =1.1 楯葉町北田* =1.1 会津若松市北会津町* =1.1 喜多方市松山町* =1.0 会津若松市東栄町* =1.0 郡山市朝日* =0.9 大玉村曲藤* =0.9 いわき市錦町* =0.9 福島広野町下北迫大谷地原* =0.9 会津美里町高田庁舎* =0.8 会津美里町本郷庁舎* =0.8 郡山市開成* =0.8 会津若松市材木町* =0.8 喜多方市熱塩加納町* =0.7 田村市都路町* =0.7 下郷町高陸* =0.7 川内村上川内小山平* =0.6 下郷町塩生* =0.6 浪江町幾世橋* =0.6 いわき市小名浜* =0.6 大熊町野上* =0.5 群馬県 3 渋川市北橋町* =3.2 沼田市西倉内町* =2.6 渋川市八木原* =2.5 2 沼田市下久屋町* =2.4 みなかみ町鹿野沢* =2.2 前橋市堀越町* =2.1 高崎市高松町* =2.1 渋川市赤城町* =2.1 渋川市吹屋* =2.1 吉岡町下野田* =2.1 神流町生利* =2.1 高崎市倉沢町* =2.0 沼田市白沢町* =2.0 安中市安中* =1.9 沼田市利根町* =1.9 片品村東小川* =1.9 甘楽町小幡* =1.9 玉村町下新田* =1.9 伊勢崎市西久保町* =1.9 前橋市粕川町* =1.8 高崎市足門町* =1.8				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
6	2 08 59	<p>渋川市石原*1.7 東吾妻町原町=1.7 渋川市伊香保町*1.6 川場村谷地*1.6 高崎市箕郷町*1.6 高崎市新町*1.6 桐生市黒保根町*1.6 東吾妻町奥田*1.6 太田市西本町*1.6 群馬昭と村糸井*1.6 中之条町日影=1.6 富岡市七日市=1.5 1 群馬高山村中山*1.4 片品村鎌田*1.4 伊勢崎市境*1.4 渋川市村上*1.4 藤岡市中栗須*1.4 前橋市昭和町=1.3 前橋市駒形町*1.3 高崎市吉井町吉井川*1.3 みなかみ町後閑*1.2 榛東村新井*1.2 前橋市大手町*1.1 桐生市元宿町*1.1 群馬上野村川和*1.1 邑楽町中野*1.1 中之条町小雨*1.1 長野原町長野原*1.1 東吾妻町本宿*1.1 富岡市妙義町*1.0 神流町神ヶ原*1.0 高崎市下室田*1.0 みどり市笠懸町*1.0 桐生市織姫町=0.9 太田市粕川町*0.9 館林市城町*0.9 中之条町中之条町*0.9 群馬千代田町赤岩*0.9 みなかみ町布施*0.9 板倉町板倉=0.8 群馬明和町新里*0.8 みどり市大間々町*0.8 太田市浜町*0.8 安中市松井田町*0.8 みどり市東町*0.6 太田市大原町*0.6 館林市美園町*0.6 下仁田町下小坂*0.6 太田市新田金井町*0.5 2 山辺町緑ヶ丘*2.1 中山町長崎*2.1 飯豊町上原*2.0 鶴岡市温海川=1.8 米沢市林泉寺*1.6 酒田市亀ヶ崎=1.5 村山市中央*1.5 1 河北町谷地=1.4 河北町役場*1.4 山形小国町小国小坂町*1.4 鶴岡市上山添*1.3 大石田町緑町*1.3 山形川西町上小松*1.3 上山市河崎*1.3 鶴岡市道田町*1.3 大江町左沢*1.2 尾花沢市若葉町*1.2 南陽市三間通*1.2 高島町高島*1.2 西川町大井沢*1.1 米沢市駅前=1.1 寒河江市中央*1.1 長井市ままの上*1.0 山形朝日町宮宿*1.0 鶴岡市下名川*1.0 山形小国町岩井沢=0.9 大蔵村肘折*0.9 白鷹町黒鴨=0.9 米沢市金池*0.9 飯豊町椿*0.8 寒河江市西根*0.8 東根市中央*0.8 舟形町舟形*0.7 鶴岡市馬場町=0.6 山形市薬師町*0.5 2 日光市日蔭*1.7 日光市中鉢石町*1.6 高根沢町石末*1.5 日光市鬼怒川温泉大原*1.5 那須塩原市塩原庁舎*1.5 1 日光市湯元*1.4 日光市藤原*1.3 宇都宮市明保野町=1.2 鹿沼市晃望台*1.2 日光市今市本町*1.1 足利市大正町*1.1 真岡市石島*1.1 鹿沼市今宮町*0.9 日光市瀬川=0.8 那須塩原市中塩原*0.8 那須塩原市麓沼=0.7 宇都宮市塙田*0.5 真岡市田町*0.5 栃木那珂川町馬頭*0.5 2 加須市大利根*1.8 1 長瀨町野上下郷*1.4 加須市下三俣*1.2 熊谷市大里*1.1 熊谷市妻沼*1.0 本庄市本庄*1.0 久喜市下早見=1.0 秩父市中津川*1.0 上里町七本木*0.9 春日部市谷原新田*0.9 さいたま大宮区天沼町*0.9 小鹿野町両神薄=0.9 行田市本丸*0.9 埼玉神川町植竹*0.9 秩父市近戸町*0.8 熊谷市桜町=0.8 本庄市児玉町=0.7 埼玉美里町木部*0.7 熊谷市宮町*0.7 滑川町福田*0.6 川島町平沼*0.6 深谷市仲町*0.5 深谷市花園*0.5 行田市南河原*0.5 2 能登町宇出津=1.6 1 輪島市鳳至町=1.4 能登町松波*1.2 珠洲市正院町*1.1 穴水町大町*0.8 輪島市軸倉島=0.5 2 小川村高府*1.9 長野市中条*1.8 長野市戸隠*1.6 1 飯綱町芋川*1.4 長野市豊野町豊野*1.3 中野市豊津*1.3 飯綱町牟礼*1.3 信濃町柏原東裏*1.2 長野市信州新町新町*1.1 大町市八坂*1.0 栄村北信*1.0 小海町豊里*1.0 長野市鬼無里*0.9 飯山市飯山福寿町*0.9 軽井沢町追分=0.9 千曲市杭瀬下*0.8 坂城町坂城*0.7 長野市箱清水=0.6 木島平村往郷*0.5 筑北村坂井=0.5 1 名取市増田*1.2 岩沼市桜*1.1 大河原町新南*1.0 宮城加美町中新田*0.9 山元町浅生原*0.8 蔵王町円田*0.7 角田市角田*0.7 仙台青葉区大倉=0.5 1 横手市大雄*0.5 1 日立市役所*1.1 土浦市常名=0.9 つくば市小莖*0.9 筑西市舟生=0.9 大子町池田*0.8 水戸市金町=0.7 水戸市千波町*0.7 日立市助川小学校*0.5 1 滑川市寺家町*0.8 舟橋村仏生寺*0.8 魚津市釈迦堂=0.6 黒部市宇奈月町下立*0.6 富山朝日町道下=0.6 入善町入膳*0.5 1 山梨北杜市長坂町*1.2 甲斐市下今井*0.9</p>				
		<p>茨城県沖 福島県 36° 39.9' N 141° 14.6' E 46km M: 4.4 2 川内村上川内早渡*1.6 大熊町下野上*1.5 楢葉町北田*1.5 田村市都路町*1.5 1 二本松市針道*1.4 大熊町野上*1.4 いわき市小名浜=1.3 いわき市錦町*1.3 川俣町五百田*1.3 浪江町幾世橋=1.3 二本松市油井*1.2 田村市大越町*1.2 双葉町新山*1.2 白河市新白河*1.2 福島市五老内町*1.1 猪苗代町千代田*1.1 須賀川市岩瀬支所*1.1 川内村下川内=1.1 川内村上川内小山平*1.1 天栄村下松本*1.1 郡山市開成*1.1 本宮市糠沢*1.0 玉川村小高*1.0 いわき市三和町=1.0 いわき市平四ツ波*1.0 猪苗代町城南=1.0 浅川町浅川*1.0 郡山市湖南町*1.0 古殿町松川*0.9 田村市滝根町*0.9 福島広野町下北迫大谷地原*0.9 葛尾村落合落合*0.9 福島市桜木町*0.8 富岡町本岡*0.8 田村市常葉町*0.8 平田村永田*0.8 郡山市朝日=0.8 福島市松木町=0.8 飯館村伊丹沢*0.8 南相馬市原町区高見町*0.7 小野町小野新町*0.7 大玉村曲藤=0.7 須賀川市八幡山*0.7 福島広野町下北迫苗代替*0.6 田村市船引町=0.6 棚倉町棚倉中居野=0.6 二本松市金色*0.5 白河市郭内=0.5 小野町中通*0.5 2 ひたちなか市南神敷台*1.7 銚田市当間*1.7 高萩市本町*1.5 1 日立市助川小学校*1.3 日立市十王町友部*1.3 常陸太田市高柿町*1.3 高萩市安良川*1.3 土浦市常名=1.2 笠間市中央*1.1 笠間市石井*1.0 茨城町小堤*1.0 小美玉市堅倉*1.0 水戸市金町=0.9 水戸市内原町*0.9 土浦市下高津*0.9 石岡市八郷*0.9 つくば市谷田部*0.9 銚田市汲上*0.9 常陸太田市町屋町=0.9 北茨城市磯原町*0.8 笠間市下郷*0.8 常陸大宮市北町*0.8 城里町阿波山*0.8 水戸市千波町*0.8 日立市役所*0.8 桜川市岩瀬*0.8 ひたちなか市東石川*0.7 石岡市柿岡=0.7 大子町池田*0.7 筑西市門井*0.7 常陸大宮市野口*0.7 那珂市福田*0.7 常陸大宮市山方*0.6 桜川市羽田*0.6 小美玉市上玉里*0.5 下妻市本城町*0.5 小美玉市小川*0.5 茨城鹿嶋市鉢形=0.5 茨城鹿嶋市宮中*0.5 稲敷市江戸崎甲*0.5 水戸市中央*0.5 1 岩沼市桜*0.9 名取市増田*0.8 蔵王町円田*0.8 角田市角田*0.5 1 真岡市石島*1.1 高根沢町石末*1.1 真岡市田町*0.7 茂木町茂木*0.7 栃木那珂川町馬頭*0.7</p>				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
		千葉県 宇都宮市明保野町=0.6 芳賀町祖母井*=0.6 下野市小金井*=0.6 1 香取市佐原下川岸=0.5				
7	2 11 06	茨城県沖 福島県 1 田村市都路町*=0.6 楢葉町北田*=0.5	36° 39.9' N	141° 13.6' E	46km	M: 3.7
8	3 00 02	秋田県沖 秋田県 2 男鹿市角間崎*=1.6 男鹿市男鹿中=1.5 1 潟上市天王*=0.8 三種町鶴川*=0.8 潟上市飯田川下虻川*=0.7	39° 53.2' N	139° 56.2' E	17km	M: 3.3
9	3 01 21	千葉県北東部 千葉県 1 成田市花崎町=1.1 多古町多古=1.0 芝山町小池*=1.0 香取市仁良*=1.0 東金市日吉台*=1.0 旭市ニ*=0.9 旭市南堀之内*=0.8 香取市佐原下川岸=0.8 横芝光町横芝*=0.7 東金市東新宿=0.5 千葉一宮町一宮=0.5	35° 44.7' N	140° 36.6' E	47km	M: 3.2
10	3 19 27	鳥島近海 東京都 2 小笠原村父島西町=1.9 小笠原村父島三日月山=1.9 小笠原村母島=1.7 1 東京千代田区大手町=0.9 青ヶ島村=0.8 宮城県 1 岩沼市桜*=0.9 丸森町鳥屋*=0.6 角田市角田*=0.5 福島県 1 玉川村小高*=1.2 田村市大越町*=0.9 二本松市針道*=0.8 川俣町五百田*=0.6 須賀川市八幡山*=0.6 浪江町幾世橋=0.6 千葉県 1 市原市姉崎*=1.1 館山市長須賀=0.6 神奈川県 1 横浜中区山手町=0.9	29° 43.6' N	141° 29.4' E	65km	M: 6.1
11	3 19 48	十勝地方中部 北海道 1 釧路市音別町直別*=1.2 十勝池田町西1条*=0.8 豊頃町茂岩本町*=0.7 十勝大樹町生花*=0.5 本別町向陽町*=0.5	43° 01.7' N	143° 37.1' E	115km	M: 3.7
12	3 22 38	石垣島近海 沖縄県 1 竹富町船浮=0.5	23° 22.4' N	123° 41.3' E	55km	M: 4.5
13	3 23 24	西表島付近 沖縄県 1 竹富町船浮=1.4	24° 12.2' N	123° 35.2' E	19km	M: 3.6
14	3 23 39	長野県南部 長野県 1 木曾町新開*=0.9 木曾町日義*=0.8 木曾町福島*=0.6 木曾町三岳*=0.5	35° 50.6' N	137° 43.9' E	8km	M: 2.5
15	4 10 18	福島県会津 福島県 2 南会津町山口*=2.0	37° 12.8' N	139° 32.2' E	5km	M: 2.3
16	4 16 56	奄美大島近海 鹿児島県 1 伊仙町伊仙*=0.8	27° 31.1' N	128° 55.5' E	39km	M: 3.6
17	5 10 45	和歌山県北部 和歌山県 1 有田川町下津野*=0.7	34° 03.6' N	135° 15.4' E	8km	M: 2.4
18	5 10 59	千葉県東方沖 千葉県 2 香取市仁良*=1.6 1 旭市ニ*=1.1 香取市佐原下川岸=1.0 香取市佐原諏訪台*=1.0 旭市南堀之内*=0.9 成田市花崎町=0.9 匝瑳市八日市場ハ*=0.6 旭市萩園*=0.6 千葉神崎町神崎本宿*=0.5 茨城県 1 稲敷市江戸崎甲*=1.0 茨城鹿嶋市宮中*=0.8 土浦市常名=0.5	35° 41.2' N	140° 41.5' E	22km	M: 3.4
19	5 22 31	岩手県沖 青森県 岩手県 1 八戸市内丸*=0.9 八戸市湊町=0.8 五戸町古館=0.7 青森南部町苫米地*=0.5 1 二戸市石切所*=0.7 軽米町軽米*=0.6	40° 12.9' N	142° 18.3' E	38km	M: 3.9
20	6 04 43	上川地方北部 北海道 1 上川中川町中川*=1.0	44° 49.6' N	142° 01.1' E	23km	M: 2.8
21	6 05 46	陸奥湾 青森県 1 むつ市脇野沢*=1.1	41° 09.4' N	140° 46.8' E	12km	M: 2.5
22	6 12 05	和歌山県北部 和歌山県 1 有田市初島町*=0.5	34° 08.8' N	135° 10.1' E	4km	M: 2.0
23	6 19 38	富山湾 富山県 1 富山市新桜町*=0.6	36° 51.5' N	137° 10.6' E	13km	M: 3.0
24	6 20 17	新潟県上中越沖 新潟県 2 出雲崎町米田=1.5 1 柏崎市西山町池浦*=1.4 長岡市寺泊軟ケ管根*=0.9 長岡市与板町与板*=0.9 出雲崎町川西*=0.9 長岡市小島谷*=0.7 長岡市幸町=0.6 長岡市千手*=0.5	37° 32.3' N	138° 38.1' E	16km	M: 3.1

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
25	7 02 29	熊本県熊本地方 熊本県 1 菊池市旭志*0.9	32° 59.2' N	130° 49.5' E	11km	M: 2.4
26	7 02 35	富山湾 富山県 1 射水市本町*0.6 射水市加茂中部*0.6 富山市新桜町*0.5	36° 51.5' N	137° 10.6' E	13km	M: 2.9
27	7 04 38	茨城県沖 茨城県 2 常陸大宮市北町*2.1 ひたちなか市南神敷台*2.0 日立市助川小学校*2.0 常陸大宮市野口*2.0 常陸太田市高柿町*1.9 水戸市金町*1.9 水戸市千波町*1.8 日立市役所*1.8 鉾田市当間*1.8 土浦市常名*1.7 日立市十王町友部*1.7 茨城町小堤*1.6 常陸大宮市上小瀬*1.6 那珂市瓜連*1.5 水戸市中央*1.5 土浦市下高津*1.5 ひたちなか市東石川*1.5 鉾田市汲上*1.5 1 笠間市石井*1.4 城里町阿波山*1.4 小美玉市堅倉*1.4 小美玉市小川*1.3 石岡市柿岡*1.3 石岡市八郷*1.3 桜川市真壁*1.3 笠間市下郷*1.2 常陸大宮市山方*1.2 那珂市福田*1.2 美浦村受領*1.2 かすみがうら市上土田*1.2 常陸太田市金井町*1.2 桜川市羽田*1.2 鉾田市鉾田*1.2 常陸太田市町屋町*1.2 高萩市安良川*1.1 行方市麻生*1.1 小美玉市上玉里*1.1 城里町石塚*1.1 大洗町磯浜町*1.1 つくば市谷田部*1.1 常陸太田市町田町*1.1 水戸市内原町*1.0 桜川市岩瀬*1.0 東海村東海*1.0 大子町池田*1.0 稲敷市江戸崎甲*1.0 筑西市海老ヶ島*1.0 常陸大宮市中富町*1.0 茨城鹿嶋市宮中*0.9 鉾田市造谷*0.9 土浦市藤沢*0.9 高萩市本町*0.9 つくば市小茎*0.9 筑西市門井*0.9 茨城鹿嶋市鉢形*0.8 笠間市中央*0.8 取手市寺田*0.8 坂東市馬立*0.8 行方市玉造*0.7 つくば市天王台*0.7 行方市山田*0.7 石岡市石岡*0.6 阿見町中央*0.6 下妻市本城町*0.5 常陸大宮市高部*0.5 福島県 1 浅川町浅川*0.6 栃木県 1 茂木町茂木*1.3 真岡市田町*1.2 真岡市石島*1.0 芳賀町祖母井*1.0 市貝町市塙*0.9 益子町益子*0.8 那須烏山市中央*0.8 栃木那珂川町馬頭*0.8 宇都宮市明保野町*0.5 小山市神鳥谷*0.5 千葉県 1 成田市花崎町*0.9 香取市佐原下川岸*0.6	36° 25.8' N	140° 41.2' E	53km	M: 3.9
28	7 13 16	福島県中通り 福島県 茨城県 1 浅川町浅川*0.9 1 ひたちなか市南神敷台*0.7	37° 10.8' N	140° 25.8' E	83km	M: 3.2
29	8 09 15	陸奥湾 青森県 1 むつ市脇野沢*0.5	41° 08.9' N	140° 46.8' E	11km	M: 2.3
30	8 11 14	陸奥湾 青森県 1 むつ市脇野沢*0.9	41° 09.1' N	140° 46.9' E	12km	M: 2.4
31	8 19 42	秋田県内陸南部 宮城県 山形県 1 大崎市鳴子*0.8 1 戸沢村古口*0.8	38° 57.4' N	140° 37.3' E	3km	M: 2.9
32	8 20 27	山梨県中・西部 静岡県 山梨県 2 富士宮市野中*1.7 1 静岡葵区梅ヶ島*0.7 1 山梨南部町栄小学校*0.8	35° 16.5' N	138° 27.1' E	18km	M: 2.9
33	9 06 39	石垣島近海 沖縄県 1 竹富町大原*0.9	24° 51.6' N	123° 30.1' E	105km	M: 4.2
34	9 13 33	東京都 23区 東京都 3 調布市つつじヶ丘*3.3 東京千代田区大手町*3.0 東京練馬区豊玉北*2.8 東京中野区中野*2.8 西東京市中町*2.8 東京世田谷区成城*2.6 東京杉並区桃井*2.5 2 東京練馬区東大泉*2.4 東京港区白金*2.3 東京目黒区中央町*2.2 東京新宿区上落合*2.1 東京世田谷区三軒茶屋*2.1 東京新宿区百人町*2.1 三鷹市野崎*2.1 東京江東区枝川*2.1 東京品川区北品川*2.1 東京渋谷区宇田川町*2.0 東京府中市本町*2.0 狛江市和泉本町*2.0 武蔵野市吉祥寺東町*2.0 東京世田谷区世田谷*1.9 小金井市本町*1.9 小平市小川町*1.9 国分寺市戸倉*1.9 稲城市東長沼*1.8 東京千代田区麴町*1.8 東京世田谷区中町*1.8 東京中野区中央*1.8 調布市小島町*1.7 八王子市堀之内*1.7 東京千代田区九段南*1.7 東京杉並区阿佐谷*1.7 東京新宿区歌舞伎町*1.7 東大和市中央*1.7 東京中央区築地*1.6 東京大田区本羽田*1.6 東京中央区勝どき*1.6 昭島市田中町*1.6 多摩市関戸*1.6 東村山市美住町*1.5 東京中野区江古田*1.5 東京杉並区高井戸*1.5 清瀬市中里*1.5 東京練馬区光が丘*1.5 東京文京区本郷*1.5 武蔵野市緑町*1.5 1 東京港区芝公園*1.4 東京国際空港*1.4 東京北区西ヶ原*1.4 東京府中市白糸台*1.4 日野市神明*1.4 国分寺市本多*1.4 東京大田区大森東*1.3 東京江戸川区船堀*1.3 東京中央区日本橋兜町*1.3 東京港区南青山*1.3 あきる野市伊奈*1.3 東京文京区スポーツセンタ*1.3 東京文京区大塚*1.3 東京江東区森下*1.3 東京品川区広町*1.3 東京北区赤羽南*1.2 東京江戸川区中央*1.2 東京大田区多摩川*1.2 町田市役所*1.2 八王子市大横町*1.1 青梅市東青梅*1.1 青梅市日向和田*1.1 町田市忠生*1.1 町市中町*1.1 東京台東区東上野*1.1 東久留米市本町*1.0 東京葛飾区立石*1.0 八王子市石川町*1.0 国立市富士見台*1.0 武蔵村山市本町*0.9 東京荒川区東尾久*0.9 東京足立区伊興*0.9 東京江東区東陽*0.8 東京台東区千束*0.7 東京足立区千住*0.7 東京大田区蒲田*0.7 立川市泉町*0.7 檜原村本宿*0.7 東京荒川区荒川*0.7 東京足立区神明南*0.6	35° 40.5' N	139° 39.6' E	27km	M: 3.8

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
		<p>東京板橋区板橋*=0.6 東京墨田区吾妻橋*=0.6 羽村市緑ヶ丘*=0.5</p> <p>埼玉県 2 新座市野火止*=2.0 狭山市入間川*=1.8 和光市広沢*=1.6 朝霞市本町*=1.6 川越市旭町=1.5 川越市新宿町*=1.5</p> <p>1 川口市中青木分室*=1.4 さいたま大宮区天沼町*=1.4 富士見市鶴馬*=1.3 戸田市上戸田*=1.3 入間市豊岡*=1.3 さいたま浦和高砂=1.2 埼玉三芳町藤久保*=1.1 所沢市北有楽町*=1.1 さいたま岩槻区本町*=1.0 上尾市本町*=0.8 ふじみ野市大井中央*=0.8 草加市高砂*=0.7 越生町越生*=0.6 春日部市谷原新田*=0.5</p> <p>神奈川県 2 横浜港北区日吉本町*=2.3 川崎川崎区宮前町*=2.2 横浜青葉区市ヶ尾町*=2.0 川崎麻生区片平*=1.9 川崎中原区小杉町*=1.8 横浜神奈川区白幡上町*=1.7 横浜保土ヶ谷区上菅田町*=1.7 川崎宮前区宮前平*=1.7 横浜緑区十日市場町*=1.6 川崎中原区小杉陣屋町=1.6 川崎宮前区野川*=1.6 川崎高津区下作延*=1.5</p> <p>1 川崎幸区戸手本町*=1.4 川崎多摩区登戸*=1.4 綾瀬市深谷*=1.4 相模原緑区相原*=1.4 横浜西区浜松町*=1.3 横浜旭区上白根町*=1.3 川崎川崎区中島*=1.3 川崎川崎区千鳥町*=1.3 大和市下鶴間*=1.3 相模原緑区大島*=1.3 横浜戸塚区戸塚町*=1.2 相模原中央区中央=1.2 相模原中央区上溝*=1.2 横浜瀬谷区中屋敷*=1.2 横浜青葉区榎が丘*=1.2 横浜磯子区洋光台*=1.1 横浜港南区丸山台東部*=1.1 横浜旭区大池町*=1.1 相模原緑区中野*=1.1 横浜中区山下町*=1.0 横浜中区日本大通*=1.0 横浜港北区太尾町*=1.0 茅ヶ崎市茅ヶ崎=1.0 神奈川山北町山北*=1.0 横浜旭区今宿東町*=1.0 相模原南区相模大野*=1.0 横浜鶴見区鶴見*=1.0 横浜西区みなとみらい*=1.0 座間市緑ヶ丘*=0.9 横浜都筑区池辺町*=0.9 愛川町角田*=0.9 川崎麻生区万福寺*=0.9 横浜戸塚区平戸町*=0.9 横浜中区山手町=0.9 清川村煤ヶ谷*=0.8 横浜港南区丸山台北部*=0.8 横浜瀬谷区三ツ境*=0.8 厚木市七沢*=0.8 相模原緑区久保沢*=0.8 横須賀市光の丘=0.7 相模原中央区水郷田名*=0.7 海老名市大谷*=0.7 横須賀市坂本町*=0.6 三浦市城山町*=0.6</p> <p>茨城県 1 坂東市岩井=0.6</p> <p>千葉県 1 富津市下飯野*=0.9</p> <p>山梨県 1 富士河口湖町船津=0.7 大月市御太刀*=0.5</p>				
35	9 16 22	<p>沖縄本島近海 26° 16.1' N 126° 49.2' E</p> <p>沖縄県 1 座間味村座間味*=0.6 久米島町謝名堂=0.5</p>			63km	M: 3.9
36	9 18 36	<p>山梨県中・西部 35° 14.2' N 138° 26.3' E</p> <p>山梨県 1 山梨南部町栄小学校*=0.5</p> <p>静岡県 1 富士宮市野中*=1.2 静岡葵区梅ヶ島*=0.6</p>			16km	M: 2.6
37	10 09 25	<p>大分県南部 32° 55.4' N 132° 00.1' E</p> <p>大分県 2 佐伯市鶴見*=1.6 1 佐伯市蒲江=1.3 佐伯市春日町*=0.6</p> <p>愛媛県 1 愛南町船越*=0.6</p>			16km	M: 3.5
38	10 22 09	<p>宮城県北部 38° 48.5' N 140° 49.0' E</p> <p>宮城県 2 栗原市花山*=2.0 1 栗原市一迫*=0.6 大崎市鳴子*=0.6</p>			5km	M: 3.0
39	10 22 35	<p>和歌山県北部 33° 59.0' N 135° 29.2' E</p> <p>奈良県 1 十津川村平谷*=0.7</p> <p>和歌山県 1 田辺市中辺路町栗栖川*=0.7 田辺市本宮町本宮*=0.6</p>			53km	M: 3.2
40	11 02 14	<p>宮古島近海 24° 49.3' N 125° 23.0' E</p> <p>沖縄県 3 宮古島市平良西仲宗根=2.5 2 宮古島市平良下里=1.7 宮古島市城辺福北=1.6 宮古島市伊良部=1.5 1 宮古島市平良狩俣*=1.4 宮古島市城辺福西*=1.4 宮古島市平良池間=1.1</p>			50km	M: 4.4
41	11 12 19	<p>福島県沖 37° 51.0' N 141° 37.3' E</p> <p>宮城県 1 南三陸町歌津*=0.5</p>			83km	M: 3.6
42	11 17 12	<p>新潟県中越地方 37° 23.7' N 138° 56.5' E</p> <p>新潟県 2 長岡市千手*=1.5 長岡市上岩井*=1.5 1 魚沼市今泉*=1.4 長岡市与板町与板*=1.3 長岡市幸町=1.2 長岡市小島谷*=1.2 出雲崎町米田=1.2 出雲崎町川西*=1.2 長岡市中之島*=1.2 見附市昭和町*=1.1 魚沼市須原*=1.0 長岡市寺泊教ヶ曾根*=0.9 三条市新堀*=0.8 魚沼市米沢=0.7 魚沼市穴沢*=0.7 小千谷市城内=0.5</p> <p>福島県 1 南会津町界*=0.6 南会津町田島=0.6</p>			11km	M: 3.6
43	11 18 18	<p>新潟県下越地方 38° 02.4' N 139° 28.0' E</p> <p>新潟県 3 関川村下関*=3.0 村上市山口*=2.7 新発田市稲荷岡*=2.7 胎内市大川町*=2.5 2 新発田市乙次*=2.4 胎内市黒川*=2.3 聖籠町諏訪山*=2.1 新発田市住田*=2.1 新発田市中央町*=1.8 胎内市新和町=1.8 村上市今宿*=1.8 新潟北区葛塚*=1.7 村上市片町*=1.5 新発田市本町*=1.5</p> <p>1 上越市牧区柳島*=1.4 新潟空港=1.4 阿賀野市岡山町*=1.2 村上市塩町=1.1 阿賀町鹿瀬中学校*=1.1 阿賀町白崎*=1.1 出雲崎町米田=1.1 村上市岩沢*=1.0 新潟秋葉区程島=1.0 上越市安塚区安塚*=0.9 新潟秋葉区新津東町*=0.9 阿賀野市畑江=0.8 村上市三之町*=0.7 新潟中央区幸西=0.6 新潟中央区新潟市役所*=0.6 阿賀町津川*=0.6 阿賀野市保田*=0.5 上越市大手町=0.5 村上市府屋*=0.5 佐渡市河原田本町*=0.5</p> <p>山形県 1 山形小国町小国小坂町*=1.1 飯豊町上原*=0.8 山形小国町岩井沢=0.6 西川町大井沢*=0.5</p>			12km	M: 3.9

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
44	11 19 30	福島県 1 郡山市湖南町*0.6 西会津町登世島*0.5 新潟県下越地方 38° 02.6' N 139° 28.1' E 13km M: 3.3 新潟県 2 関川村下関*2.3 1 村上市山口*1.4 胎内市大川町*1.2 新発田市稲荷岡*1.1 胎内市黒川*0.9 胎内市新和町=0.8 村上市今宿*0.6 山形県 1 山形小国町小国小坂町*0.5				
45	11 22 37	安芸灘 33° 52.3' N 132° 37.9' E 45km M: 3.9 島根県 2 吉賀町六日市*1.6 広島県 2 呉市下蒲刈町*2.2 呉市川尻町*2.0 呉市広*1.9 呉市安浦町*1.8 大崎上島町中野*1.8 呉市豊浜町*1.6 呉市倉橋町支所*1.6 江田島市能美町*1.5 尾道市向島町*1.5 呉市倉橋町鷲ヶ巣=1.5 1 呉市中央*1.4 東広島市黒瀬町=1.4 江田島市江田島町*1.4 三原市久井町*1.2 呉市宝町=1.2 呉市豊町*1.1 大崎上島町木江*1.1 三原市本郷南*1.1 東広島市安芸津町*1.1 東広島市豊栄町*1.0 呉市蒲刈町*1.0 尾道市久保*1.0 福山市内海町*1.0 大崎上島町東野*1.0 竹原市中央*0.9 尾道市瀬戸田町*0.9 廿日市市大野*0.8 三原市円一町=0.8 東広島市西条栄町*0.7 広島中区羽衣町*0.7 東広島市福富町*0.6 三原市大和町*0.6 東広島市河内町*0.6 広島安芸区中野*0.6 尾道市御調町*0.6 府中町大通り*0.6 尾道市因島土生町*0.6 江田島市沖美町*0.6 安芸高田市向原町*0.6 福山市松永町=0.6 世羅町西上原*0.6 呉市郷原町*0.5 広島安佐南区緑井*0.5 広島安佐北区可部南*0.5 広島西区己斐*0.5 愛媛県 2 松山市中島大浦*2.0 今治市吉海町*1.9 大洲市長浜*1.8 今治市菊間町*1.6 今治市上浦町*1.5 今治市大三島町*1.5 松山市富久町*1.5 松山市北条辻*1.5 1 今治市南宝来町二丁目=1.4 西条市丹原町鞍瀬=1.4 久万高原町久万*1.4 今治市大西町*1.3 内子町平岡*1.3 上島町岩城*1.2 松山市北持田町=1.2 今治市波方町*1.2 宇和島市丸穂*1.1 上島町弓削*1.1 上島町生名*1.0 内子町小田*1.0 伊予市下吾川*0.9 今治市宮窪町*0.9 久万高原町東川*0.8 伊予市中山町*0.7 八幡浜市五反田*0.7 西予市野村町=0.7 西予市明浜町*0.7 宇和島市住吉町=0.6 大洲市肱川町*0.6 内子町内子*0.6 砥部町総津*0.6 砥部町宮内*0.5 松野町松丸*0.5 久万高原町洪草*0.5 岡山県 1 矢掛町矢掛*0.9 里庄町里見*0.8 倉敷市船穂町*0.6 備前市東片上*0.5 徳島県 1 徳島三好市池田総合体育館=0.5 香川県 1 観音寺市坂本町=0.5 高知県 1 宿毛市桜町*0.8 高知市丸ノ内*0.7 高知香南市赤岡支所*0.7 高知市役所*0.6 いの町上八川*0.6 土佐市蓮池*0.5 仁淀川町大崎*0.5 山口県 1 田布施町役場*1.3 周防大島町久賀*1.2 周防大島町小松*1.2 岩国市横山*1.1 上関町長島*1.1 平生町平生*1.1 周防大島町東和総合支所*1.1 防府市西浦*1.0 岩国市玖珂町阿山*1.0 柳井市大島*1.0 岩国市玖珂総合支所*0.9 岩国市由宇町*0.8 山口市阿東徳佐*0.8 田布施町下田布施=0.8 周南市桜馬場通り*0.8 周南市岐山通り*0.8 周防大島町西安下庄*0.8 岩国市周東町下久原*0.7 柳井市南町*0.7 山口市秋徳東*0.7 防府市寿=0.7 周防大島町平野*0.7 周南市富田*0.6 岩国市錦町広瀬*0.5 光市中央*0.5 下松市大手町*0.5				
46	11 23 41	新潟県下越地方 38° 02.5' N 139° 28.0' E 13km M: 2.9 新潟県 1 関川村下関*1.2 胎内市大川町*1.1 新発田市稲荷岡*1.0				
47	12 07 36	十勝地方中部 42° 48.2' N 143° 24.5' E 15km M: 3.1 北海道 1 豊頃町茂岩本町*1.4 浦幌町桜町*1.3 十勝池田町西1条*0.9 幕別町本町*0.6				
48	12 16 20	青森県津軽南部 40° 38.7' N 140° 26.4' E 10km M: 2.1 青森県 1 弘前市賀田*0.6				
49	12 17 52	宮城県沖 37° 56.2' N 141° 54.3' E 43km M: 4.1 岩手県 1 一関市室根町*0.5 宮城県 1 石巻市桃生町*1.0 南三陸町歌津*0.9 石巻市鮎川浜*0.9 石巻市門脇*0.7 岩沼市桜*0.6 栗原市築館*0.5 気仙沼市笹が陣*0.5 福島県 1 南相馬市原町区高見町*1.1 楢葉町北田*0.8 南相馬市原町区三島町=0.6 南相馬市鹿島区*0.5				
50	13 02 31	岩手県沖 40° 21.1' N 142° 05.2' E 49km M: 3.4 岩手県 1 九戸村伊保内*0.7				
51	13 20 01	伊予灘 33° 24.4' N 131° 39.8' E 90km M: 4.7 愛媛県 3 西予市明浜町*2.5 2 伊方町湊浦*2.3 西予市宇和町*2.0 久万高原町久万*2.0 宇和島市津島町*1.9 西予市三瓶町*1.9 松野町松丸*1.9 八幡浜市五反田*1.8 八幡浜市保内町*1.8 大洲市肱川町*1.8 大洲市大洲*1.8 宇和島市丸穂*1.7 西予市野村町=1.7 宇和島市吉田町*1.7 今治市南宝来町二丁目=1.7 愛媛鬼北町近永*1.6 西条市丹原町鞍瀬=1.5 宇和島市三間町*1.5 大洲市長浜*1.5 内子町内子*1.5 1 今治市吉海町*1.4 松山市北持田町=1.4 松山市中島大浦*1.4 宇和島市住吉町=1.4 内子町平岡*1.4 愛南町一本松*1.4 愛南町柏*1.3 上島町岩城*1.3 伊予市下吾川*1.3 西予市城川町*1.3 愛南町船越*1.3 松山市富久町*1.2 愛媛鬼北町下鍵山*1.2 伊予市中山町*1.2 今治市菊間町*1.1 砥部町総津*1.1 大洲市河辺町*1.1 内子町小田*1.1 松山市北条辻*1.1 愛南町城辺*1.1 八幡浜市広瀬=1.0 今治市大西町*1.0 伊方町三崎*1.0				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
		高知県 今治市宮窪町*=1.0 西条市周布*=1.0 今治市上浦町*=0.9 愛南町御荘*=0.9 愛媛鬼北町成川=0.9 東温市南方*=0.8 上島町生名*=0.8 今治市波方町*=0.8 砥部町宮内*=0.8 大洲市豊茂=0.7 伊方町三机*=0.7 愛媛松前町筒井*=0.7 久万高原町洪草*=0.6 久万高原町東川*=0.5 新居浜市別子山*=0.5 四国中央市三島宮川*=0.5 3 宿毛市桜町*=2.7 2 四万十町大正*=1.9 黒潮町入野=1.9 黒潮町佐賀*=1.9 宿毛市片島=1.7 四万十市西土佐江川崎*=1.6 四万十町十川*=1.5				
		大分県 1 土佐市蓮池*=1.4 いの町上八川*=1.3 大月町弘見*=1.3 土佐清水市中浜*=1.2 梶原町広野*=1.1 梶原町梶原*=1.1 土佐清水市有永=1.0 土佐清水市足摺岬=1.0 四万十町茂串町*=1.0 安芸市西浜=0.9 須崎市西糺町*=0.9 土佐町土居*=0.9 佐川町役場*=0.9 四万十市中村大橋通*=0.9 四万十町窪川中津川=0.8 高知市役所*=0.8 本山町本山*=0.8 中土佐町久礼*=0.8 三原村来栖野*=0.8 いの町脇ノ山*=0.6 仁淀川町土居*=0.6 仁淀川町森*=0.6 安芸市矢ノ丸*=0.6 田野町役場*=0.6 高知市丸ノ内*=0.6 高知市春野町西分*=0.6 高知津野町永野*=0.6 土佐清水市天神町*=0.5 奈半利町役場*=0.5 高知市本町=0.5 高知津野町力石*=0.5 3 臼杵市臼杵*=2.6 佐伯市役所*=2.6 佐伯市上浦*=2.5 2 豊後大野市犬飼町犬飼*=2.4 大分市碩田町*=2.3 佐伯市春日町*=2.3 佐伯市鶴見*=2.2 豊後大野市三重町=2.2 大分市佐賀関*=2.2 竹田市直入町*=2.2 大分市長浜=2.1 佐伯市弥生*=2.1 佐伯市蒲江=2.0 豊後大野市清川町*=1.9 豊後大野市千歳町*=1.8 臼杵市乙見=1.8 竹田市荻町*=1.8 津久見市宮本町*=1.8 大分市舞鶴町*=1.7 佐伯市米水津*=1.7 杵築市南杵築*=1.7 佐伯市直川*=1.6 中津市三光*=1.6 国東市安岐町*=1.6 国東市田深*=1.5 1 国東市鶴川=1.4 中津市植野*=1.3 別府市天間=1.3 津久見市立花町*=1.3 豊後大野市犬飼町黒松*=1.3 宇佐市内院町*=1.1 佐伯市堅田=1.1 竹田市竹田小学校*=1.1 中津市上宮永=1.0 豊後高田市御玉*=1.0 国東市国見町西方*=1.0 竹田市直入小学校*=0.9 別府市鶴見=0.8 玖珠町帆足=0.6				
		岡山県 2 真庭市下方*=1.6 1 和気町矢田*=1.1 瀬戸内市長船町*=1.0 岡山北区御津金川*=1.0 高梁市松原通*=1.0 真庭市落合垂水*=0.9 新見市唐松*=0.8 倉敷市下津井*=0.8 岡山東区瀬戸町*=0.8 岡山南区灘崎町*=0.8 新見市哲西町矢田*=0.7 矢掛町矢掛*=0.7 倉敷市児島小川町*=0.7 吉備中央町豊野*=0.6 瀬戸内市邑久町*=0.6 真庭市久世*=0.6 赤磐市上市=0.6 倉敷市水島北幸町*=0.6 倉敷市船穂町*=0.6 玉野市宇野*=0.5 高梁市原田南町*=0.5 浅口市金光町*=0.5 真庭市下皆部*=0.5 岡山北区建部町*=0.5 倉敷市玉島阿賀崎*=0.5 倉敷市新田=0.5				
		広島県 2 呉市川尻町*=1.8 呉市安浦町*=1.6 安芸高田市向原町*=1.5 広島西区己斐*=1.5 1 世羅町西上原*=1.4 世羅町東神崎*=1.3 三原市久井町*=1.3 呉市下蒲刈町*=1.3 廿日市市大野*=1.3 大崎上島町中野*=1.3 府中町大通り*=1.2 大崎上島町東野*=1.2 大竹市小方*=1.1 広島三次市甲奴町*=1.1 三原市円一町=1.1 神石高原町油木*=1.1 呉市中央*=1.1 江田島市沖美町*=1.0 竹原市中央*=1.0 広島中区羽衣町*=1.0 広島安芸区中野*=1.0 呉市宝町=1.0 三原市本郷南*=1.0 呉市倉橋町支所*=1.0 尾道市向島町*=1.0 安芸高田市吉田町*=1.0 広島三次市吉舎町*=0.9 広島中区大手町*=0.9 東広島市豊栄町*=0.9 広島安佐北区可部南*=0.9 広島府中市上下町矢多田=0.9 海田町上市*=0.9 広島佐伯区利松*=0.9 呉市広*=0.9 大崎上島町木江*=0.9 呉市豊浜町*=0.8 呉市豊町*=0.8 三原市大和町*=0.8 東広島市黒瀬町=0.8 安芸高田市甲田町*=0.8 東広島市河内町*=0.7 広島安佐南区緑井*=0.7 北広島町有田=0.7 安芸高田市向原郵便局*=0.7 東広島市西条栄町*=0.7 広島中区上八丁堀=0.7 廿日市市津田*=0.6 呉市蒲刈町*=0.6 広島三次市三次町*=0.6 尾道市因島土生町*=0.5 広島三次市三良坂町*=0.5 呉市焼山*=0.5 世羅町小国*=0.5 安芸太田町戸内*=0.5 東広島市福富町*=0.5				
		山口県 2 山口市阿知須*=1.9 周防大島町平野*=1.9 阿武町奈古*=1.7 防府市西浦*=1.7 宇部市常盤町*=1.6 萩市土原=1.6 下関市竹崎=1.5 山陽小野田市日の出*=1.5 萩市江向*=1.5 1 山口市周布=1.4 宇部市東須恵*=1.4 山口市龜山町*=1.3 山口市小郡下郷*=1.3 光市中央*=1.3 上関町長島*=1.3 周防大島町西安下庄*=1.2 下関市清末陣屋*=1.2 山口市秋穂東*=1.1 山口市阿東徳佐*=1.1 周南市桜馬場通り*=1.1 周南市岐山通り*=1.1 岩国市周東町下久原*=1.1 萩市川上*=1.0 岩国市横山*=1.0 岩国市由宇町*=1.0 周防大島町久賀*=1.0 山陽小野田市鴨庄*=1.0 下松市大手町*=0.9 岩国市玖珂町阿山*=0.9 岩国市玖珂総合支所*=0.9 和木町和木*=0.9 平生町平生*=0.9 田布施町役場*=0.8 岩国市今津=0.8 柳井市南町*=0.8 柳井市大島*=0.8 田布施町下田布施=0.7 周南市富田*=0.7 周南市呼坂*=0.7 防府市寿=0.6 光市岩田*=0.6 岩国市錦町広瀬*=0.5				
		福岡県 2 新宮町緑ヶ浜*=1.5 1 行橋市今井*=1.4 みやこ町犀川本庄*=1.4 荻田町京町*=1.3 上毛町垂水*=1.3 みやこ町勝山上田*=1.2 久留米市津福本町=1.2 行橋市中央*=1.2 宗像市東郷*=1.1 水巻町項末*=1.1 築上町稚田*=1.1 豊前市吉木*=1.0 遠賀町今古賀*=1.0 上毛町東下*=1.0 桂川町土居*=1.0 大刀洗町富多*=1.0 筑前町篠隈*=1.0 福岡空港=1.0 久留米市北野町*=0.9 宗像市江口神原*=0.9 中間市長津*=0.9 宮若市宮田*=0.8 久山町久原*=0.8 粕屋町仲原*=0.8 福津市中央*=0.8 福津市津屋崎*=0.8 北九州若松区桜町*=0.8 北九州小倉南区横代東町*=0.8 中間市中間*=0.8 福岡西区今宿*=0.7 直方市新町*=0.7 飯塚市長尾*=0.7 飯塚市忠隈*=0.7 添田町添田*=0.7 北九州小倉北区大手町*=0.7 筑前町新町*=0.7 朝倉市杷木池田*=0.7 朝倉市宮野*=0.6 吉富町広津*=0.6 福岡博多区博多駅前*=0.6 福智町金田*=0.6 嘉麻市上臼井*=0.6 久留米市城島町*=0.6 柳川市本町*=0.6 うきは市浮羽町*=0.6 北九州八幡東区春の町*=0.6 東峰村小石原*=0.6 飯塚市勢田*=0.5 大任町大行事*=0.5 久留米市田主丸町*=0.5 小郡市小郡*=0.5 福岡広川町新代*=0.5				
		熊本県 2 阿蘇市波野*=1.9 熊本高森町高森*=1.6 1 山都町今*=1.4 産山村山鹿*=1.2 阿蘇市一の宮町*=0.8 山都町浜町*=0.7 山鹿市老人福祉センター*=0.5				
		宮崎県 2 高千穂町寺迫*=1.7 延岡市北川町川内名白石*=1.6 高千穂町三田井=1.6 1 小林市真方=1.3 延岡市北浦町古江*=1.2 高鍋町上江*=1.0 椎葉村下福良*=1.0				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
		延岡市北方町卯*0.9 西都市上の宮*0.9 宮崎市松橋*0.9 宮崎都農町役場*0.8 小林市中原*0.8 延岡市天神小路=0.5 鳥取県 1 北栄町土下*0.9 鳥取市吉方=0.5 島根県 1 出雲市塩冶有原町*0.9 雲南市掛合町掛合*0.7 出雲市今市町=0.5 徳島県 1 徳島三好市池田総合体育館=1.3 香川県 1 観音寺市瀬戸町*0.9 観音寺市坂本町=0.8 まんのう町生間*0.7 土庄町甲=0.6 丸亀市新田町*0.6 多度津町家中=0.5 佐賀県 1 上峰町坊所*1.4 みやき町中原*1.4 みやき町三根*1.2 みやき町北茂安*1.1 神崎市千代田*0.9 佐賀市川副*0.5				
52	13 22 29	宮崎県北部山沿い 宮崎県 1 西都市上の宮*0.6	32° 31.1' N	131° 04.9' E	136km	M: 3.3
53	14 00 00	福島県会津 福島県 1 柳津町大成沢=0.7	37° 25.8' N	139° 41.2' E	4km	M: 2.0
54	14 05 34	和歌山県北部 和歌山県 1 有田市初島町*0.7	34° 06.2' N	135° 08.5' E	5km	M: 1.7
55	14 05 48	和歌山県北部 和歌山県 1 有田市初島町*0.9	34° 06.1' N	135° 08.5' E	5km	M: 1.9
56	14 08 24	山形県沖 新潟県 1 村上市府屋*0.6	38° 46.5' N	139° 27.4' E	13km	M: 3.1
57	14 14 34	和歌山県南部 和歌山県 2 日高川町土生*1.7 1 御坊市箇=1.3 湯浅町湯浅*1.3 日高川町川原河*1.3 田辺市本宮町本宮*1.2 新宮市熊野川町日足*1.2 新宮市春日=0.9 田辺市中屋敷町*0.8 有田川町下津野*0.8 みなべ町土井=0.8 白浜町日置*0.8 太地町役場*0.8 由良町里*0.7 田辺市鮎川*0.7 みなべ町芝*0.7 新宮市磐盾*0.7 日高川町高津尾*0.7 和歌山広川町広*0.7 田辺市中辺路町栗栖川*0.6 白浜町湯崎=0.6 和歌山日高町高家*0.6 和歌山市男野芝丁=0.5 三重県 1 尾鷲市南浦*0.9 尾鷲市南陽町=0.7 熊野市有馬町*0.5 奈良県 1 十津川村平谷*0.7 十津川村小原*0.6 下北山村寺垣内*0.5	34° 00.6' N	135° 34.7' E	50km	M: 3.7
58	14 16 52	新島・神津島近海 東京都 2 新島村式根島=1.5 1 東京利島村=1.2	34° 26.9' N	139° 12.3' E	10km	M: 2.5
59	15 01 44	鳥取県西部 鳥取県 2 日南町生山*1.7 1 日南町霞*1.4 鳥取日野町根雨*1.2 江府町江尾*1.1 鳥取南部町法勝寺*0.7 岡山県 1 新見市千屋美*0.9	35° 13.2' N	133° 24.4' E	9km	M: 2.9
60	15 18 24	岐阜県飛騨地方 岐阜県 2 白川村鳩谷*1.7 1 飛騨市河合町元田*0.9 飛騨市宮川町*0.6 富山県 1 南砺市上平細島*1.3 南砺市下梨*0.7	36° 13.9' N	136° 55.1' E	8km	M: 3.1
61 (注)	15 20 46 15 20 46	長野県南部 長野県南部 2 木曾町開田高原西野*2.1 1 木曾町日義*1.3 木曾町新開*1.1 木曾町三岳*1.0 王滝村役場*0.6 岐阜県 2 高山市高根町*1.7	35° 54.2' N 35° 54.4' N	137° 37.4' E 137° 37.2' E	7km 7km	M: 3.2 M: 2.8
62	16 08 41	奄美大島北西沖 鹿児島県 1 奄美市笠利町里*0.8	28° 46.5' N	128° 30.7' E	16km	M: 4.1
63	16 20 26	奄美大島北西沖 鹿児島県 2 奄美市笠利町里*1.9 1 奄美市名瀬港町=0.9	28° 47.0' N	128° 31.5' E	11km	M: 4.6
64	16 21 35	奄美大島北西沖 鹿児島県 2 奄美市笠利町里*2.3 奄美市名瀬幸町*1.9 奄美市名瀬港町=1.8 1 喜界町滝川=0.9 宇検村湯湾*0.6 大和村思勝*0.6	28° 46.2' N	128° 33.8' E	13km	M: 5.0
65	17 06 50	奄美大島北西沖 鹿児島県 1 奄美市笠利町里*0.6	28° 46.5' N	128° 32.7' E	9km	M: 3.6
66	17 12 38	茨城県南部 茨城県 1 鉦田市当間*0.9 土浦市常名=0.6 城里町阿波山*0.5 常陸大宮市北町*0.5 桜川市羽田*0.5 栃木県 1 宇都宮市明保野町=0.7 小山市神鳥谷*0.6	36° 13.6' N	139° 46.7' E	57km	M: 3.2

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
67	17 16 58	奄美大島北西沖 鹿児島県 2 奄美市笠利町里* =1.7 奄美市名瀬幸町* =1.5 1 奄美市名瀬港町 =1.3	28° 46.8' N	128° 33.2' E	9km	M: 4.7
68	18 08 36	奄美大島北西沖 鹿児島県 1 奄美市笠利町里* =0.7	28° 45.6' N	128° 31.5' E	10km	M: 4.0
69	18 09 36	宮城県沖 岩手県 1 一関市千厩町* =1.3 一関市室根町* =1.1 藤沢町藤沢* =1.0 大船渡市猪川町 =0.9 陸前高田市高田町* =0.8 大船渡市大船渡町 =0.7 平泉町平泉* =0.7 山田町大沢* =0.5 宮城県 1 南三陸町歌津* =1.3 気仙沼市笹が陣* =1.0 登米市中田町 =0.8 南三陸町志津川 =0.7 登米市豊里町* =0.6 石巻市泉町 =0.6 栗原市栗駒 =0.5 登米市登米町* =0.5	38° 51.1' N	141° 36.3' E	73km	M: 3.6
70	18 11 29	奄美大島北西沖 鹿児島県 1 奄美市笠利町里* =0.8	28° 47.1' N	128° 30.4' E	12km	M: 4.0
71	19 06 23	紀伊水道 和歌山県 1 日高川町土生* =0.5	33° 50.4' N	134° 59.6' E	12km	M: 3.1
72	19 14 07	徳島県北部 徳島県 1 美馬市木屋平* =0.9	34° 04.2' N	134° 31.2' E	39km	M: 2.8
73	21 06 50	高知県中部 高知県 1 本山町本山* =0.9	33° 47.3' N	133° 30.4' E	6km	M: 2.2
74	21 09 47	沖縄本島近海 鹿児島県 1 知名町瀬利覚 =1.1 伊仙町伊仙* =0.8	27° 17.8' N	128° 25.6' E	49km	M: 3.7
75	21 15 12	奄美大島北西沖 鹿児島県 1 奄美市笠利町里* =0.8 奄美市名瀬港町 =0.6	28° 46.6' N	128° 33.8' E	15km	M: 4.0
76	22 19 03	奄美大島北西沖 鹿児島県 1 奄美市笠利町里* =0.6	28° 45.8' N	128° 36.2' E	13km	M: 3.5
77	22 19 29	岩手県内陸南部 岩手県 1 奥州市前沢区* =0.5 奥州市衣川区* =0.5 宮城県 1 栗原市栗駒 =0.8 栗原市一迫* =0.8 大崎市古川三日町 =0.7 栗原市鶯沢* =0.6 栗原市築館* =0.6 栗原市高清水* =0.6 大崎市古川北町* =0.6 秋田県 1 東成瀬村椿川* =0.6	38° 58.8' N	140° 49.7' E	7km	M: 3.4
78	23 15 00	種子島近海 鹿児島県 1 南種子町西之* =0.5	30° 23.3' N	130° 55.1' E	13km	M: 2.4
79	24 03 23	和歌山県南部 奈良県 1 十津川村平谷* =0.6 天川村沢谷* =0.6 和歌山県 1 日高川町土生* =1.2 白浜町日置* =1.2 御坊市藪 =1.1 田辺市中辺路町栗栖川* =0.9 田辺市本宮町本宮* =0.7 みなべ町土井 =0.5 日高川町高津尾* =0.5 和歌山日高町高家* =0.5	33° 48.0' N	135° 25.4' E	46km	M: 3.4
80	24 03 26	新潟県上越地方 新潟県 2 上越市安塚区安塚* =1.7 1 上越市浦川原区釜淵* =0.9 上越市清里区荒牧* =0.6 十日町市松代* =0.5 長野県 1 栄村北信* =0.6	37° 03.1' N	138° 31.5' E	11km	M: 2.5
81	24 09 31	千葉県北東部 茨城県 1 小美玉市堅倉* =1.1 銚田市当間* =0.8 稲敷市江戸崎甲* =0.6 かすみがうら市上土田* =0.5 千葉県 1 香取市佐原下川岸 =0.9	35° 51.8' N	140° 29.2' E	35km	M: 3.3
82	25 02 25	宮城県北部 宮城県 1 栗原市花山* =1.0	38° 49.5' N	140° 48.8' E	4km	M: 2.4
83	25 11 10	釧路沖 北海道 1 釧路市音別町直別* =0.6	42° 54.0' N	144° 13.8' E	109km	M: 3.3
84	25 20 23	千葉県北西部 千葉県 1 千葉中央区都町* =0.7 神奈川県 1 横浜神奈川区白幡上町* =1.0	35° 41.8' N	140° 07.0' E	65km	M: 3.3
85	25 22 33	岩手県内陸北部 岩手県 2 二戸市浄法寺町* =1.7	40° 10.1' N	141° 07.2' E	7km	M: 2.5
86	26 17 53	南大東島近海 沖縄県 4 北大東村中野* =3.5 3 本部町役場* =2.5 座間味村座間味* =2.5	25° 44.5' N	129° 59.3' E	48km	M: 6.4

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各地の震度(計測震度)	緯度	経度	深さ	規模
		2 与那原町上与那原*=2.4 南大東村在所=2.4 国頭村辺土名*=2.3 中城村当間*=2.2 南城市知念久手堅*=2.2 西原町嘉手苺*=2.2 南大東村池之沢=2.2 恩納村恩納*=2.1 糸満市潮崎町*=2.1 宜野湾市野嵩*=1.9 那覇市港町*=1.9 名護市港*=1.8 国頭村奥=1.8 今帰仁村仲宗根*=1.8 うるま市みどり町*=1.7 北中城村喜舎場*=1.7 豊見城市翁長*=1.7 北谷町桑江*=1.7 南城市玉城前川=1.6 読谷村座喜味=1.6 浦添市安波茶*=1.6 那覇市樋川=1.5 久米島町謝名堂=1.5 南風原町兼城*=1.5 那覇空港=1.5 1 嘉手納町嘉手納*=1.4 久米島町比嘉*=1.4 伊平屋村役場*=1.3 渡名喜村渡名喜*=1.3 東村平良*=1.2 宜野座村宜野座*=1.2 金武町金武*=1.2 栗国村浜=1.2 伊平屋村我喜屋=1.2 名護市豊原=1.2 栗国村役場*=1.1 久米島町山城=1.1 久米島町仲泊*=1.0 名護市宮里=1.0 伊江村東江前*=0.9 伊是名村仲田*=0.8 鹿兒島県 2 与論町茶花*=2.1 瀬戸内町請島*=2.0 天城町平土野*=1.9 奄美市笠利町里*=1.9 伊仙町伊仙*=1.8 和泊町和泊*=1.8 知名町瀬利覚=1.8 奄美市名瀬港町=1.8 瀬戸内町与路島*=1.6 鹿兒島十島村悪石島*=1.5 1 瀬戸内町西古見=1.4 和泊町国頭=1.4 奄美市名瀬幸町*=1.3 瀬戸内町加計呂麻島*=1.3 奄美市住用町西仲間*=1.2 喜界町滝川=1.2 知名町知名*=1.2 徳之島町亀津*=1.1 大和村思勝*=1.1 宇検村湯湾*=1.0 天城町当部=0.9 瀬戸内町古仁屋*=0.9				
87	27 01 19	南大東島近海 沖縄県 1 北大東村中野*=0.7	25° 49.2' N	130° 05.8' E	41km	M: 4.8
88	28 08 59	橘湾 長崎県 1 長崎市元町*=0.5	32° 35.6' N	129° 52.4' E	13km	M: 2.2
89	28 10 47	富山湾 富山県 1 射水市本町*=0.6	36° 47.6' N	137° 07.9' E	12km	M: 2.2
90	28 15 56	沖縄本島近海 沖縄県 1 渡名喜村渡名喜*=0.8	26° 19.7' N	127° 06.7' E	6km	M: 2.8
91	29 00 47	紀伊水道 和歌山県 1 日高川町土生*=1.4 由良町里*=1.3 御坊市菌=1.3 湯浅町湯浅*=1.1 和歌山日高町高家*=0.9 有田市箕島=0.7 徳島県 1 美波町西の地*=0.6 高知県 1 東洋町生見*=0.5	33° 50.2' N	134° 57.9' E	13km	M: 3.8
92	29 10 31	宮城県中部 宮城県 1 東松島市小野*=0.9 石巻市泉町=0.6 東松島市矢本*=0.5 石巻市門脇*=0.5	38° 24.5' N	141° 14.3' E	11km	M: 2.4
93	31 09 16	宮城県北部 宮城県 1 栗原市花山*=0.9	38° 51.3' N	140° 49.3' E	6km	M: 2.6
94	31 21 33	和歌山県北部 和歌山県 1 紀美野町下佐々*=0.9 紀の川市貴志川町神戸*=0.5	34° 10.4' N	135° 19.2' E	4km	M: 2.5

● 付表 2. 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 <平成 21 年（2009 年）6 月～平成 22 年（2010 年）5 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
平成22年（2010年）											
5月	65	23	4	2						94	
4月	71	23	5	2						101	
3月	69	24	8	2	1					104	14日 福島県沖（震度5弱）
2月	74	19	7	2	1					103	27日 沖縄本島近海（震度5弱）
1月	72	27	5	6						110	
平成22年計	351	116	29	14	2					512	
平成21年（2009年）											
12月	260	84	28	7	2					381	伊豆半島東方沖の地震活動 （震度5弱：2回、震度4：4回、 震度3：17回、震度2：60回、 震度1：175回）
11月	67	30	8	1						106	
10月	57	33	11	5						106	長野県南部の地震活動 （震度4：1回、震度3：3回、 震度2：3回、震度1：9回）
9月	86	34	8	3						131	
8月	99	39	19	4	1		1			163	11日 駿河湾（震度6弱） 13日 八丈島東方沖（震度5弱） 駿河湾の地震の余震 （震度3：3回、震度2：8回、 震度1：26回）
7月	71	22	10	2						105	
6月	89	30	7	3						129	
過去1年計	1080	388	120	39	5		1			1633	（平成21年6月～平成22年5月）

（参考）昨年同月の最大震度別地震回数

5月	75	27	8	1						111	
----	----	----	---	---	--	--	--	--	--	-----	--

注)①「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上を10回以上観測した地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

- 平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市（神奈川県）、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
- 平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県
- 10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県、鹿児島県
- 平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県
- 平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）
- 3月28日 滋賀県
- 7月18日 富山県、香川県、大分県
- 平成13(2001)年3月22日 佐賀県
- 5月10日 山梨県、川崎市（神奈川県）
- 7月19日 高知県
- 12月12日 福島県
- 平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）
- 7月29日 北海道、長崎県
- 平成15(2003)年3月10日 沖縄県
- 平成16(2004)年5月26日 } 防災科学技術研究所（岩手県の一部、宮城県の一部、神奈川県、山梨県、長野県、石川県、福井県、
8月9日 } 岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、
11月1日 } 岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、大分県、宮崎県）
- 平成18(2006)年3月1日 } 防災科学技術研究所（北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、
6月20日 } 群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、富山県）
- 平成19(2007)年3月1日 防災科学技術研究所（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県）

● 付表 3. 日本及びその周辺におけるマグニチュード（M）別の月別地震回数
 <平成 21 年（2009 年）6 月～平成 22 年（2010 年）5 月>

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
平成22年（2010年）								
5月	384	61	4	2		451	67	3日：鳥島近海（M6.1） 26日：南大東島近海（M6.4）
4月	288	79	5	1		373	85	26日：石垣島南方沖（M6.6）
3月	422	81	16	3		522	100	4日：台湾付近（M6.4） 14日：福島県沖（M6.7）
2月	398	74	12	3	1	488	90	6日：千島列島（M6.1） 7日：石垣島近海（M6.5） 18日：ウラジオストク付近（M6.8） 27日：沖縄本島近海（M7.2）
1月	304	64	15			383	79	
平成22年計	1796	359	52	9	1	2217	421	
平成21年（2009年）								
12月	313	71	6	2		392	79	19日：台湾付近（M6.7） 24日：日本海北部（M6.1） 伊豆半島東方沖の地震活動 （M3.0～3.9：36回、M4.0～4.9：6回、 M5.0～5.9：2回）
11月	269	55	4			328	59	
10月	258	61	10	2		331	73	4日：台湾付近（M6.3） 30日：奄美大島北東沖（M6.8）
9月	323	70	6	2		401	78	3日：薩摩半島西方沖（M6.0） 29日：沖縄本島北西沖（M6.1）
8月	445	82	19	6		552	107	5日：宮古島近海（M6.5） 9日：東海道南方沖（M6.8） 11日：駿河湾（M6.5） 13日：八丈島東方沖（M6.6） 17日：石垣島近海（M6.7、M6.6）
7月	262	61	10	1		334	72	14日：台湾付近（M6.5）
6月	312	75	15	1		403	91	5日：十勝沖（M6.4）
過去1年計	3978	834	122	23	1	4958	980	

（参考）昨年同月のM別地震回数

5月	268	48	5			321	53	
----	-----	----	---	--	--	-----	----	--

注) 日本及びその周辺：原則、北緯20～49度、東経120～154度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

●付表 4. 緊急地震速報の提供状況

平成 22 年 5 月に緊急地震速報（警報）を発表した地震はなかった（4 月もなし）。また、緊急地震速報（予報）を発表した地震の回数は 27 回（4 月は 36 回）であった。

平成 19 年 10 月～平成 22 年 5 月に緊急地震速報を発表した地震の月別回数

年 \ 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	年合計
平成 19 年 (2007 年)										0(48)	0(33)	0(39)	0(120)
平成 20 年 (2008 年)	0(35)	0(41)	0(48)	1(42)	1(70)	3(75)	2(63)	0(47)	1(58)	0(46)	1(40)	0(57)	9(622)
平成 21 年 (2009 年)	0(44)	0(39)	0(34)	0(34)	0(24)	0(54)	0(36)	2(65)	0(47)	1(44)	0(39)	0(47)	3(507)
平成 22 年 (2010 年)	0(53)	1(44)	1(50)	0(36)	0(27)								2(210)

※ 表中の数字は緊急地震速報（警報）の発表回数、（）内の数字は緊急地震速報（予報）の発表回数を示す。

気象庁は、平成 19 年 10 月より緊急地震速報の一般への提供を開始し、同年 12 月 1 日より、気象業務法の一部改正により、緊急地震速報を地震動の予報及び警報に位置付けて発表している。

なお、緊急地震速報では、平成 22 年 5 月末現在、気象庁が整備した地震計（全国約 210 箇所）と（独）防災科学技術研究所が整備した高感度地震観測網（Hi-net）の地震計（全国約 800 箇所）を利用している。

● 正誤表

平成 21 年 12 月、平成 22 年 4 月の地震・火山月報（防災編）に誤りがありましたので、正誤表を掲載します。なお、訂正した箇所を下線で示します。

平成 21 年 12 月 地震・火山月報（防災編）

78 ページ 下から 2 行目

[概況]の*2

誤) 「平成 20 年 (2009 年) 岩手・宮城内陸地震」とその余震については 1 回として扱った。

正) 「平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震」とその余震については 1 回として扱った。

平成 22 年 2 月 地震・火山月報（防災編）

70 ページ 付表 2.

誤)

平成22年計	146	46	12	8					212	
--------	-----	----	----	---	--	--	--	--	-----	--

正)

平成22年計	146	46	12	8	<u>1</u>				<u>213</u>	
--------	-----	----	----	---	----------	--	--	--	------------	--

71 ページ 付表 3.

誤)

平成22年計	702	139	27			872	170	
--------	-----	-----	----	--	--	-----	-----	--

過去1年計	3736	784	137	19		4677	941	
-------	------	-----	-----	----	--	------	-----	--

正)

平成22年計	702	139	27	<u>3</u>	<u>1</u>	872	170	
--------	-----	-----	----	----------	----------	-----	-----	--

過去1年計	3736	784	137	19	<u>1</u>	4677	941	
-------	------	-----	-----	----	----------	------	-----	--

平成 22 年 4 月 地震・火山月報（防災編）

5 ページ 下から 8 行目

誤) 2004 年 11 月 29 日 (M7.1、最大震度 4) に発生している。

正) 2004 年 11 月 29 日 (M7.1、最大震度 5 強) に発生している。

29 ページ 諏訪瀬島の説明の次に以下の項目を追加する

いおうとりしま 硫黄島島 [噴火予報 (平常)]

20 日に気象庁地球環境・海洋部が実施した海上からの観測では、島の北側に位置する硫黄岳火口および中央部に位置するグスク火山火口から、従来より認められている噴気が確認された。硫黄岳火口では、前回の観測時 (2010 年 1 月 18 日) と比べて、噴気量は多い状況であった。

その他の状況に特段の変化は認められず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられない。

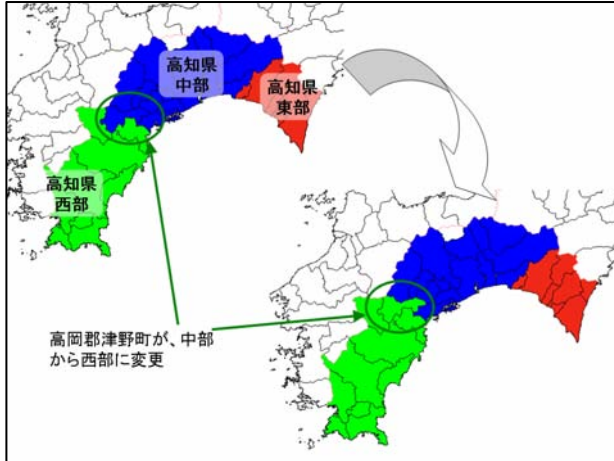
37 ページ 「(1) 概要」の脚注

誤) 中国地震局のHPによると、死者 2,200 人、行方不明者 70 人（5 月 11 日現在）

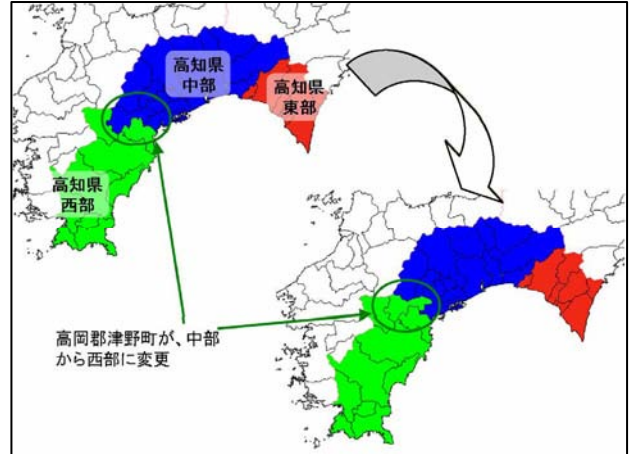
正) 中国地震局のHPによると、死者 2,220 人、行方不明者 70 人（5 月 11 日現在）

56 ページ 「(2) 「高知県中部」及び「高知県西部」の地域の変更」で高知県中部の北側に位置する土佐郡大川村に色が塗られていなかった。

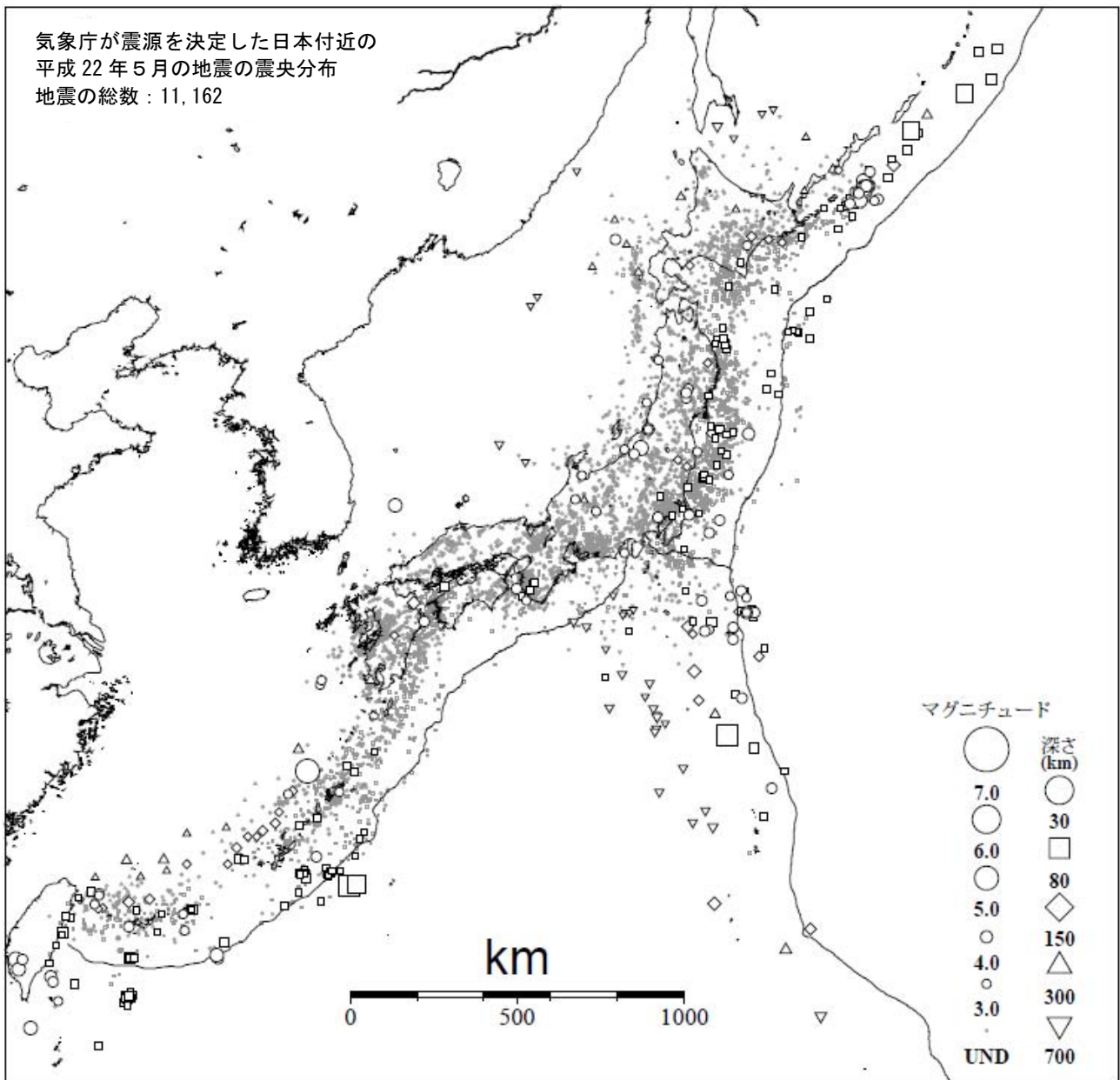
誤)



正)



気象庁が震源を決定した日本付近の
平成 22 年 5 月の地震の震央分布
地震の総数 : 11,162



M3.0 以上の地震の震央を白抜きで示す。